

加須市魅力ある学校づくり基本計画

～未来を担うこどもたちにとって

よりよい教育環境の実現に向けて～

骨子案

令和8年7月時点

教育総務課魅力ある学校づくり推進室

はじめに

「加須市魅力ある学校づくり基本計画」は、令和7年8月に策定した基本方針のもと、こどもたちにとってよりよい教育環境を整え、20年後も存続し続ける持続可能な魅力ある学校づくりを具現化するための計画です。

具体的には、再編の対象となる学校や実施時期、学校形態など、学校再編の具体を示す予定であり、加須市教育委員会の諮問機関である「加須市魅力ある学校づくり審議会」による審議、審議会から答申を受けての教育委員会による協議等を経て、令和8年度中の策定を目指しています。

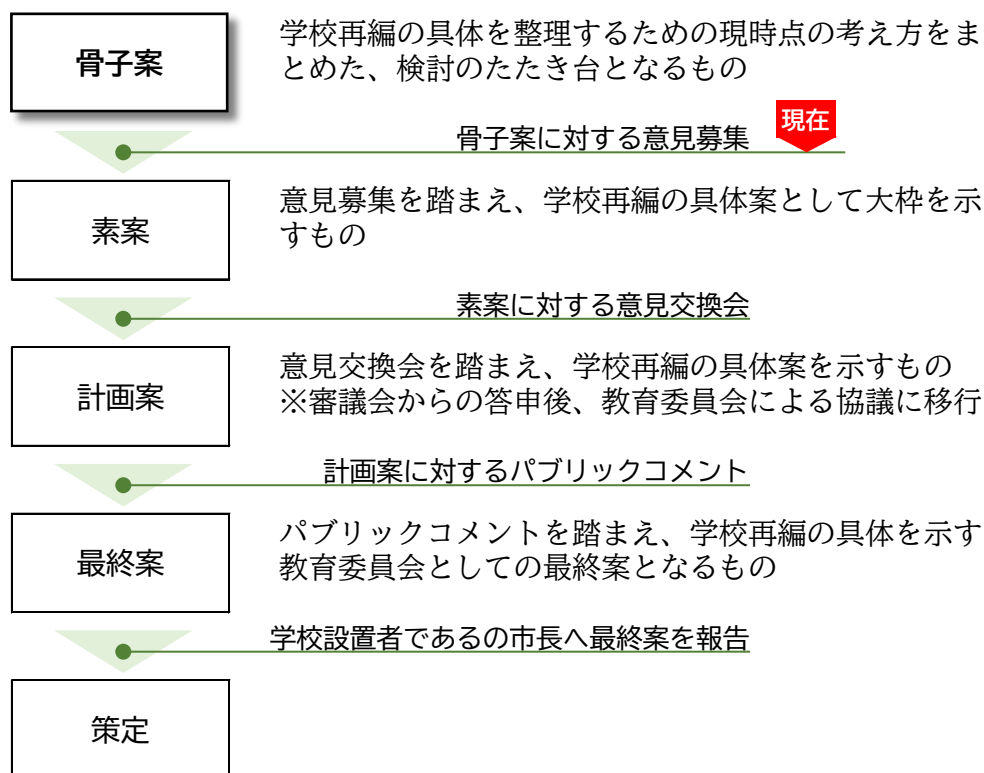
この骨子案は、審議会による協議の状況を踏まえ、学校再編の具体を整理するための現時点の考え方をまとめた、検討のたたき台です。

今後、「骨子案」から、「素案」「計画案」「最終案」という流れの中で、こどもたちはもとより、その保護者や地域住民の方々など、市民の意見等を広く取り入れながら、段階を踏んで進めていきます。

20年後の未来を見据え、こどもたちにとって何が最善かを皆様と一緒に考えることは、こどもたちにとってよりよい教育環境を整える大切な一助となります。

ぜひ、皆様のお考えやご意見等をお寄せください。

□基本計画策定の流れ



【目次】

第1章 基本計画策定に当たって.....	1
1 基本計画策定の目的.....	1
2 基本計画の位置付け.....	1
3 計画の期間と対象.....	2
第2章 持続可能な魅力ある学校づくりに向けて.....	3
1 本市における教育の特色.....	3
2 本市が目指す学校教育の姿「こども像」「魅力ある学校像」.....	3
3 学校規模の方針.....	4
4 学校配置の方針.....	4
5 主な学校形態の概要と特徴.....	5
6 求められる学校教育の姿.....	7
(1)「魅力ある学校像」のイメージの具体化.....	7
(2) 望ましい学級規模・学校規模.....	9
第3章 学校の現状と今後の見込み.....	11
1 児童生徒数の推移と見込み.....	11
2 学校別の児童生徒数及び学級数の現状と見込み.....	12
3 学校規模による教育環境への影響.....	14
4 学校施設の状況.....	15
5 学校の位置及び区域図.....	16
6 各小中学校における将来推計.....	17
(1) 将来推計の概要.....	17
(2) 小学校.....	19
(3) 中学校.....	41
第4章 再編計画.....	49
1 優先順位を見える化するための指標.....	49
2 再編案を検討するためのブロック化.....	50
3 ブロック内優先順位.....	51
4 ブロック別再編案.....	
第5章 考慮すべき事項への対応.....	
1 児童生徒等への配慮.....	
2 安全・安心な通学環境の確保.....	
3 教育における地域と学校の連携.....	
4 地域における拠点機能の継承.....	
5 保護者・地域住民との合意形成.....	
第6章 推進に向けて.....	
1 基本計画策定後の流れ.....	
2 学校再編の進め方.....	

1 基本計画策定の目的

本市においては、全国的な傾向と同様に少子化が進む中、市立小中学校の大半において児童生徒数が減少し小規模化する学校がある一方で、住宅開発などにより児童生徒数が増加している学校もあります。

学校では、これまで小規模校は小規模のよさを、大規模校は大規模のよさを生かしながら、それぞれ特色ある学校づくりに取り組み、こどもたちの学びを高めてきました。

しかしながら、少子化の影響により、22校ある市立小学校の半数は、全ての学年が1クラスの単学級となり、そのうちの1校は2つの学年を1つの学級とする複式学級の編制となるなど、昨今の児童生徒数の減少による学校の小規模化は、こどもの豊かな社会性を育む視点からも憂慮すべき状況です。

そうした中、保護者や地域の方からも今後の小中学校のあり方について懸念する声をいただくようになりました。

こうした状況を踏まえ、令和6年7月には、学校の設置者である加須市長から加須市教育委員会教育長へ、市立小中学校の適正規模・適正配置について検討するよう依頼がありました。

これを受け、加須市教育委員会では、市立小中学校のあり方について具体的な検討を進めてきました。

具体的には、同年8月に「基本方針策定のための基本的な考え方」を決定し、令和7年8月には、本市が目指す学校教育の姿や、こどもたちにとってよりよい教育環境となる学校規模・学校配置及び学校形態等の考え方を示す「加須市魅力ある学校づくり基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定しました。

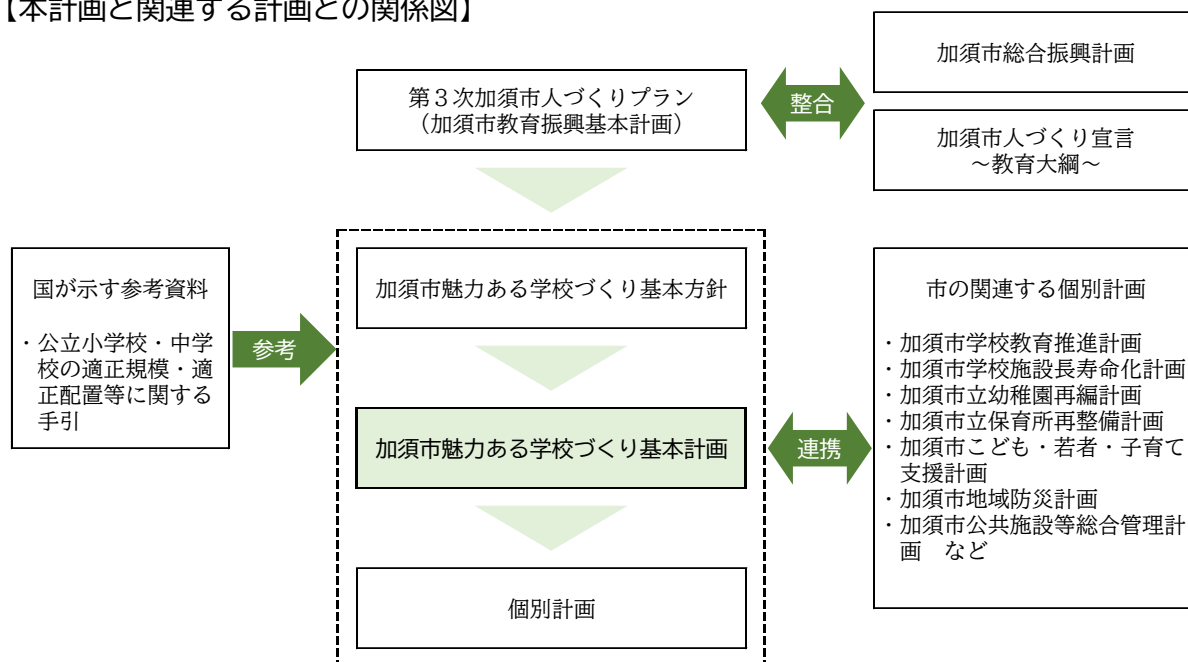
基本方針のもと、こどもたちにとってよりよい教育環境を整え、20年後も存続し続ける持続可能な魅力ある学校づくりを具現化するため、再編の対象となる学校や実施時期、学校形態など学校再編の具体を示す「加須市魅力ある学校づくり基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定します。

2 基本計画の位置付け

本計画は、持続可能な魅力ある学校づくりを進める上での指針となる基本方針のもと、こどもたちにとってよりよい教育環境を整え、「第3次加須市人づくりプラン（加須市教育振興基本計画）」で掲げる基本目標「持続可能な学校づくりの推進」を具現化するための計画です。

また、本計画は、基本計画の次に策定する「個別計画」の基礎となるものであり、計画の推進に当たっては、本市における各種関連計画との連携を図るものとします。

【本計画と関連する計画との関係図】



〔 〕：持続可能な魅力ある学校づくりに関する計画

「基本方針」：本市が目指す学校教育の姿や、こどもたちにとってよりよい教育環境となる学校規模・学校配置及び学校形態等の考え方を示すもの

「基本計画」：再編の対象となる学校や実施時期、学校形態など学校再編の具体を示すもの
基本計画は「骨子案」▶「素案」▶「計画案」▶「最終案」の段階を踏んで策定します。

「個別計画」：再編の対象となる学校のハードとソフトについて、具体的な考え方や取組内容を示すもの

3 計画の期間と対象

計画期間は、令和8年度（2026年度）から令和27年度（2045年度）までの20年間とします。

なお、教育制度の改正や社会情勢の変化、児童生徒数の推計に大きな変動があった場合など、計画に影響を与える変化が生じた場合は、必要に応じて見直しを行います。

本計画の対象は、市立小学校22校及び市立中学校8校とします。

1 本市における教育の特色

本市においては、児童生徒一人一人の資質や能力を育むため、教育の質の充実を図るとともに、学校・家庭・地域が一体となって、本市ならではの強みを生かした特色ある教育である「地域密着型教育」と「保・幼・小中一貫教育」を推進しています。

学びの場を学校だけでなく地域に広げた「地域密着型教育」と、中学校区での学びの連続性を意識した「保・幼・小中一貫教育」は、持続可能な魅力ある学校づくりにおいても、継承すべきものと捉えています。

① 地域密着型教育

全国に先駆け、学校（幼稚園を含む）ごとに組織された学校応援団によって、学習支援や登下校の見守りなど、こどもたちの学校生活が様々な側面から支えられています。

さらに、2025年（令和7年）からコミュニティ・スクールを導入し、全ての小中学校に設置された学校運営協議会によって、地域密着型教育の一層の充実を図ります。

② 保・幼・小中一貫教育

市立幼稚園が小学校に併設・隣接する歴史的背景を生かし、中学校区内において、校種を越えた教育活動やこども同士の交流活動など、市立幼稚園を中心に就学前の教育を担う幼稚園・保育所（園）と小中学校が連携して学びの連続性を意識した一貫性のある教育に取り組んでいます。

2 本市が目指す学校教育の姿「こども像」「魅力ある学校像」

基本方針では、本市における教育の特色である「地域密着型教育」のもと、未来を担うこどもたちにとってよりよい教育環境の実現に向けた、本市が目指す学校教育の姿として、「こども像」「魅力ある学校像」を設定しています。

「魅力ある学校像」は、「こども像」に示した資質や能力を育むための学びの場となる学校の姿を表しています。

学校・家庭・地域・行政が、「こども像」「魅力ある学校像」を共有し、一層の強い絆で結ばれた教育を展開することによって将来を見据えた持続可能な学校の実現を目指します。

こども像

- ① 多様な価値を認め合い、協力しながら、様々な課題の解決に取り組み、たくましく生きるこども
- ② 思いやりやさしさを持ち、家族や友達、地域との絆を大切にすることも
- ③ 夢や希望を持ち、目標に向かって、はつらつと学び、主体的に行動することも

魅力ある学校像

- ① こどもたちが学ぶ楽しさや喜びを実感し、学びを通して豊かな社会性を育む学校
- ② 教職員がともに高め合い、こどもたちの日々の成長を喜び合う学校
- ③ 保護者や地域の人たちが信頼を寄せ、地域から愛される、地域とともに歩む学校
- ④ 安全・安心で、笑顔あふれる学校

3 学校規模の方針

児童生徒は、学校という環境において、様々な考えに触れ、認め合い、協力し合い、高め合うなど、多様な人間関係の中で人と関わりながら学び、その学びを通して社会性を育んでいきます。そのため、学校においては、一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えます。

基本方針では、未来を担うこどもたちにとってよりよい教育環境となる「学校規模の方針」を以下のとおり定め、学校全体として「望ましい学級数の目安」と「少なくとも必要な学級数の目安」の2つを設定しています。

学校規模の方針

「望ましい学級数の目安」を目指しつつも、「少なくとも必要な学級数の目安」を重視し、今後20年を見据えた持続可能な学校規模を検討します。

望ましい学級数の目安	<u>小学校12学級以上 中学校9学級以上</u> ※多様な人間関係を築くことのできるクラス替えが可能となる目標の目安となるもの
少なくとも必要な学級数の目安	<u>小学校6学級以上 中学校3学級以上</u> ※小学校・中学校とも複式学級をできるだけ回避する最低限の目安となるもの

4 学校配置の方針

本市は、市の周辺部に稲作地域が広がる一方で、その一部では住宅開発が進むなど、広大な市域に対し一様ではない人口分布となっています。

また、利根川と鉄道により市域を南北に隔てられている地理的特性を有しています。

国が参考として示す「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、通学距離や通学時間の目安を示しつつも、学校の位置や学区の決定等に当たっては、児童生徒の負担面や安全面などに配慮し、地域の実態を踏まえた適切な通学条件や通学手段が確保されるようにする必要がありますとしています。

基本方針では、本市の実情なども踏まえ、未来を担うこどもたちにとってよりよい教育環境となる「学校配置の方針」を以下のとおり定め、基本となる3つの考え方を設定しています。

学校配置の方針

「学校規模の方針」とともに、以下の3つの考え方に基づき、今後20年を見据えた持続可能な学校配置を勘案し、学校再編に向けた方策を検討します。

- ① 国が示す通学距離、通学時間（※）に関する考え方も参考とする。
- ② 必ずしも行政区やこれまでの通学区域に捉われない全市的視野に立つとともに、学校施設の老朽化等への対応状況や地域特性などを勘案する。
- ③ 保護者や地域住民との十分な合意形成を基本に、対象となる市立小中学校のうち小規模化が顕著な小学校を最優先に順次進める。

※通学距離、通学時間に関する市としての考え方については、児童生徒の心身の負担や通学時の安全確保、本市の地理的特性などを踏まえ、今後、具体的な検討を進めます。

5 主な学校形態の概要と特徴

こどもたちにとってよりよい教育環境を整え、20年後も存続し続ける持続可能な魅力ある学校づくりの具現化は、「学校規模の方針」「学校配置の方針」に基づき進めていくものですが、全市的視野に立って、児童生徒の教育環境、学校や地域の実情などを考慮し、新たな学校形態の導入の可能性も含めた対応も必要です。

主な学校形態の概要と特徴については、以下のとおりです。

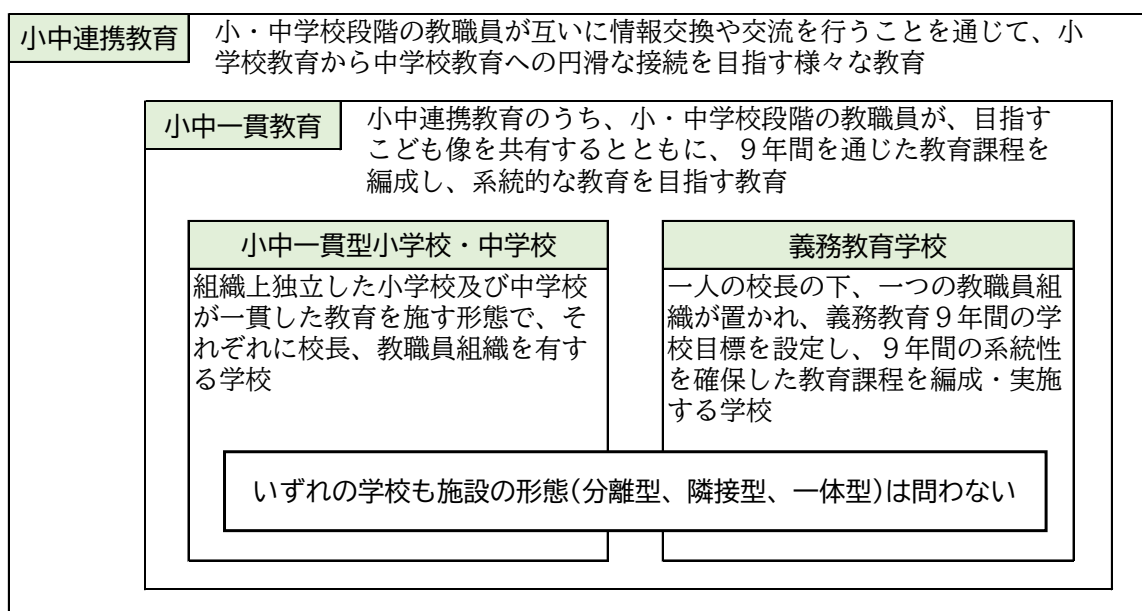
① 小中一貫型小学校・中学校及び義務教育学校

ア 小中一貫教育制度における形態

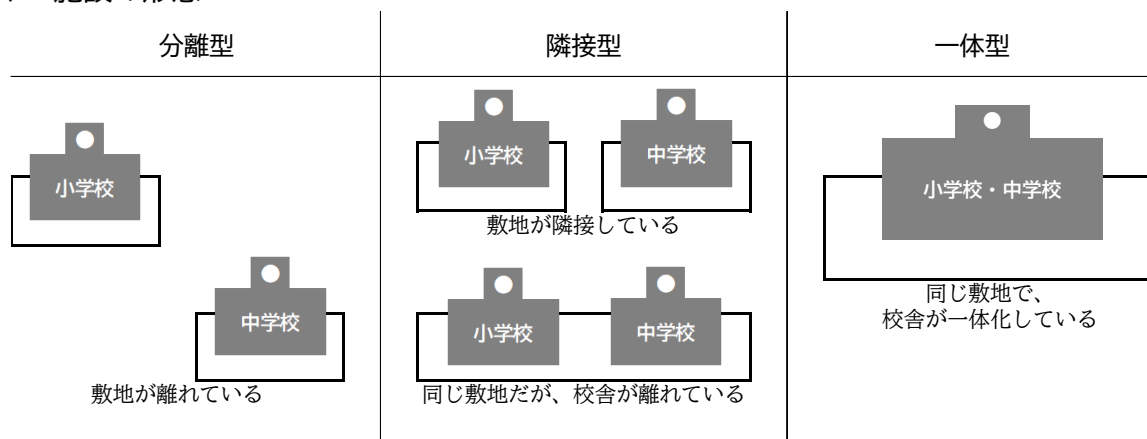
「小中一貫教育」は、「小中連携教育」のうちの一つであり、小中一貫教育を行う学校は、「小中一貫型小学校・中学校」と「義務教育学校」に分けられます。

施設の形態は、小中一貫型小学校・中学校、義務教育学校のいずれの学校も、施設分離型や施設隣接型、施設一体型といった形態は問いません。

※なお、本市における小中一貫教育の取組は、「小中連携教育」に該当します。



イ 施設の形態

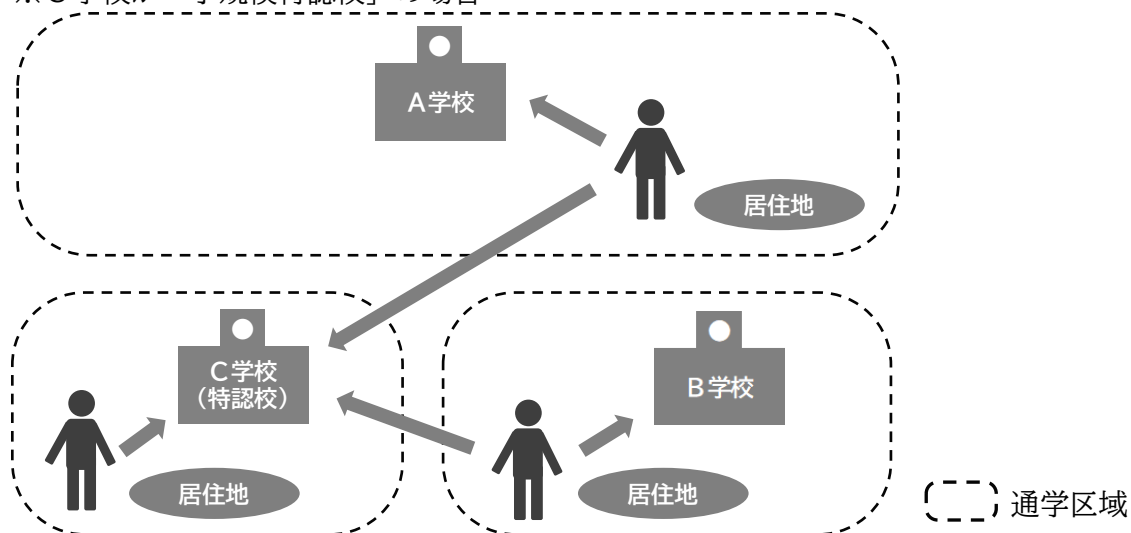


② 小規模特認校

小規模特認校制度は、学校選択制の一つである特認校制を小規模校で実施するもので、特定の学校を「特認校」として市が指定し、少人数での教育の良さを生かした、きめ細やかな指導や特色ある教育を行うものです。

このような環境での教育を保護者や児童生徒が希望する場合は、従来の通学区域を残したままで、学校選択制の一つとして市内のどこからでも就学を認めるものです。

※C学校が「小規模特認校」の場合



③ 学びの多様化学校

学びの多様化学校とは、不登校児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成して教育を実施する文部科学省指定の学校です。

独自の教科を新設したり、授業時間数を柔軟に調整したりできる点が特徴です。

一般の小学校・中学校、高等学校と同様に卒業資格が得られます。

6 求められる学校教育の姿

(1)「魅力ある学校像」のイメージの具体化

基本方針で掲げる「魅力ある学校像」は、本市が目指す学校の姿となるものです。

目指す姿を市民と共有し、持続可能な魅力ある学校づくりを進めるため、審議会での協議や校長・教員の考えなどを踏まえ、「魅力ある学校像」のイメージを具体化しました。

1

こどもたちが学ぶ楽しさや喜びを実感し、学びを通して豊かな社会性を育む学校

確かな学力の定着

イラスト

「わかった!」「できた!」を実感し、深い学びにつなげる

主体的な学び

イラスト

こどもたちが自ら興味を持って学び、その楽しさや喜びを実感できる環境

学年・学校を超えた交流

イラスト

異学年や他校との交流を通じ、上級生はリーダーシップを発揮し、下級生のお手本となる

協働的な学び（グループ学習）

イラスト

多様な考えや意見に触れ、互いに認め、支え合いながら学びを深める

協働的な学び（体験・校外学習）

イラスト

観察や実験、学校の内外での体験から、「もっと知りたい!」が生まれる

2

教職員がともに高め合い、こどもたちの日々の成長を喜び合う学校

喜びや感動の共有

イラスト

教員がこどもに寄り添い、学びを深めることで、こどもの確かな成長を喜び合う

指導体制の充実

イラスト

多様な世代が協働する職場環境のもと、複数・教科担任制を通じて、組織全体でこどもの成長を支える

教職員同士の学び合い・支え合い

イラスト

先輩や管理職へ気軽に相談できる安心感のもと、教員が互いに学び、高め合える職場づくり

多様な人材との連携

イラスト

地域で活躍する方々や外部講師との連携による授業を通じて、学びの幅を広げる

ゆとりのある職場、多様な働き方

イラスト

教員が心にゆとりを持ち、こどもたち一人一人とじっくり向き合える環境

3

保護者や地域の人たちが信頼を寄せ、地域から愛される、地域とともに歩む学校

地域との連携・協働

イラスト

学校が核となって地域をつなぎ、地域の人材を活用した教育活動を展開する

地域の見守り

イラスト

地域の方による登下校時のあいさつや見守り活動を通じて、子どもと地域が「顔の見える関係」を育む

学校・地域の相互交流

イラスト

学校と地域が行事への参加や施設訪問などの交流を通じて、相互理解と信頼関係を深める

学校施設の開放

イラスト

災害時だけでなく、日常的に地域住民が集い交流する開かれた学校づくり

地域への情報発信・意見交換

イラスト

地域への丁寧な情報発信や、学校運営協議会など意見交換の場の充実

4

安全・安心で、笑顔あふれる学校

活気のある学校生活

イラスト

元気なあいさつが響き合う、笑顔あふれる学校生活

安全で快適な学校施設の充実

イラスト

施設の老朽化への対応など、子どもたちが心身ともに安心して学べる快適な学校環境

安全・安心な通学環境

イラスト

地域と連携した見守りや声かけなどの通学支援による子どもたちが安心して登下校できる環境

ダイバーシティの尊重・推進

イラスト

障害や国籍の垣根を越え、多様な子どもたちがともに楽しく学ぶ

居場所がある学校

イラスト

全ての子どもたちが、自分の居場所があると感じられる学校づくり

(2) 望ましい学級規模・学校規模

当事者であるこどもたちの声はもとより、教員の考えや意見を大切にすることが重要です。

そのため、令和7年には基本方針の策定に際して「児童生徒アンケート調査」を、令和8年には基本計画の策定に際して「校長・教員アンケート調査」を実施しました。

これらの調査では、望ましい学級規模・学校規模について伺っており、調査結果は以下のとおりです。

① 「児童生徒アンケート調査」の結果（抜粋）

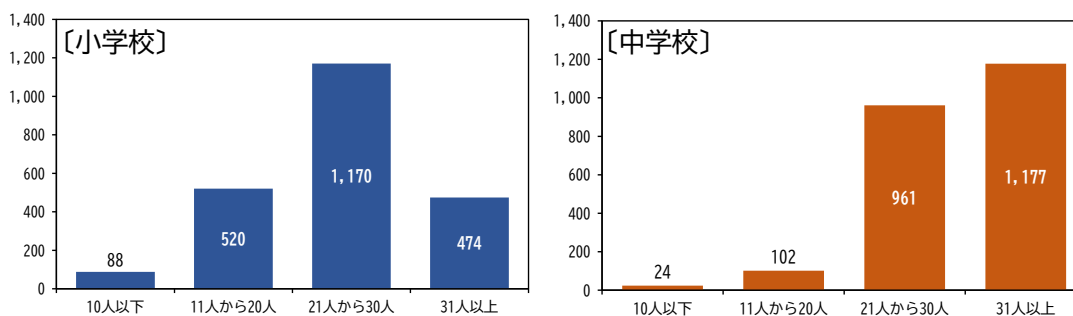
※調査結果の詳細は、市ホームページで公表しています。

「加須市魅力ある学校づくりに関する児童生徒アンケート調査結果」

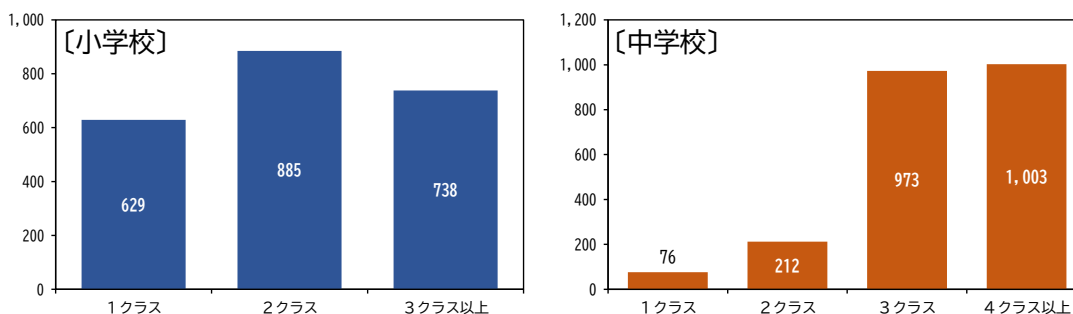


https://www.city.kazo.lg.jp/kosodate_kyoiku/gakkokyoiku/2/11/kihonhoushin/41886.html

ア 1学級当たりの望ましい児童数・生徒数



イ 1学年当たりの望ましい学級数



ウ 調査結果のまとめ

1学級当たりの望ましい児童数・生徒数については、小学校で多かった回答は「21人から30人」、中学校で多かった回答は「21人から30人」「31人以上」という結果でした。

1学年当たりの望ましい学級数については、小学校で多かった回答は「2クラス」ですが回答に大きな差はなく、中学校で多かった回答は「3クラス」「4クラス以上」という結果でした。

② 「校長・教員アンケート調査」の結果（抜粋）

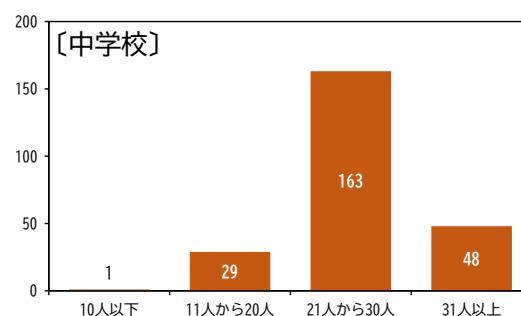
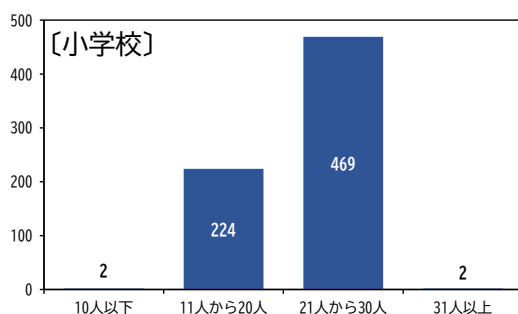
※調査結果の詳細は、市ホームページで公表しています。

「加須市魅力ある学校づくりに関する校長・教員アンケート調査結果」

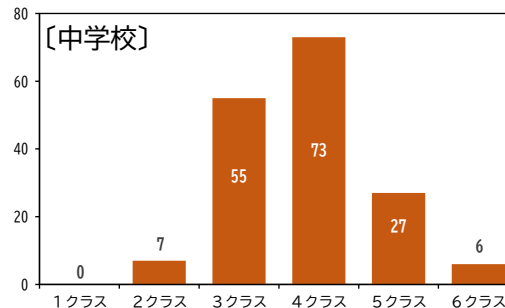
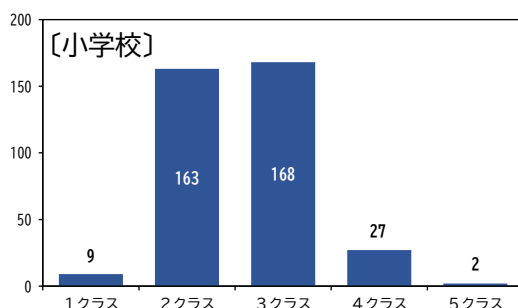


https://www.city.kazo.lg.jp/kosodate_kyoiku/gakkokyoiku/2/11/kihonkeikaku/44771.html

ア 1学級当たりの望ましい児童数・生徒数



イ 1学年当たりの望ましい学級数



ウ 調査結果のまとめ

1学級当たりの望ましい児童数・生徒数については、小学校、中学校ともに多かった回答は「21人から30人」という結果でした。

1学年当たりの望ましい学級数については、小学校で多かった回答は「2クラス」「3クラス」、中学校で多かった回答は「3クラス」「4クラス」という結果でした。

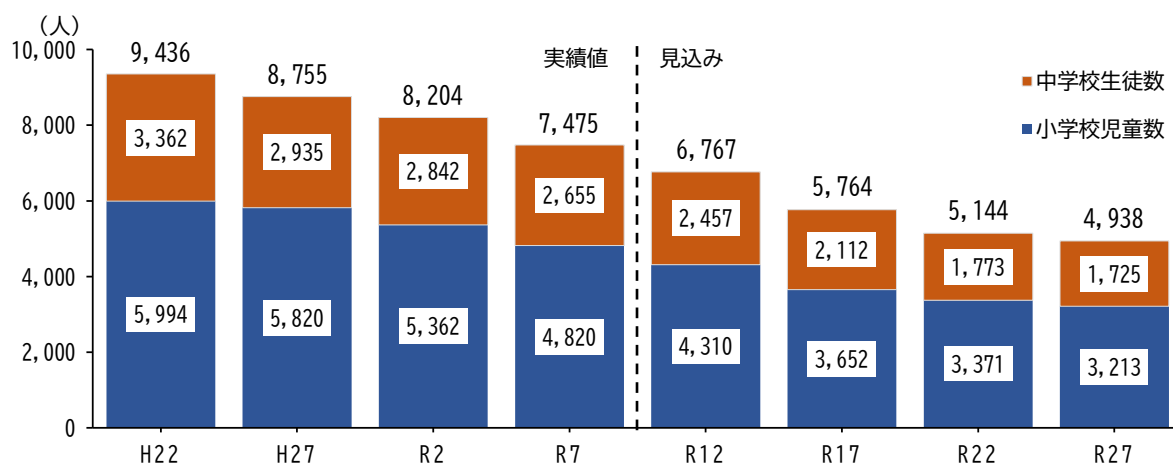
第3章

学校の現状と今後の見込み

1 児童生徒数の推移と見込み

令和7年の児童生徒数は7,475人となっており、平成22年から減少傾向が続いています。

20年後の令和27年の児童生徒数は令和7年と比べて約34%減の4,938人となり、減少傾向が続く見込みです。



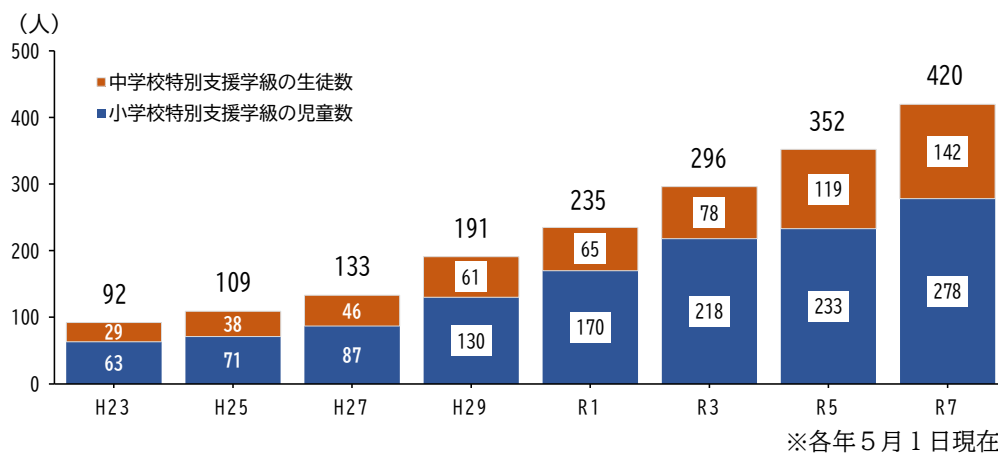
※令和7年以前は各年5月1日現在の在籍児童生徒数

※令和12年以降の見込みは、令和7年5月1日現在の住民基本台帳人口を基準人口として、コーホート要因法により推計（推計方法は17ページ参照）

〔特別支援学級における児童生徒数の推移〕

児童生徒数が減少傾向にある中、特別支援学級に在籍する児童生徒数は、令和7年には420人となっており、平成23年以降一貫して増加傾向にあります。

全児童生徒数に対して占める割合は、平成23年の約1%から令和7年には約6%まで上昇しています。



※各年5月1日現在

2 学校別の児童生徒数及び学級数の現状と見込み

① 小中学校の学校別児童生徒数及び学級数

各小中学校の児童生徒数及び学級数の現状と見込みは以下のとおりです。

20年後となる令和27年には、全ての学校において児童生徒数が減少する見込みではあるものの、減少の度合いは学校によって大きな差が見られます。

学校名	令和7年 ※1							令和27年 ※3		児童数の比較	
	児童数			学級数			教職員数 ※2	児童数	学級数	R27-R7	増減割合
	通常学級	特別支援	計	通常学級	特別支援	計					
小学校	加須小学校	343	24	367	12	4	16	26	172	6	▲ 195 ▲53.1%
	不動岡小学校	182	5	187	7	2	9	16	76	6	▲ 111 ▲59.4%
	三俣小学校	488	22	510	16	4	20	30	374	12	▲ 136 ▲26.7%
	礼羽小学校	272	18	290	12	3	15	24	231	12	▲ 59 ▲20.3%
	大桑小学校	444	28	472	15	4	19	29	378	12	▲ 94 ▲19.9%
	水深小学校	596	43	639	20	7	27	40	533	18	▲ 106 ▲16.6%
	樋遣川小学校	80	5	85	6	2	8	15	44	4	▲ 41 ▲48.2%
	志多見小学校	85	10	95	6	2	8	14	60	6	▲ 35 ▲36.8%
	大越小学校	37	1	38	4	1	5	11	8	3	▲ 30 ▲78.9%
	花崎北小学校	210	17	227	8	3	11	19	194	6	▲ 33 ▲14.5%
	加須南小学校	143	9	152	6	2	8	13	57	6	▲ 95 ▲62.5%
	騎西小学校	190	9	199	8	2	10	17	174	6	▲ 25 ▲12.6%
	田ヶ谷小学校	121	8	129	6	3	9	16	56	6	▲ 73 ▲56.6%
	種足小学校	111	7	118	6	2	8	14	49	6	▲ 69 ▲58.5%
	鴻荃小学校	80	4	84	6	2	8	15	47	5	▲ 37 ▲44.0%
	高柳小学校	222	6	228	11	2	13	21	146	6	▲ 82 ▲36.0%
	北川辺西小学校	140	8	148	6	2	8	14	41	4	▲ 107 ▲72.3%
	北川辺東小学校	135	10	145	6	2	8	15	66	6	▲ 79 ▲54.5%
	大利根東小学校	188	25	213	7	4	11	20	152	6	▲ 61 ▲28.6%
	原道小学校	83	8	91	6	2	8	15	14	3	▲ 77 ▲84.6%
	豊野小学校	80	2	82	6	1	7	13	33	4	▲ 49 ▲59.8%
	元和小学校	312	9	321	13	2	15	23	308	12	▲ 13 ▲4.0%
	計	4,542	278	4,820	193	58	251	420	3,213	155	▲ 1,607 ▲33.3%
中学校	昭和中学校	563	29	592	15	6	21	43	340	12	▲ 252 ▲42.6%
	加須西中学校	305	18	323	10	3	13	28	204	6	▲ 119 ▲36.8%
	加須東中学校	386	12	398	12	2	14	28	370	12	▲ 28 ▲7.0%
	加須北中学校	83	2	85	3	1	4	13	28	3	▲ 57 ▲67.1%
	加須平成中学校	287	22	309	9	3	12	26	211	8	▲ 98 ▲31.7%
	騎西中学校	381	34	415	11	7	18	32	248	9	▲ 167 ▲40.2%
	北川辺中学校	202	7	209	6	2	8	17	62	3	▲ 147 ▲70.3%
	大利根中学校	306	18	324	9	4	13	25	262	9	▲ 62 ▲19.1%
	計	2,513	142	2,655	75	28	103	212	1,725	62	▲ 930 ▲35.0%

※1 令和7年5月1日現在

※2 教職員数は、校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員の人数

※3 令和27年の学級数は、特別支援学級に在籍する全ての児童生徒が通常学級に在籍するものとして算出

② 小中学校の学級数別分布図

以下の図は、令和7年（現状）と令和27年（見込み）の学校別学級数の分布を示したものです。

横軸の学級数は、基本方針で定めた学校規模の方針をもとに、「複式学級の編制」「少なくとも必要な学級数」「望ましい学級数」の3区分で整理しています。

〔小学校〕

2つの学年を1つの学級とする複式学級が存在する学校は、令和7年の1校から令和27年には6校と大幅に増加する見込みです。

また、「少なくとも必要な学級数」である6学級から11学級までの学校は、令和7年の15校から令和27年には11校となり、その全てが全学年でクラス替えができない単学級の編制となる見込みです。

令和7年 ※1	1校					15校											6校									
						樋達川 志多見 加須南 田ヶ谷 種足 鴻基 北川辺西 北川辺東 原道 不動岡 花崎北 豊野 大利根東 騎西											加須 礼羽 元和 大桑 三俣 水深									
						高柳																				
	大越																									
						望ましい学級数																				
学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20						
	複式学級の編制					少なくとも必要な学級数											望ましい学級数									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20						
令和27年 ※2						加須 礼羽 大桑 元和																				

〔中学校〕

令和27年に複式学級の編制となる学校はないものの、「少なくとも必要な学級数」である3学級から8学級までの学校は、令和7年の2校から令和27年には4校となり、そのうち2校は全学年でクラス替えができない単学級の編制となる見込みです。

また、「望ましい学級数」である9学級以上の学校は、令和7年の6校から令和27年には4校となる見込みです。

	0校		2校						6校											
令和7年 ※1									加須平成 大利根 加須西 騎西 加須東						昭和					
学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	複式学級の編制		少なくとも必要な学級数						望ましい学級数											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
令和27年 ※2			加須北 北川辺			加須西			加須平成 騎西 大利根				昭和 加須東							
	0校		4校						4校											

※1 令和7年5月1日現在

※2 令和27年の学級数は、特別支援学級に在籍する全ての児童生徒が通常学級に在籍するものとして算出

3 学校規模による教育環境への影響

本市の取組として、児童数が減少し小規模化する学校では、保・幼・小中の縦のつながりに加えて、小・小連携による交流学习により横のつながりを深めるなど、指導方法や授業形態の工夫・改善をしながら、こどもたちの学びが豊かになるよう努めています。

学校には、その規模に応じたメリットとデメリットがそれぞれあります。小規模校には、以下の表のとおり児童生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい等の利点がある一方、社会性の育成に制約が生じる等の課題があるとされています。

特に複式学級となる場合では、直接指導と間接指導（こどもたちのみで学習を進めること）を組み合わせることが多いことから、教員に特別な指導技術が求められるなど、教員の負担が大きいとされています。

このような中、本市においては、これまで複式学級となった小学校に対しては、市独自に教員を配置し、教員の負担の軽減を図ってきました。

小規模校の「よさ」と「課題」

よさ	課題
・一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、きめ細かな指導が行いやすい。 ・意見や感想を発表できる機会が多くなる。 ・一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。 ・運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。 ・教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。 ・異年齢の学習活動を組みやすい。 ・地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を生かした教育活動が展開しやすい。 ・保護者や地域との連携が図りやすい。	・クラス替えが全部又は一部の学年でできない。 ・運動会などの集団活動や、体育科・音楽科などの集団学習の実施に制約が生じる。 ・班活動やグループ分けに制約が生じる。 ・集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。 ・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。 ・協働的な学びの実現に制約が生じ、多様な考え方に触れることが難しい。 ・児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。 ・教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

※「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」参照

市立小中学校の校長・教員を対象に実施した「校長・教員アンケート調査」では、学校規模について伺っており、複数クラスを望ましいとする主な意見は、以下のとおりです。

小学校	・切磋琢磨しながら学習や運動に取り組み、交友関係の面からも良いと思う。 ・単学級だと固定した人間関係になり、問題を引きずる傾向にある。 ・担任同士で授業のやり方や指導の仕方について意見交換ができる。 ・教員間での多面的な情報共有に基づく、安定した学年運営が可能になる。
中学校	・毎年様々な仲間と交流でき、思春期的人格形成にも良い影響を与えられると思う。 ・学級対抗等、よい意味での競争意識を持たせることは大切である。 ・人間関係でトラブルがあったとき、クラス編成により解消・配慮がしやすい。 ・学習面での柔軟な指導体制を整えやすい。

4 学校施設の状況

本市では、昭和 40 年代から 50 年代にかけて整備された学校施設が多く、校舎の代表建築年から 40 年を経過する学校施設は、全体の約 7 割を占めています。

老朽化が進むこれらの施設に対し、市では計画的な大規模改修を行うとともに、日常的な修繕や部分改修を行うことで、安全性の維持や防犯、衛生環境の確保に努めています。

施設名		用地・施設面積(㎡) ※1			保有教室数 ※1		施設の整備状況		
		校地面積	校舎等 延床面積	屋内運動 場等延床 面積	普通教室	特別教室 関係	校舎の代 表建築年	経過年数 ※2	長寿命化 改良工事 等の履歴
小学校	加須小学校	20,716	6,151	1,043	16	13	S51	50	H23大規模
	不動岡小学校	17,650	2,778	732	9	5	S45	56	R4大規模
	三俣小学校	18,669	4,030	993	20	10	S46	55	H19大規模
	礼羽小学校	15,685	4,101	730	15	8	S48	53	R7長寿命化
	大桑小学校	21,175	4,682	1,245	19	7	S54	47	H25大規模
	水深小学校	20,666	4,868	1,253	27	6	S49	52	H17大規模
	樋遣川小学校	15,962	2,874	732	8	6	S51	50	H22大規模
	志多見小学校	17,372	3,211	781	8	8	S61	40	—
	大越小学校	17,274	1,964	725	5	5	S54	47	H26大規模
	花崎北小学校	21,949	5,807	1,078	11	18	H4	34	—
	加須南小学校	26,289	5,326	931	8	9	H10	28	—
	騎西小学校	13,461	3,663	582	10	9	S54	47	H17大規模
	田ヶ谷小学校	15,156	2,737	583	9	5	S58	43	R2大規模
	種足小学校	15,902	3,664	602	8	10	S60	41	—
	鴻荃小学校	16,851	3,522	536	8	8	S57	44	H19大規模
	高柳小学校	17,983	3,442	536	13	5	S58	43	R8長寿命化予定
	北川辺西小学校	19,750	4,024	883	8	12	H9	29	—
	北川辺東小学校	17,874	3,681	1,049	8	13	H6	32	H22改築
	大利根東小学校	21,600	4,104	1,177	11	9	S52	49	H27大規模
	原道小学校	22,714	2,693	832	8	5	H元	37	—
	豊野小学校	14,469	2,882	803	7	5	S62	39	—
	元和小学校	20,068	4,998	895	15	9	H2	36	R6増築
中学校	昭和中学校	26,011	7,246	1,731	21	17	S53	48	H29大規模
	加須西中学校	29,712	5,894	1,883	13	13	S57	44	R9長寿命化予定
	加須東中学校	27,112	6,632	1,635	14	17	S62	39	—
	加須北中学校	30,736	2,986	755	4	10	S44	57	H20大規模
	加須平成中学校	28,675	6,330	1,379	12	17	H8	30	—
	騎西中学校	31,271	6,866	1,471	18	18	S52	49	H20大規模
	北川辺中学校	44,163	6,059	1,645	8	17	S58	43	R3複合化
	大利根中学校	31,824	7,240	2,595	13	18	S60	41	—

※1 出典：令和 7 年度 学校施設台帳

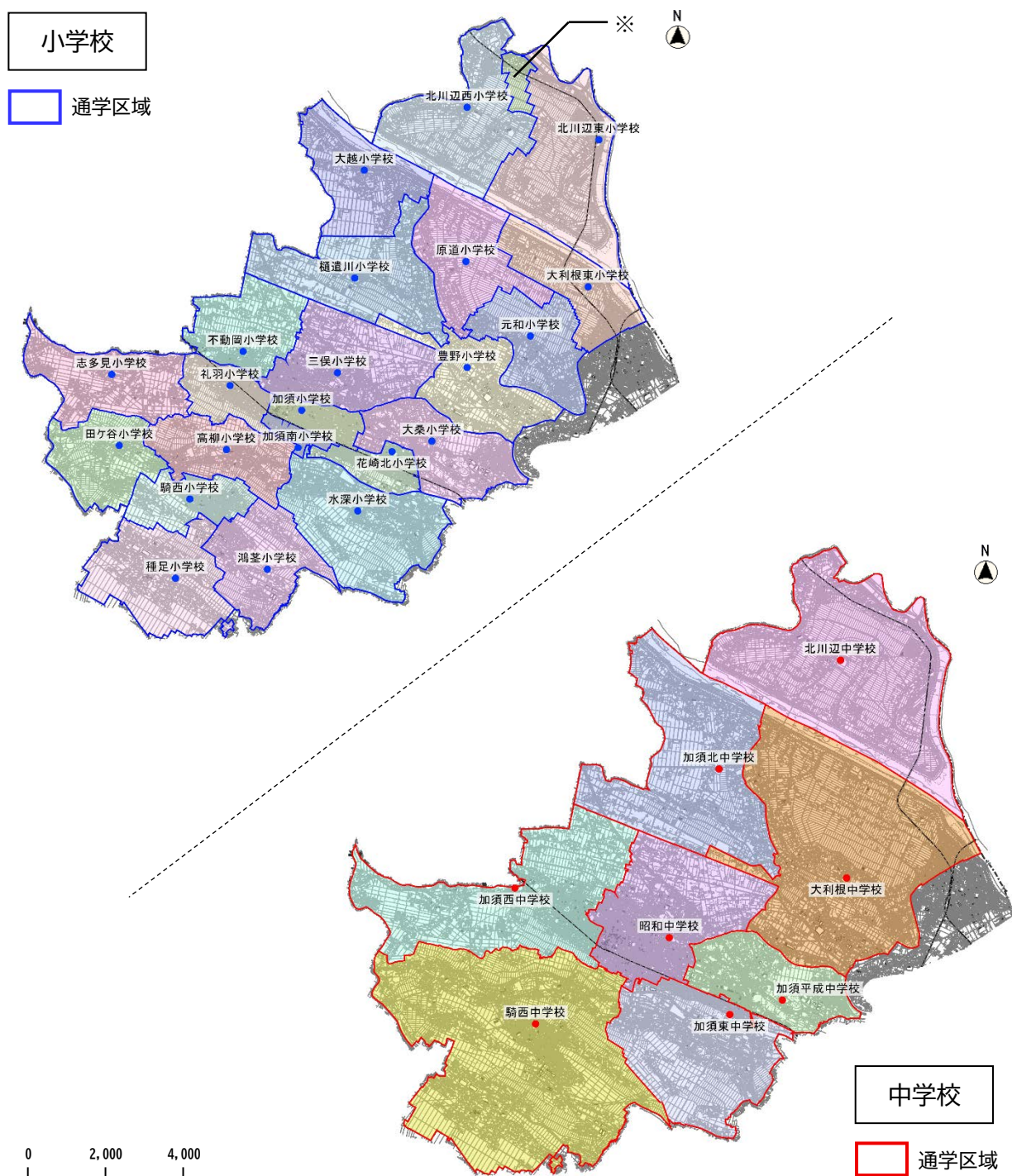
※2 令和 8 年 4 月 1 日現在、校舎の代表建築年から 40 年経過の学校

5 学校の位置及び区域図

市内には、市立小学校 22 校（加須地域 11 校、騎西地域 5 校、北川辺地域 2 校、大利根地域 4 校）、市立中学校 8 校（加須地域 5 校、3 地域各 1 校）の計 30 校が設置されています。

以下の図は、各学校の位置と通学区域を小学校・中学校別にまとめたものです。

なお、図中の通学区域の学区境は目安として示しています。



※希望により北川辺西小学校又は北川辺東小学校のいずれかに通学することができる「調整区域」

6 各小中学校における将来推計

(1) 将来推計の概要

①児童生徒数及び学級数の推計方法

推計に当たっては、以下のとおり、はじめに学区別・男女別・年齢別人口の推計を行い、この推計人口を基に児童生徒数及び学級数を推計しました。

【推計の流れ】

①人口推計

- ・令和7年5月1日現在の住民基本台帳人口を基準人口として、コーホート要因法※により、令和27年までの20年間の学区別・男女別・年齢別人口（男性0～14歳、女性0～49歳）を推計
 - ・この推計結果のうち、各小学校区の6～11歳の人口を小学校区の学齢人口として、各中学校区の12～14歳の人口を中学校区の学齢人口として算出
- ※コーホート要因法は、自然動態（出生、死亡）と社会動態（転入、転出）の2つの「人口変動要因」を加味して推計する方法

②就学率の算出

- ・住民基本台帳の学区別学齢人口に対する各学校の在籍児童生徒数の比率から、学校別の就学率を算出

③児童生徒数の算出

- ・①で算出した学区別の推計学齢人口（6～14歳）に学校別の就学率を掛けることにより、学校別・学年別児童生徒数を算出

④市の総合振興計画で示す人口推計との調整

- ・学区単位ごとの推計値を積み上げた本推計値と、総合振興計画で示す人口推計値に開きがあったことから、本市の最上位計画である総合振興計画の推計値に合わせ調整

⑤学級数の算出

- ・④で調整した学校別・学年別の児童生徒数から、学年別の学級数を算出
- ※小学校は全学年35人学級を基準に学級数を算出
- ※中学校は1年生38人学級、2・3年生40人学級を基準に、令和8年度より1年生から35人学級に順次移行し、令和10年度に全学年35人学級になるものとして学級数を算出
- ※2つの学年を1つの学級とする複式学級は、学級編制基準で示す小学校16人以下（1年生を含む場合は8人以下）、中学校8人以下により算出

②将来推計の見方

児童（生徒）数の推移と見込み

この図は、児童（生徒）数の推移と将来の見込みを示しています。

実績値は15年前の平成22年から令和7年までを、推計値は令和7年を基準として20年後となる令和27年までを、5年単位で示しています。

望ましい学級数

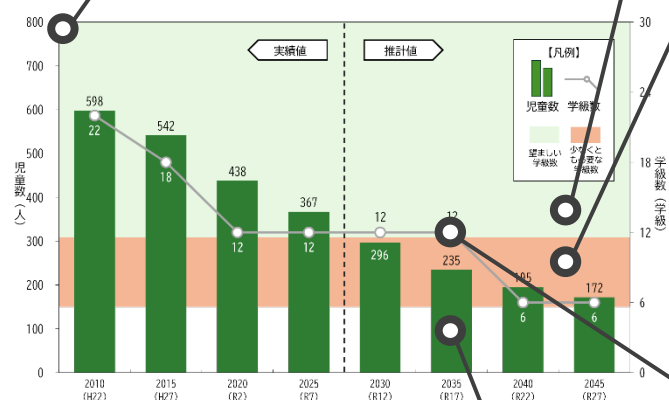
緑色の背景は、基本方針で示す「望ましい学級数の目安」の範囲を表しています。

少なくとも必要な学級数

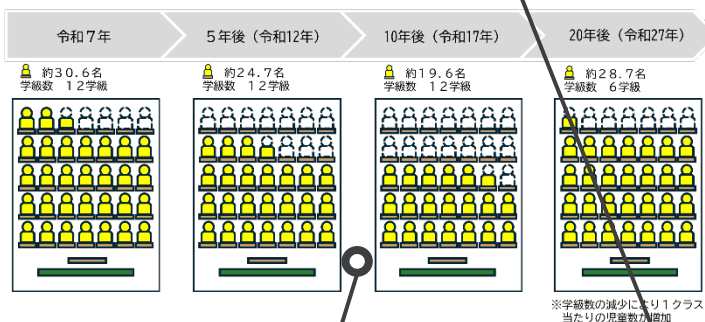
赤色の背景は、基本方針で示す「少なくとも必要な学級数の目安」の範囲を表しています。

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約6割まで減少した。今後も減少傾向は続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約5割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の22学級から令和7年には12学級へと減少した。令和27年（15年後）には、さらに6学級まで減少し、全学年が単学級となる見込みである。



イ 1クラス当たりの児童数見込み



学級数

折れ線グラフで示した学級数は、特別支援学級を除いた通常学級数です。

令和12年以降の学級数は、以下の内容を前提に算出しています。

〔小学校〕

全学年 35 人学級として算出

〔中学校〕

全学年 35 人学級として算出

〔特別支援学級の取扱い〕

特別支援学級に在籍する全ての児童（生徒）が、通常学級に在籍するものとして算出

1クラス当たりの児童（生徒）数の見込み

5年後、10年後、20年後の児童（生徒）数の変化を、教室のイラストを使って示しています。

児童（生徒）数

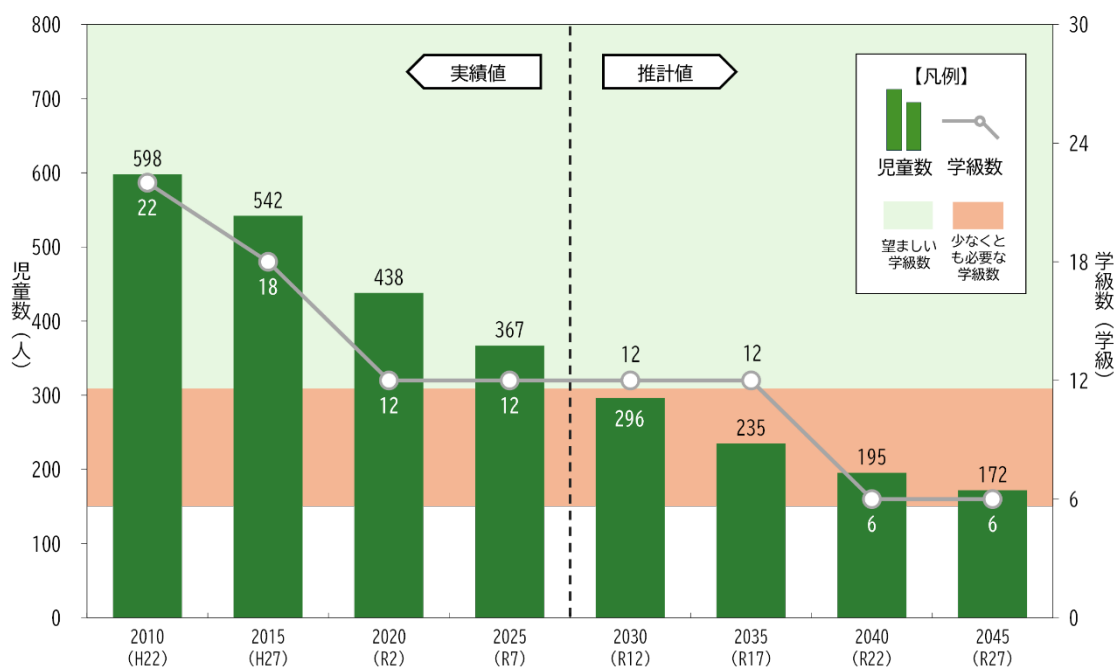
棒グラフで示した児童（生徒）数は、特別支援学級の児童（生徒）を含む在籍児童（生徒）数です。

(2) 小学校

①加須小学校

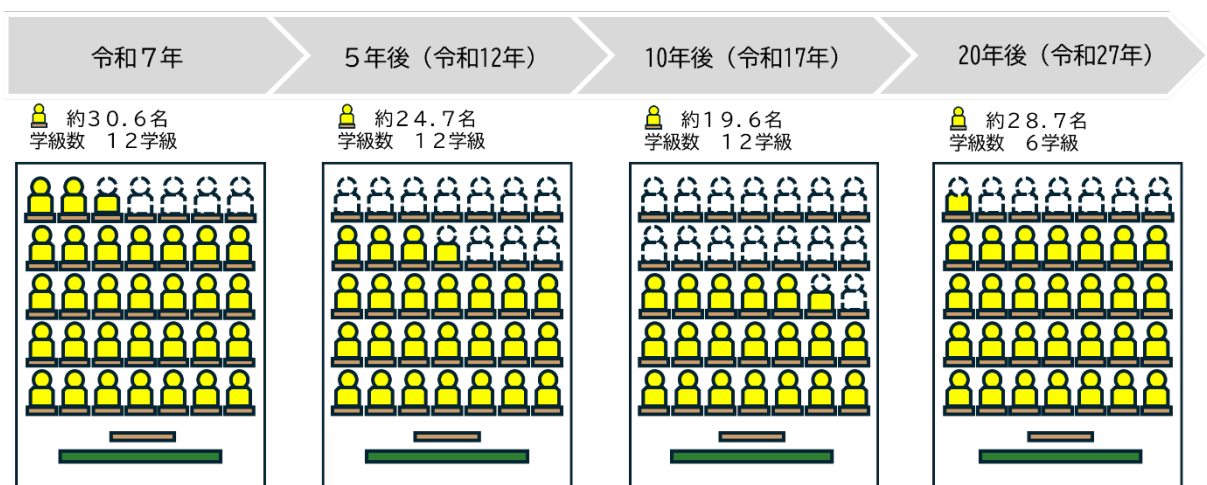
ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約6割まで減少した。今後も減少傾向は続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約5割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の22学級から令和7年には12学級へと減少した。令和22年（15年後）には、さらに6学級まで減少し、全学年が単学級となる見通しである。



※令和12年以降の学級数は、特別支援学級に在籍する全ての児童が通常学級に在籍するものとして算出

イ 1クラス当たりの児童数見込み

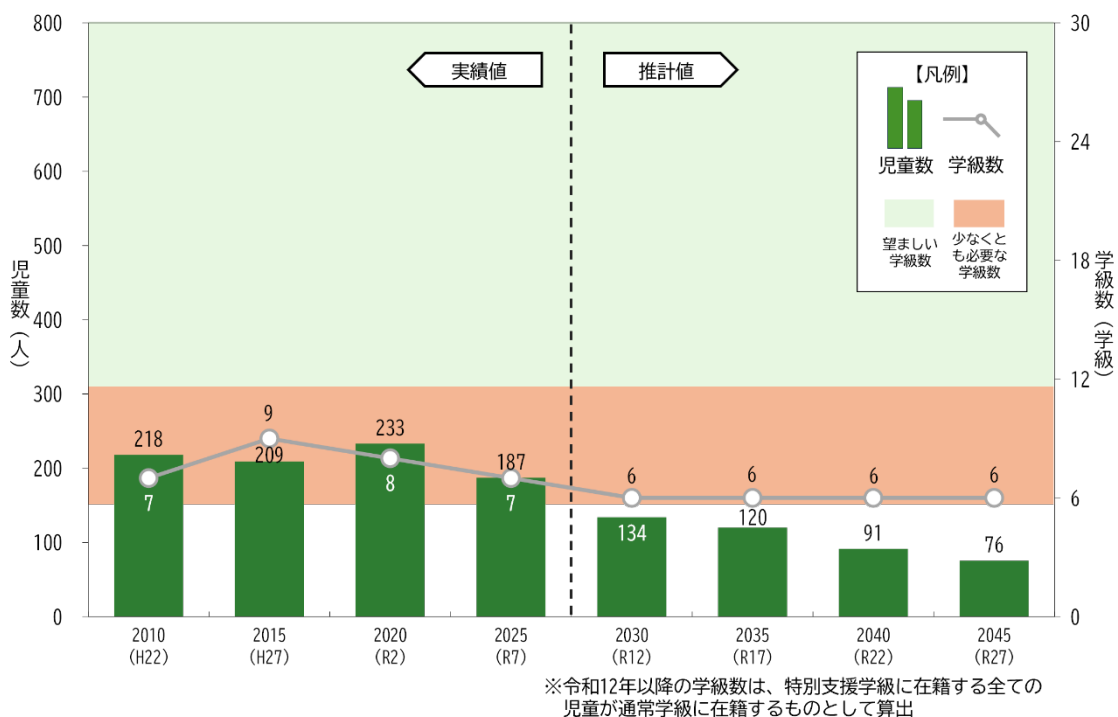


※学級数の減少により1クラス当たりの児童数が増加

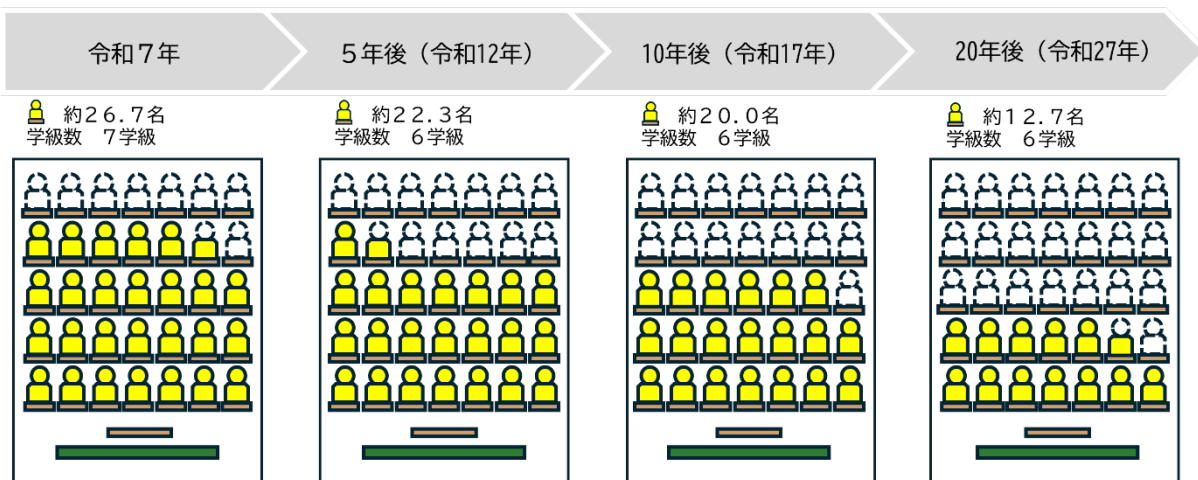
②不動岡小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、横ばいの推移から減少に転じ、令和7年は平成22年（15年前）の約9割となった。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約4割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年と令和7年ともに7学級と変わらないが、今後は6学級まで減少し、全学年が単学級となる見通しである。



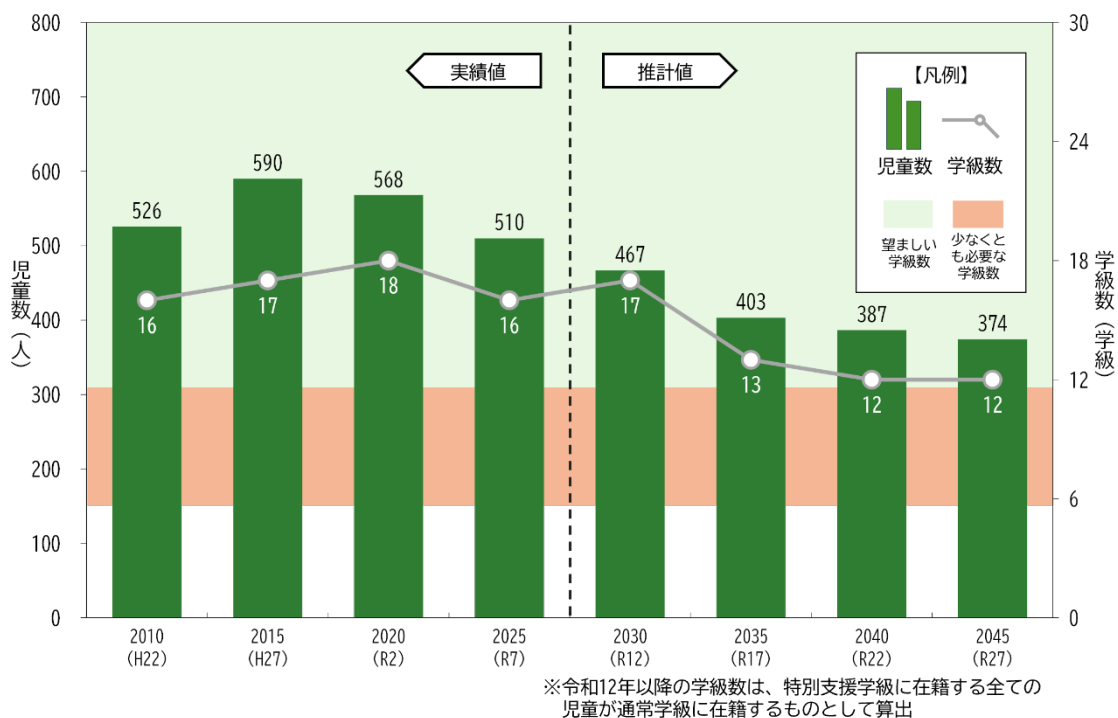
イ 1クラス当たりの児童数見込み



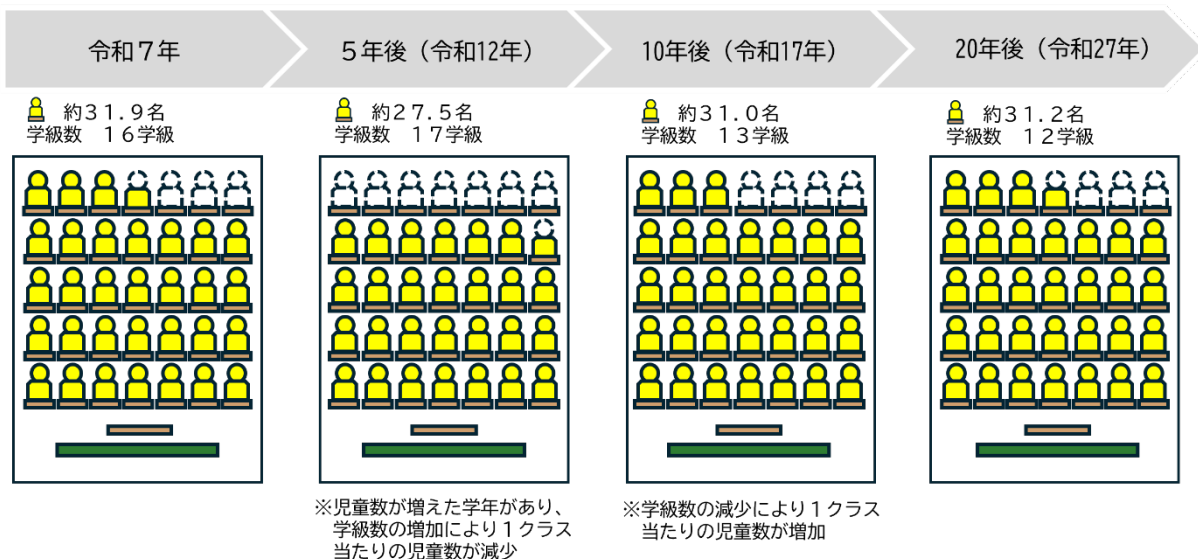
③三俣小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、一時増加したものの減少に転じ、令和7年は平成22年（15年前）よりわずかに減少となった。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約7割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年と令和7年ともに16学級と変わらないが、令和22年には12学級まで減少する見通しである。



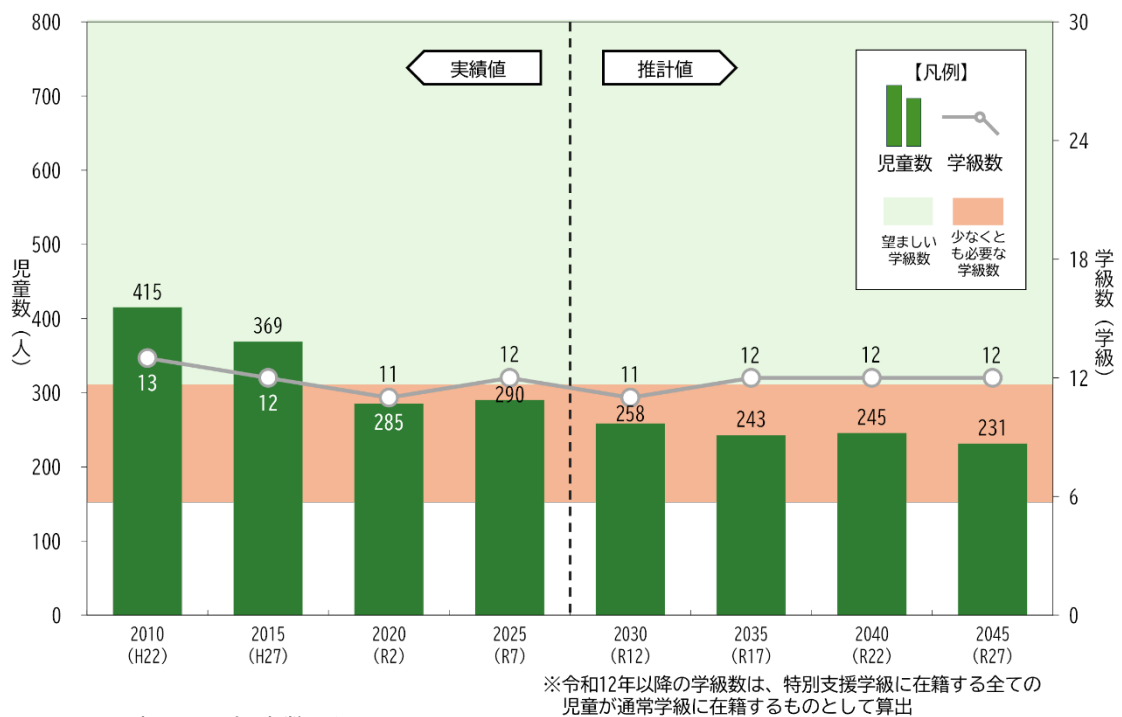
イ 1クラス当たりの児童数見込み



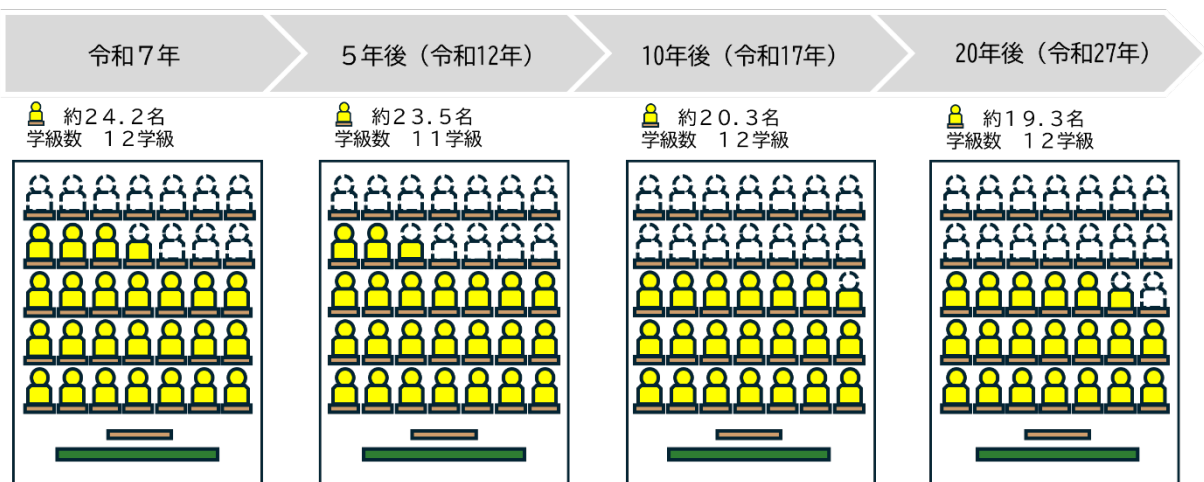
④礼羽小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約7割まで減少した。今後は、緩やかな減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約8割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の13学級から令和7年の12学級へと減少したものの、令和27年にかけては、12学級を維持する見通しである。



イ 1クラス当たりの児童数見込み

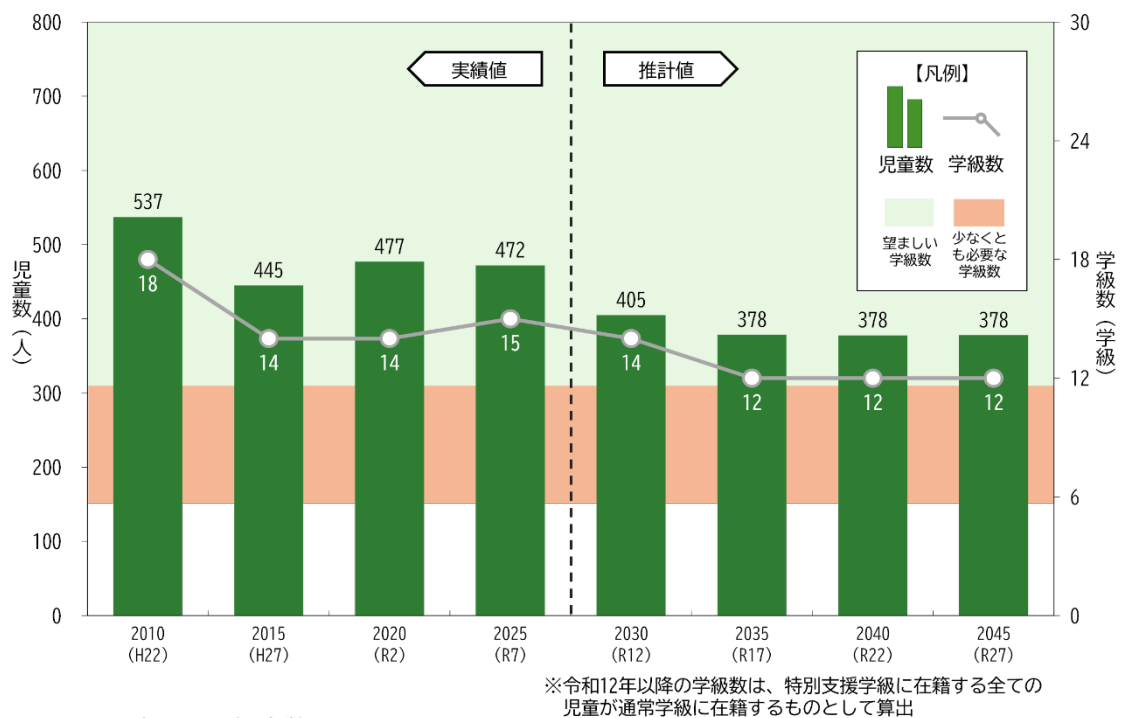


※児童数が増えた学年があり、学級数の増加により1クラス当たりの児童数が減少

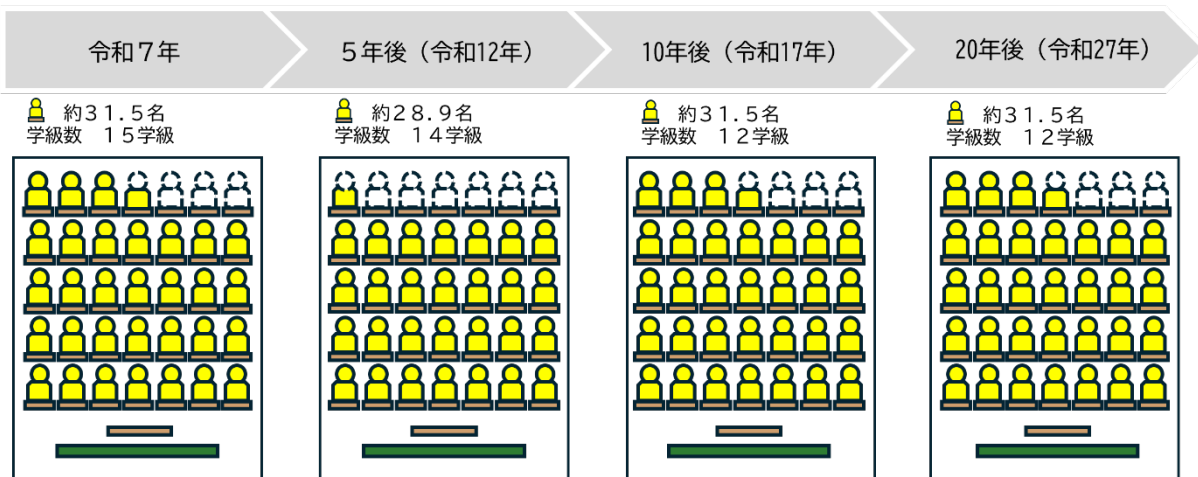
⑤大桑小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約9割となった。今後は、緩やかな減少の後、現状を維持し、令和27年（20年後）には、令和7年の約8割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の18学級から令和7年の15学級へと減少したものの、令和27年にかけては、12学級を維持する見通しである。



イ 1クラス当たりの児童数見込み

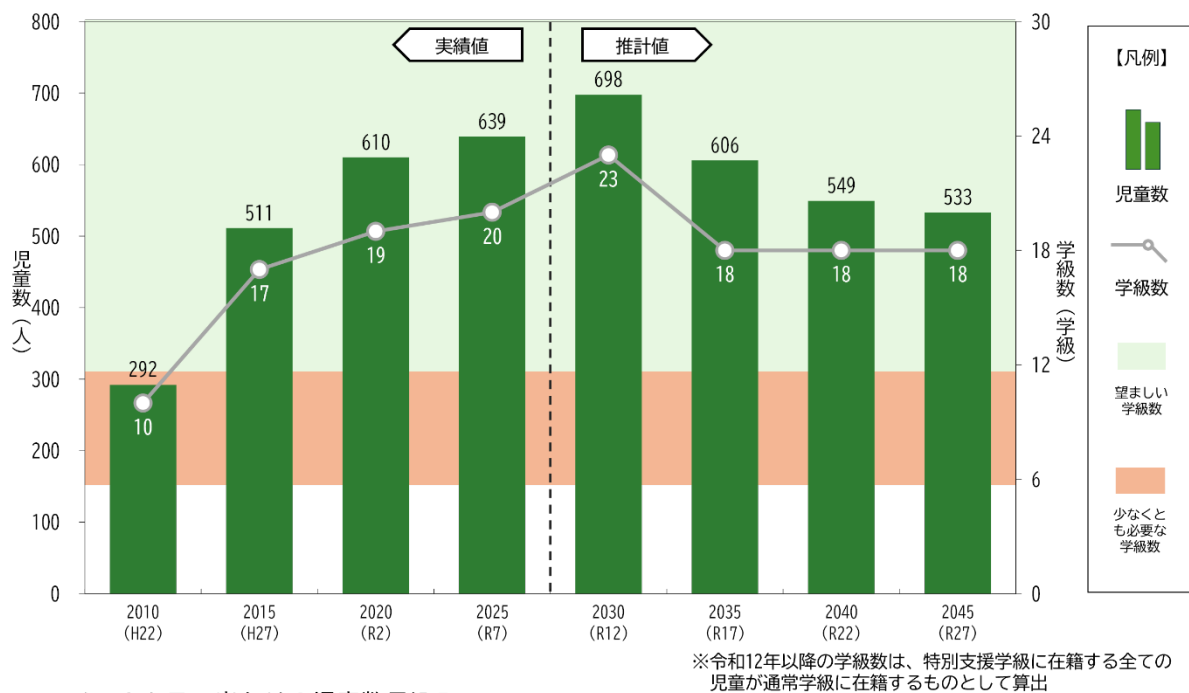


※学級数の減少により1クラス当たりの児童数が増加

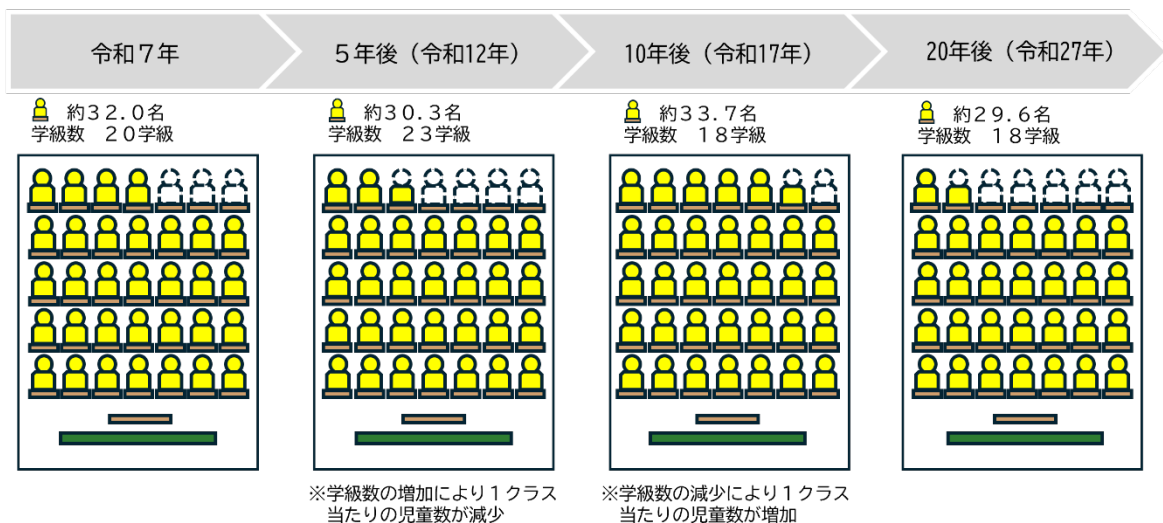
⑥水深小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて2倍以上の増加となった。今後は、しばらく増加した後減少に転じ、令和27年（20年後）には、令和7年の約8割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の10学級から令和7年の20学級まで増加した。今後は、しばらく増加が見込まれるが、令和17年（10年後）以降は、18学級を維持する見通しである。



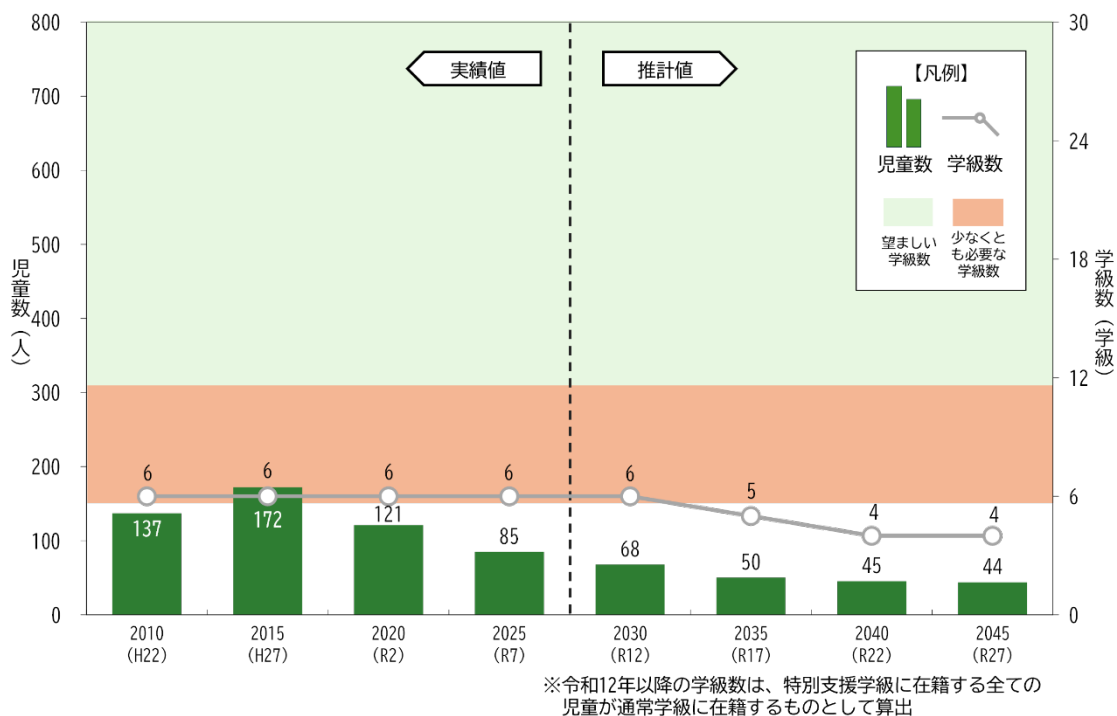
イ 1クラス当たりの児童数見込み



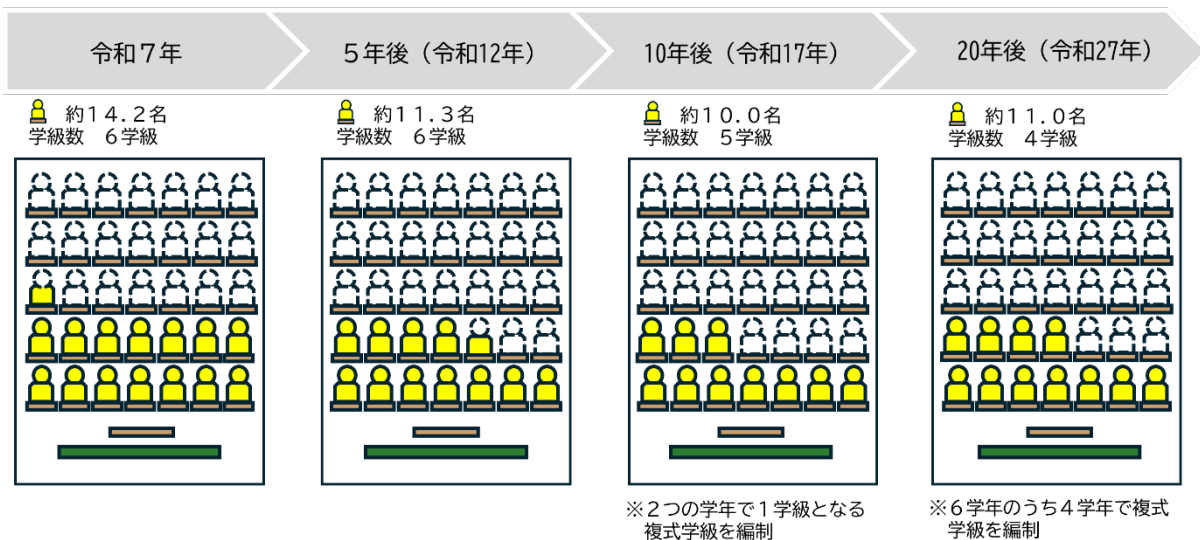
⑦樋遣川小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、一時増加したものの減少に転じ、令和7年は平成22年（15年前）の約6割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約5割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年と令和7年ともに6学級と変わらないが、令和17年（10年後）には、児童数の減少に伴い、2つの学年で1つの学級とする「複式学級」の編制となる見通しである。



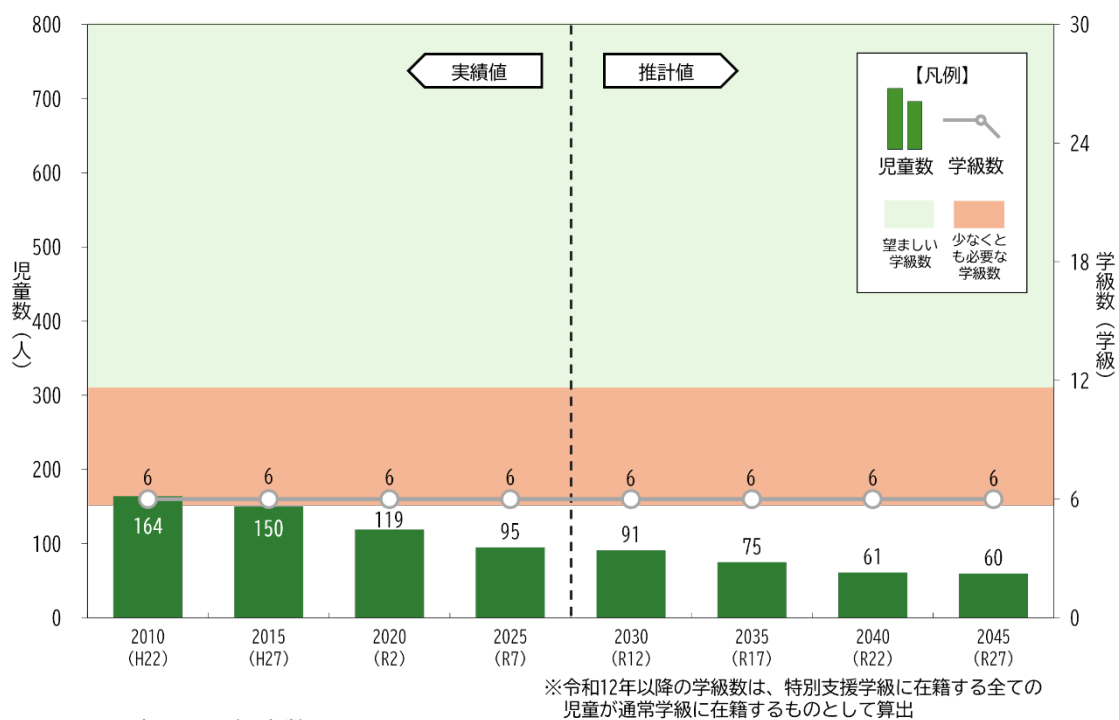
イ 1クラス当たりの児童数見込み



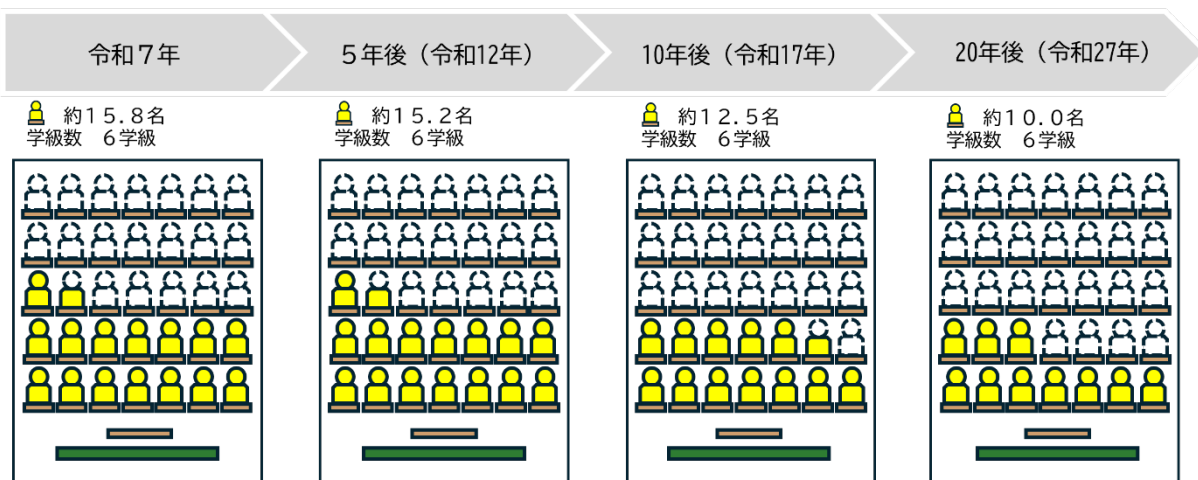
⑧志多見小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約6割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約6割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年と令和7年ともに6学級と変わらず、今後も6学級を維持し、全学年が単学級となる状態が続く見通しである。



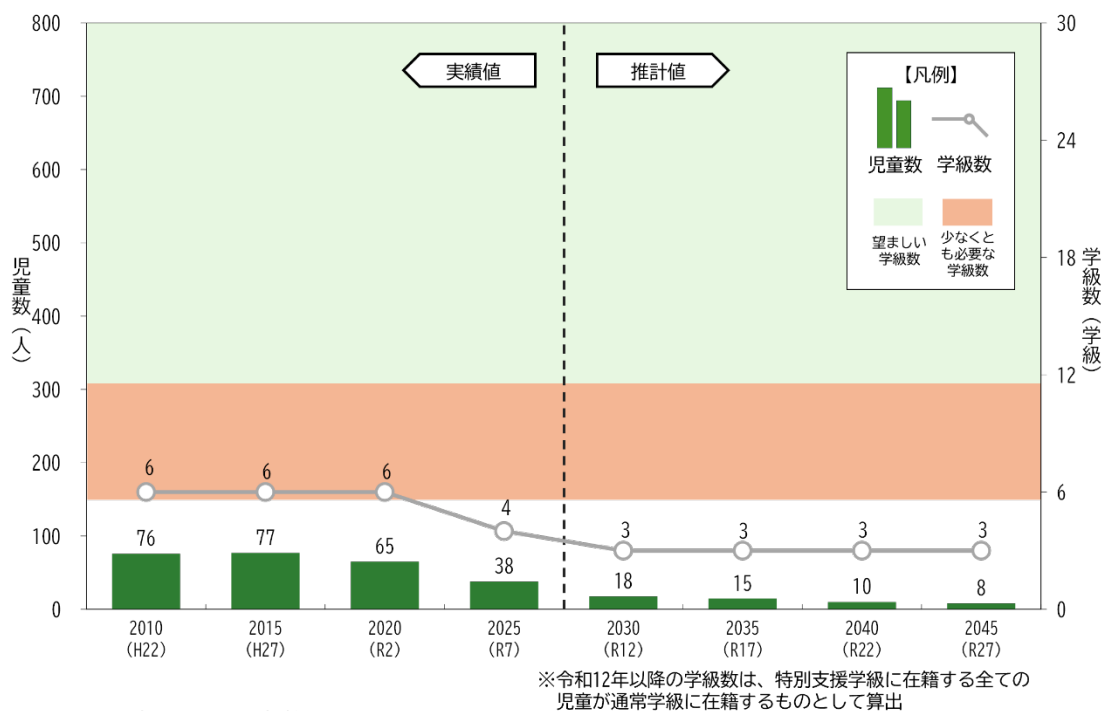
イ 1クラス当たりの児童数見込み



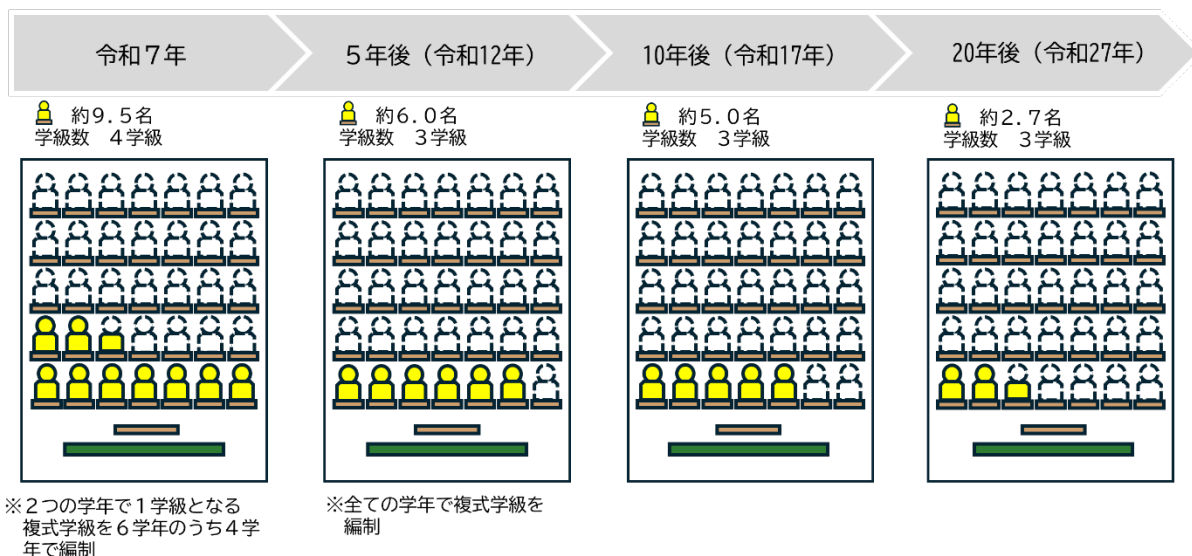
⑨大越小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約5割まで減少した。今後も減少傾向が続く、20年後（令和27年）には、全校児童数が10人を下回る可能性がある。
- 通常学級数は、平成22年の6学級から令和7年には2つの学年で1つの学級とする「複式学級」の編制となり、4学級へと減少した。今後も、児童数の減少が続く、全学年において複式学級の編制となる見通しである。



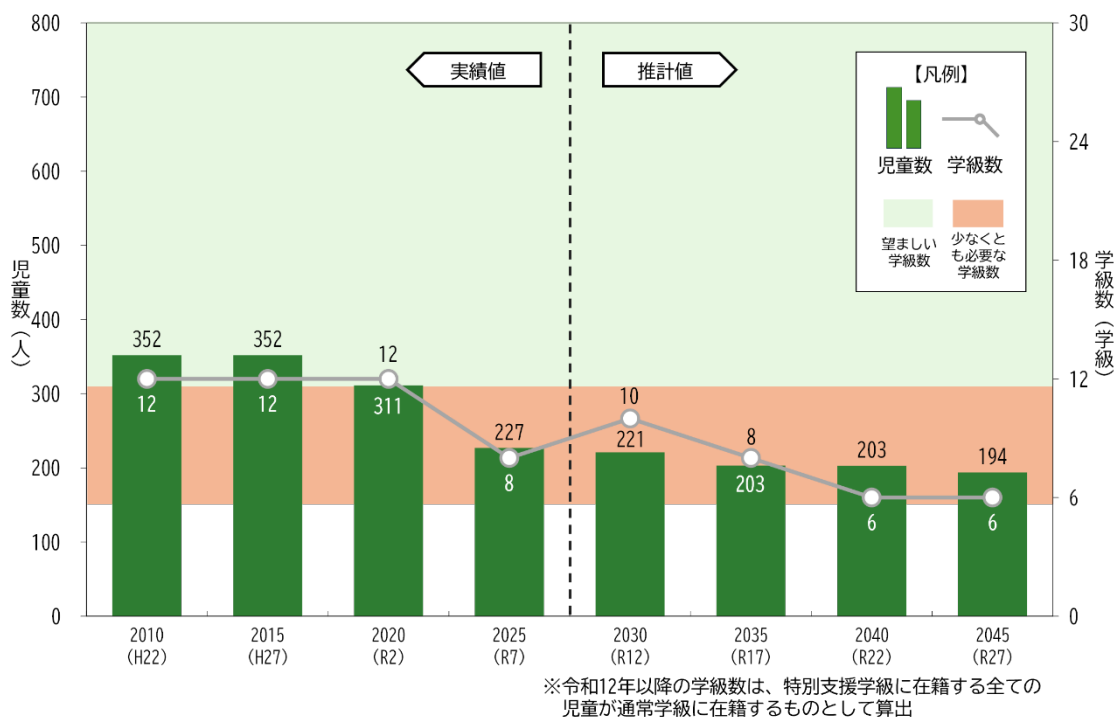
イ 1クラス当たりの児童数見込み



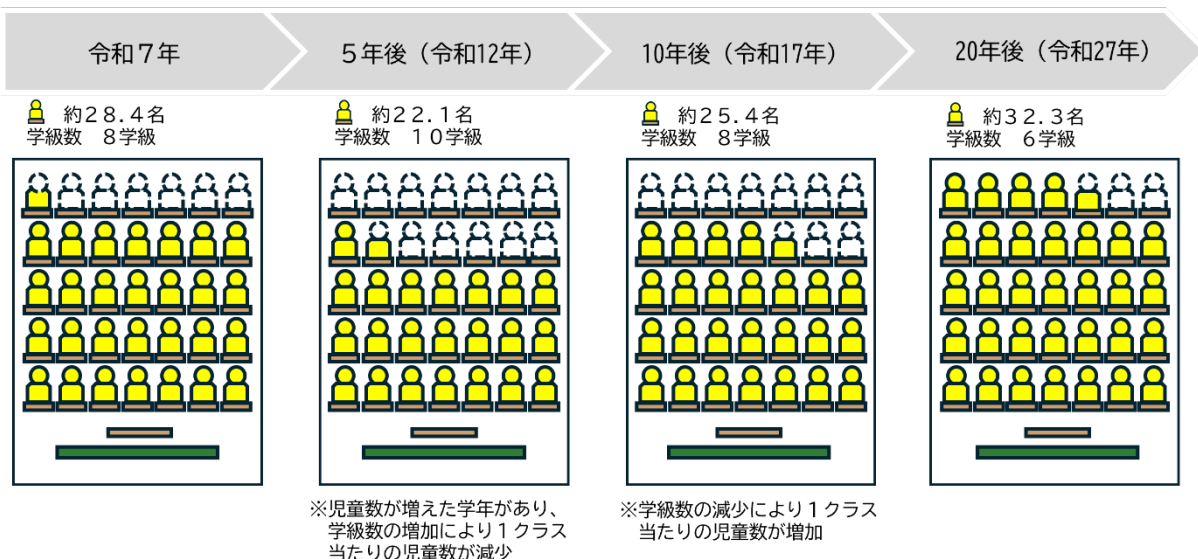
⑩花崎北小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約6割まで減少した。今後は、緩やかな減少傾向が続き、令和27年（20年後）には令和7年の約8割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の12学級から令和7年には8学級へと減少した。令和27年には、さらに6学級まで減少し、全学年が単学級となる見通しである。



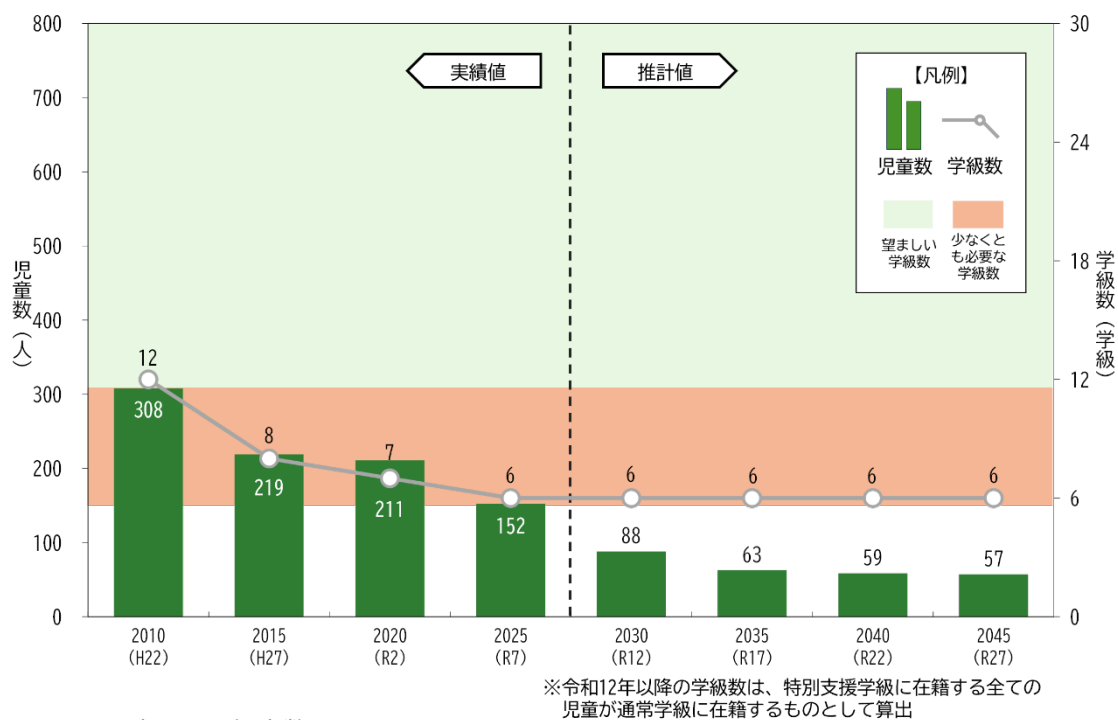
イ 1クラス当たりの児童数見込み



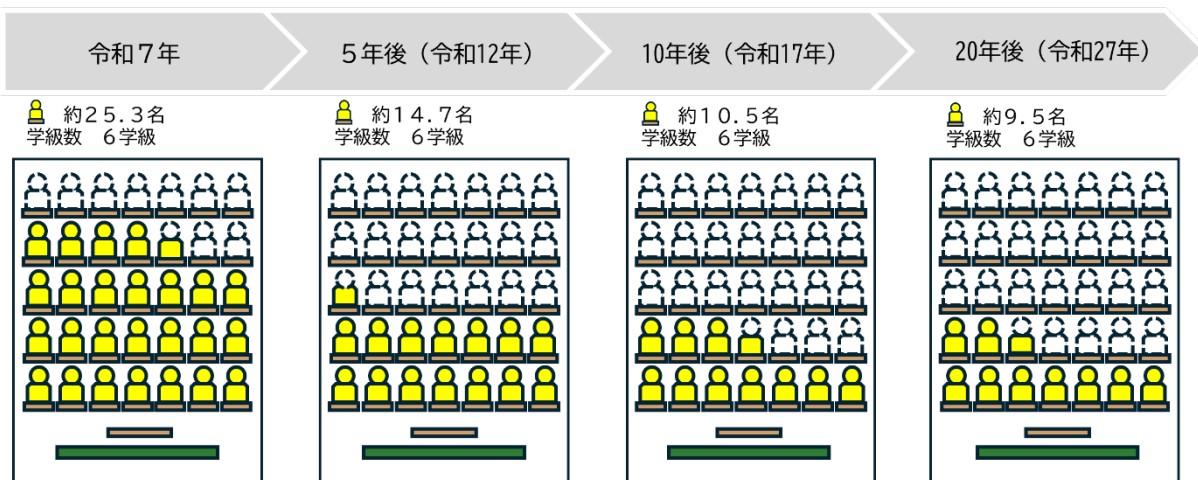
①加須南小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約5割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約4割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の12学級から令和7年には6学級へと減少した。今後も児童数は減少するものの、20年後（令和27年）まで6学級を維持し、全学年単学級の状態が続く見通しである。



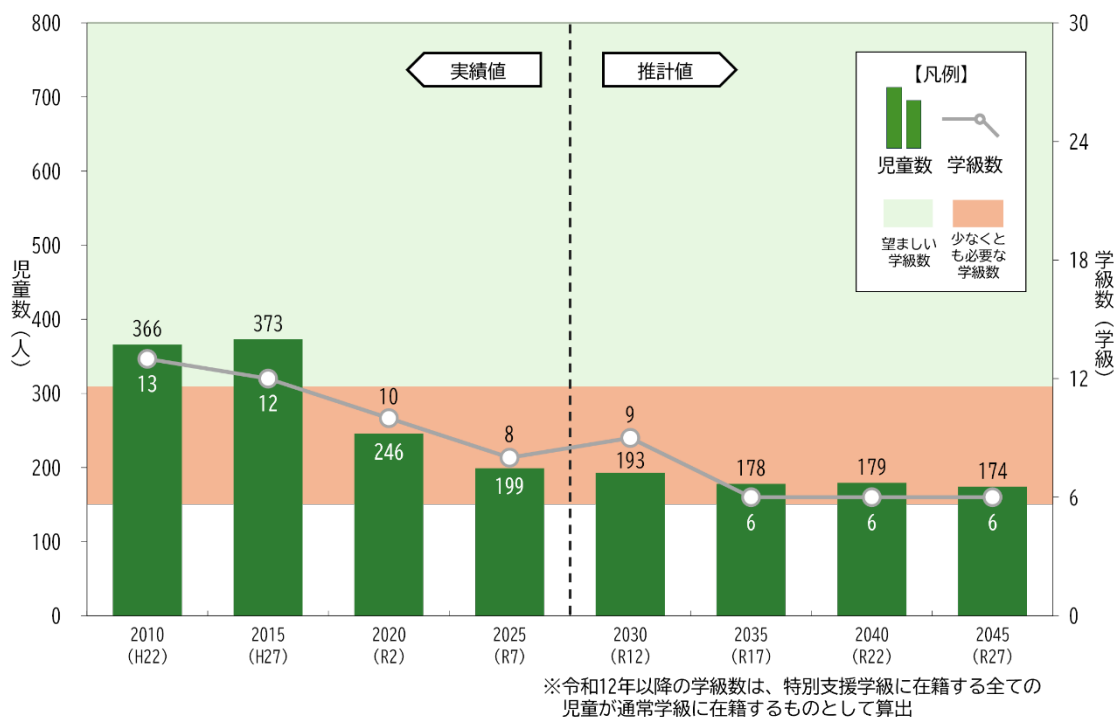
イ 1クラス当たりの児童数見込み



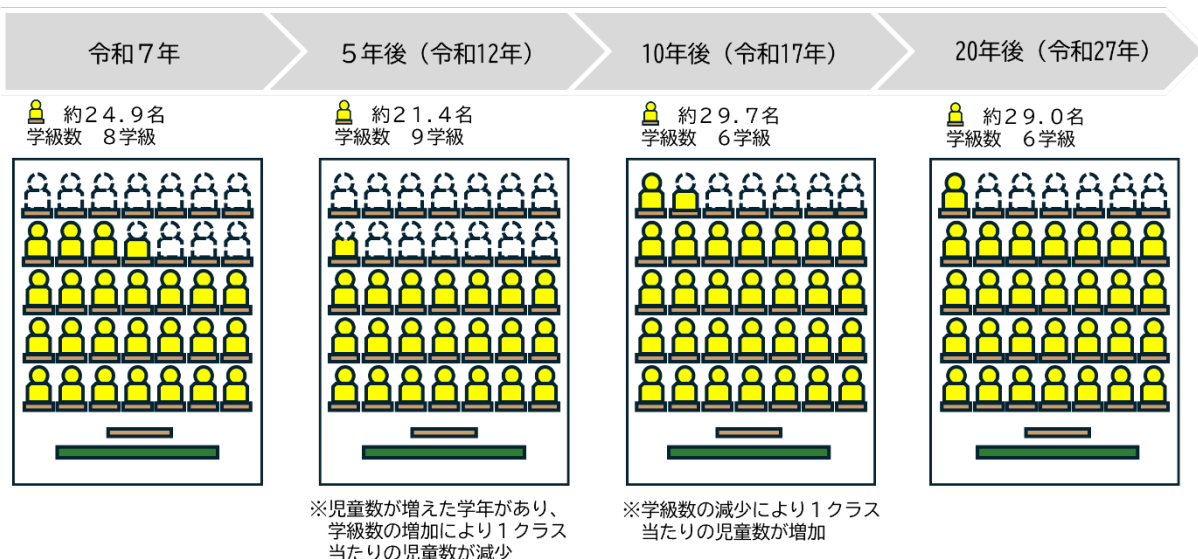
⑫騎西小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、横ばいの推移から減少に転じ、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約5割まで減少した。今後は、緩やかな減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約9割の水準となる見込まれる。
- 通常学級数は、平成22年の13学級から令和7年には8学級へと減少した。令和17年（10年後）には6学級まで減少し、全学年単学級となる見通しである。



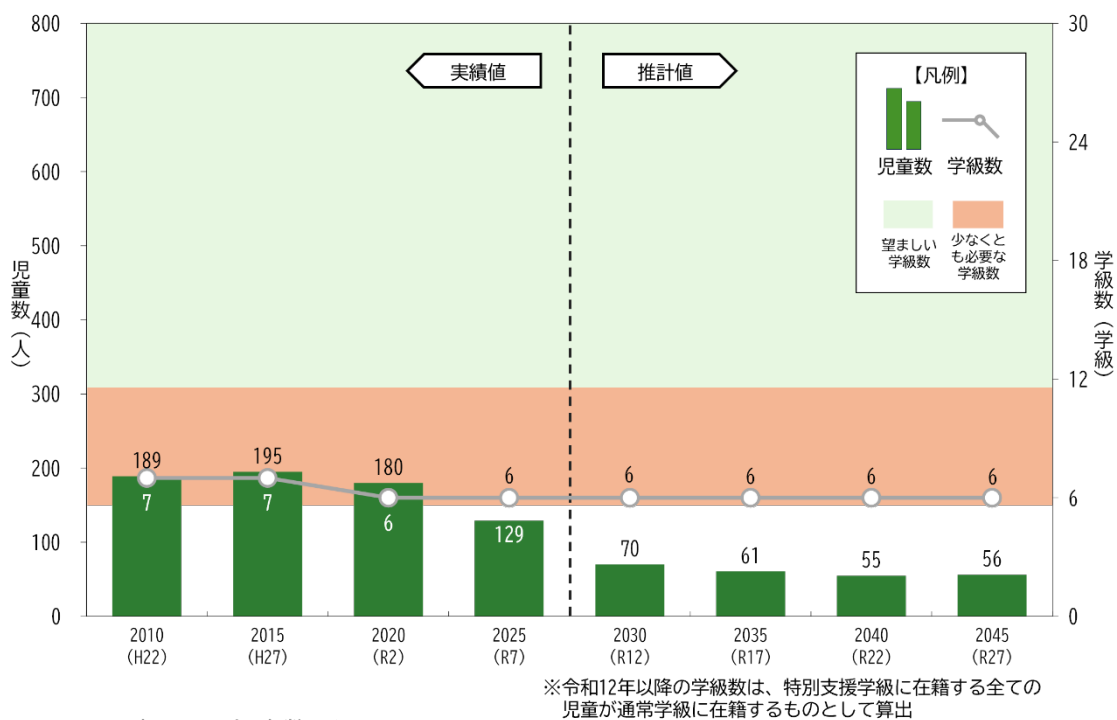
イ 1クラス当たりの児童数見込み



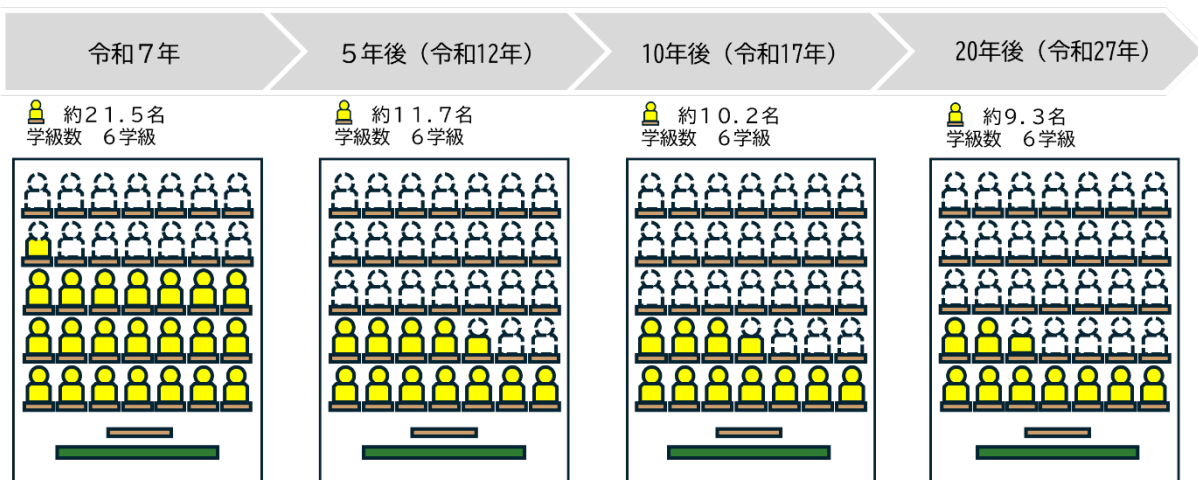
⑬田ヶ谷小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、横ばいの推移から減少に転じ、令和7年は平成22年（15年前）の約7割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約4割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の7学級から令和7年には6学級へと減少した。今後は、令和27年にかけて6学級を維持し、全学年単学級の状態が続く見通しである。



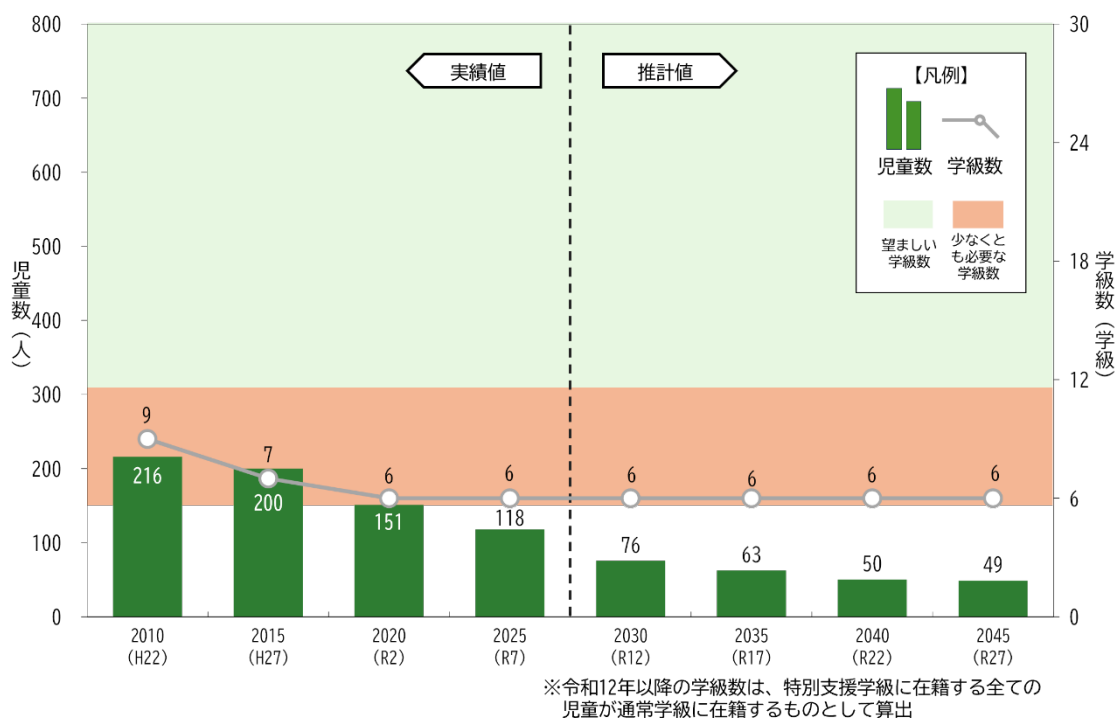
イ 1クラス当たりの児童数見込み



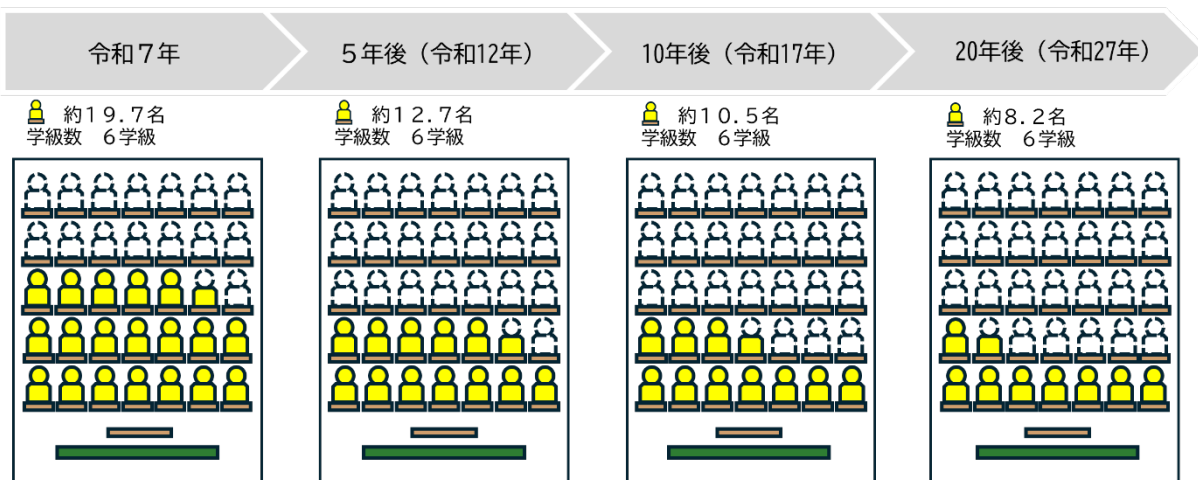
⑭種足小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約5割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には令和7年の約4割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の9学級から令和7年には6学級へと減少した。今後は、児童数は減少するものの、令和27年にかけて6学級を維持し、全学年単学級の状態が続くことが見込まれる。



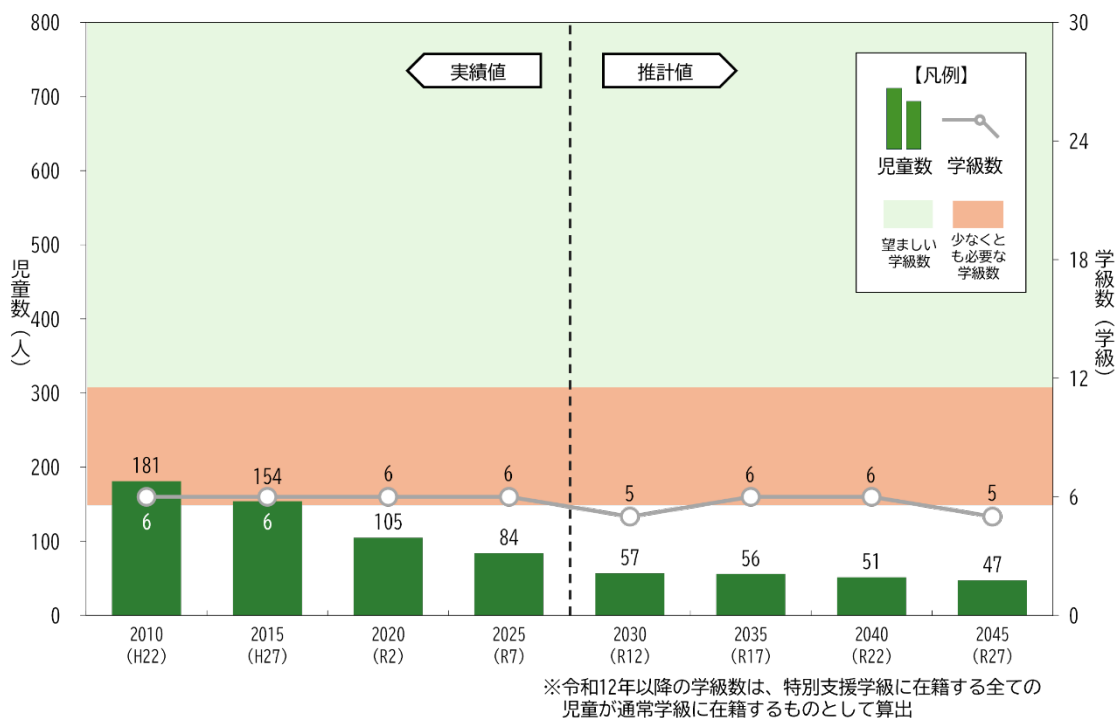
イ 1クラス当たりの児童数見込み



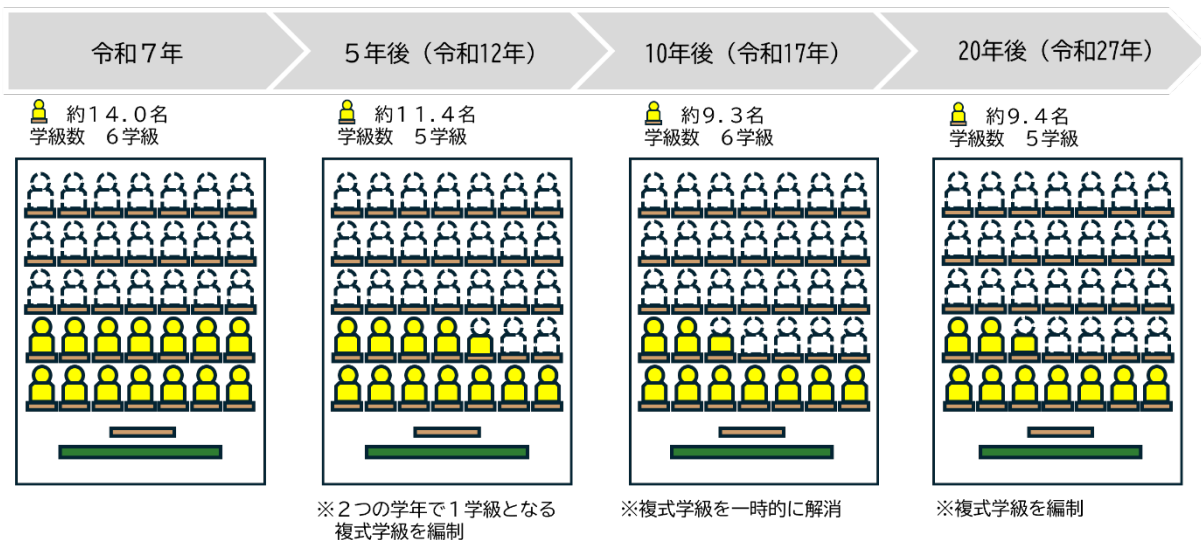
⑮鴻基小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約5割まで減少した。今後も減少傾向が続く、令和27年（20年後）には、令和7年の約5割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年から令和7年にかけて6学級となっており、全学年単学級の状態が続いている。今後も、児童数の減少が続く、2つの学年で1つの学級とする「複式学級」の編制となる見通しである。



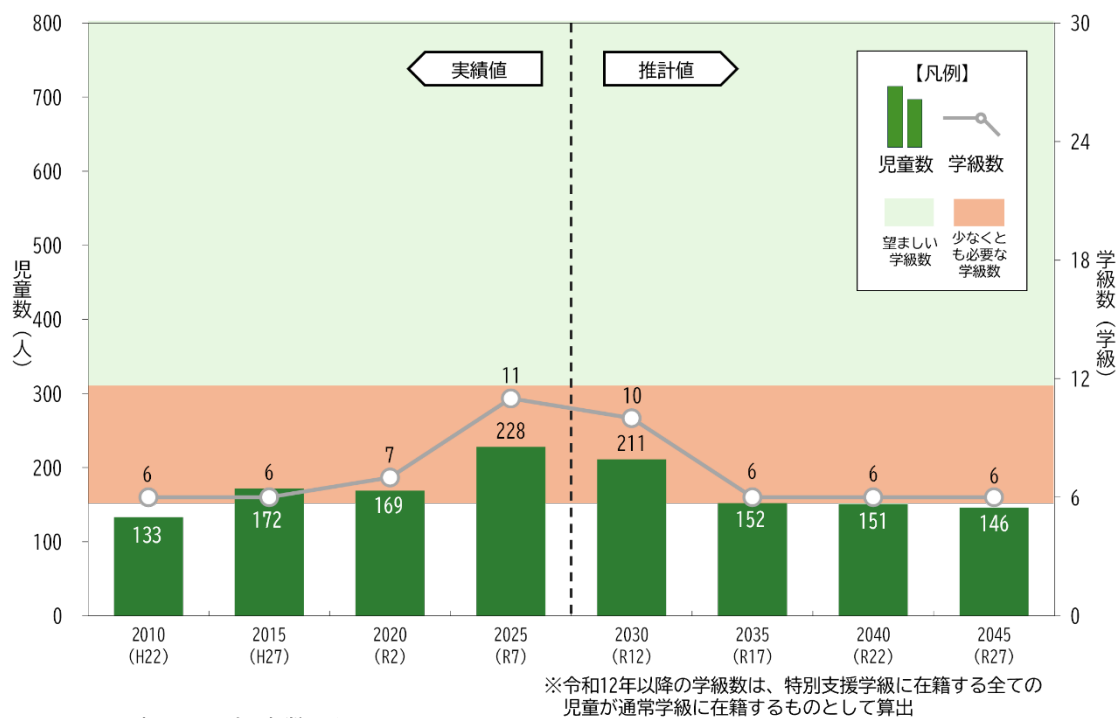
イ 1クラス当たりの児童数見込み



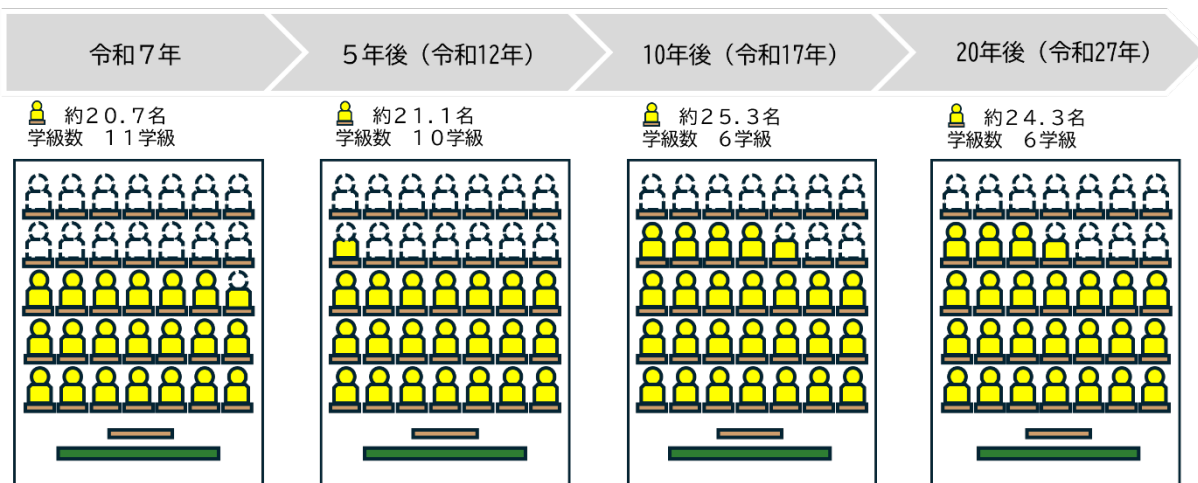
⑯高柳小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約1.7倍に増加した。今後は、減少に転じ、令和27年（20年後）には、令和7年の約6割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の6学級から令和7年には11学級へと増加した。令和17年（10年後）以降は6学級まで減少し、全学年単学級となる見通しである。



イ 1クラス当たりの児童数見込み

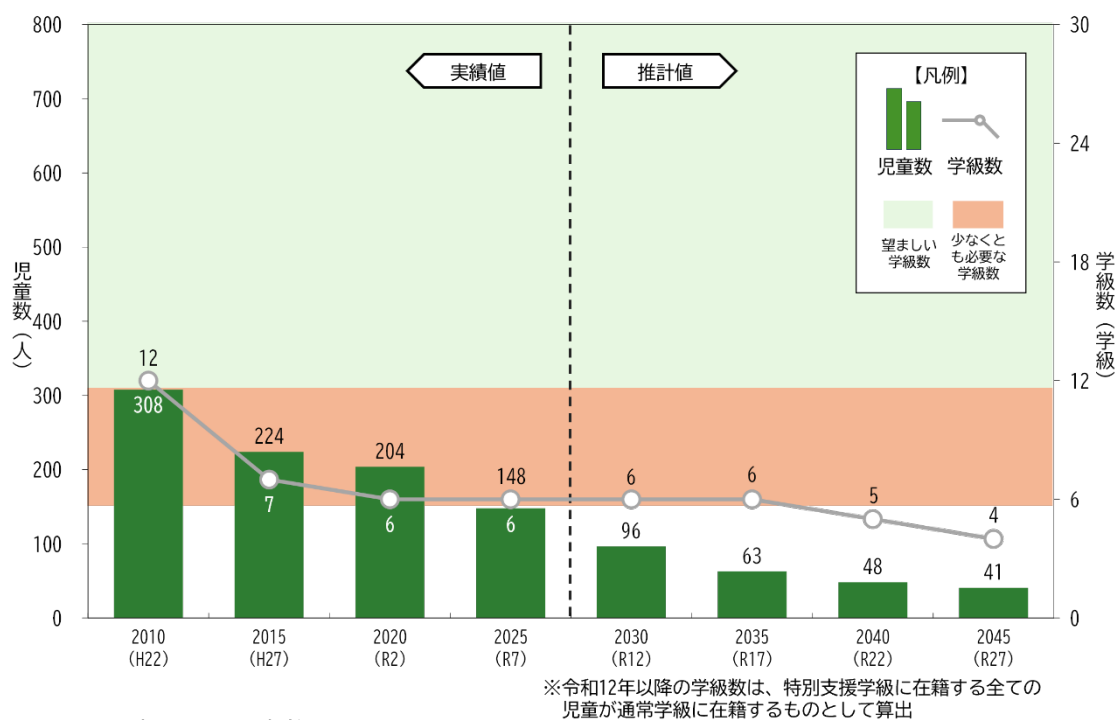


※学級数の減少により1クラス当たりの児童数が増加

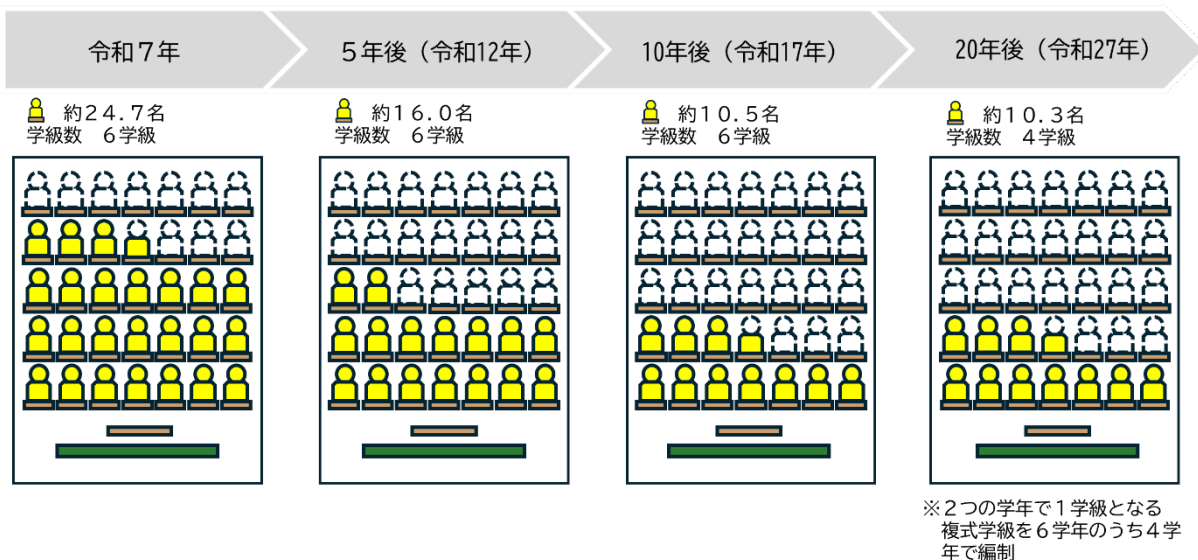
⑰北川辺西小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年には約5割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約3割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の12学級から令和7年には6学級へと減少した。今後も、児童数の減少が続き、2つの学年で1つの学級とする「複式学級」の編制となる見通しである。



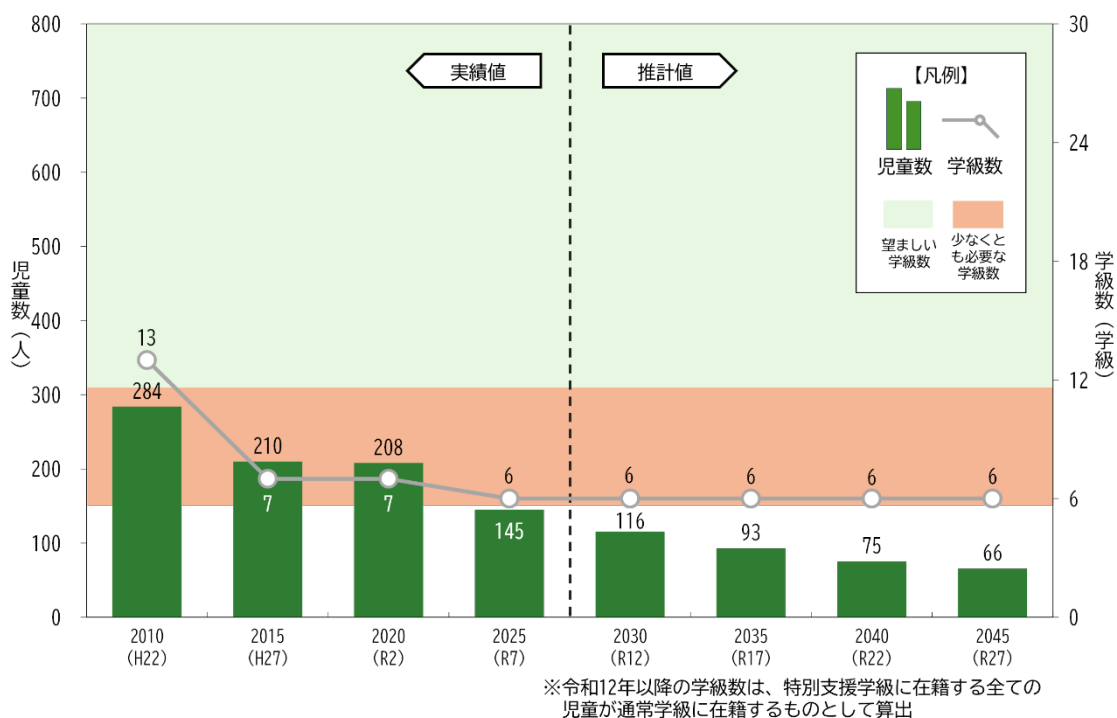
イ 1クラス当たりの児童数見込み



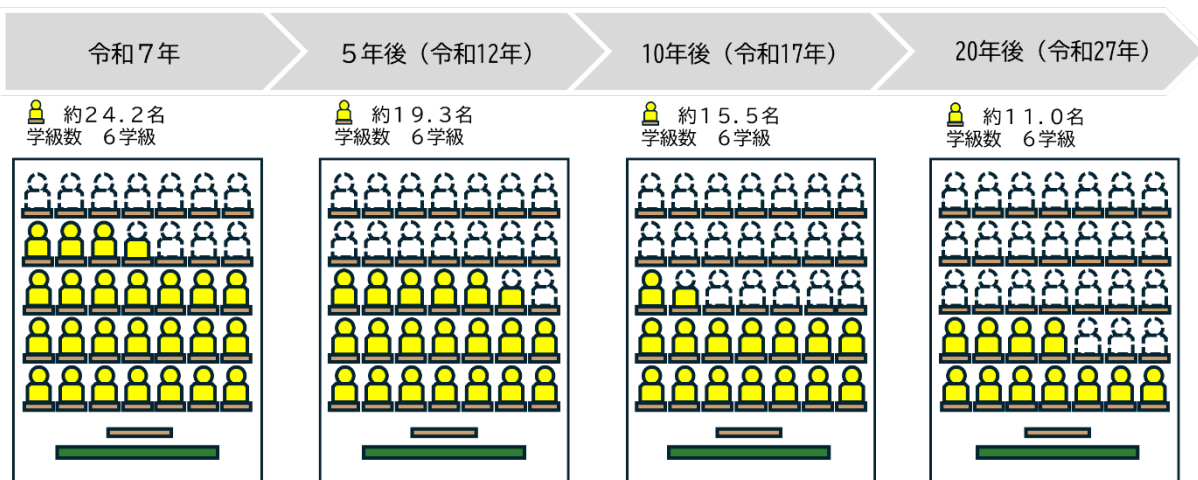
⑱北川辺東小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約5割まで減少した。今後も減少傾向は続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約5割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の13学級から令和7年には6学級へと減少した。今後は、児童数は減少するものの、令和27年にかけて6学級を維持し、全学年単学級の状態が続く見通しである。



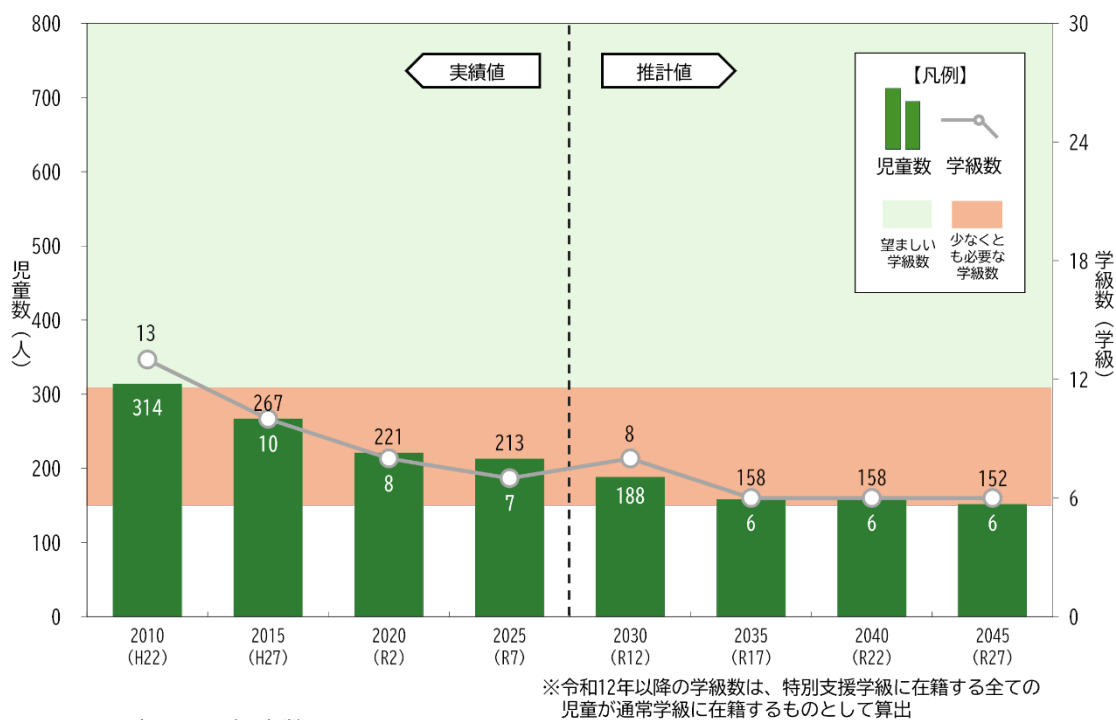
イ 1クラス当たりの児童数見込み



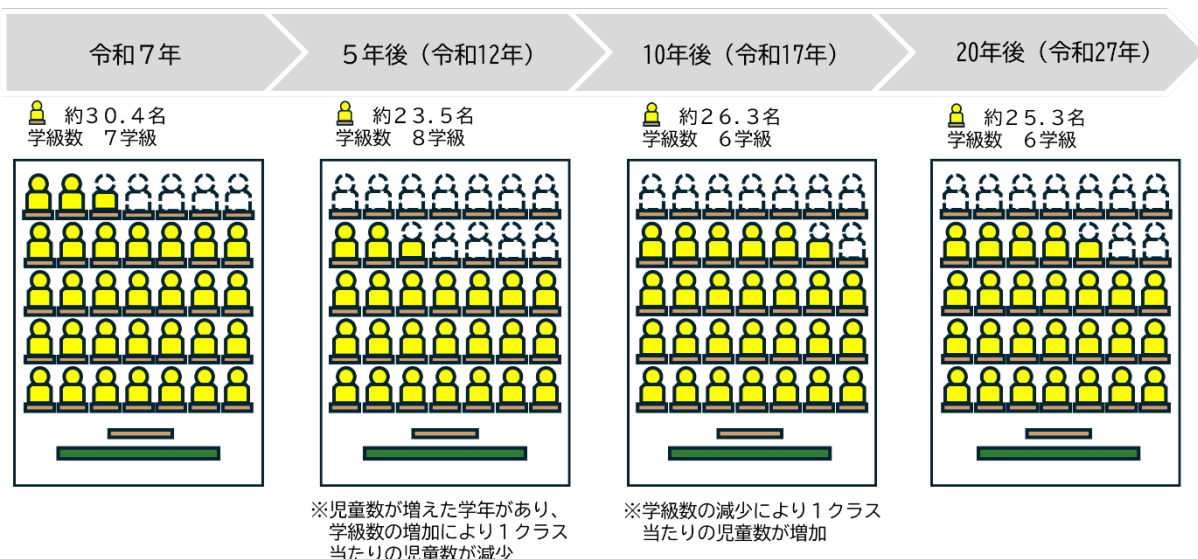
⑨大利根東小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年後）から令和7年にかけて約7割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約7割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の13学級から令和7年の7学級へと減少した。令和17年（10年後）以降は6学級まで減少し、全学年単学級となる見通しである。



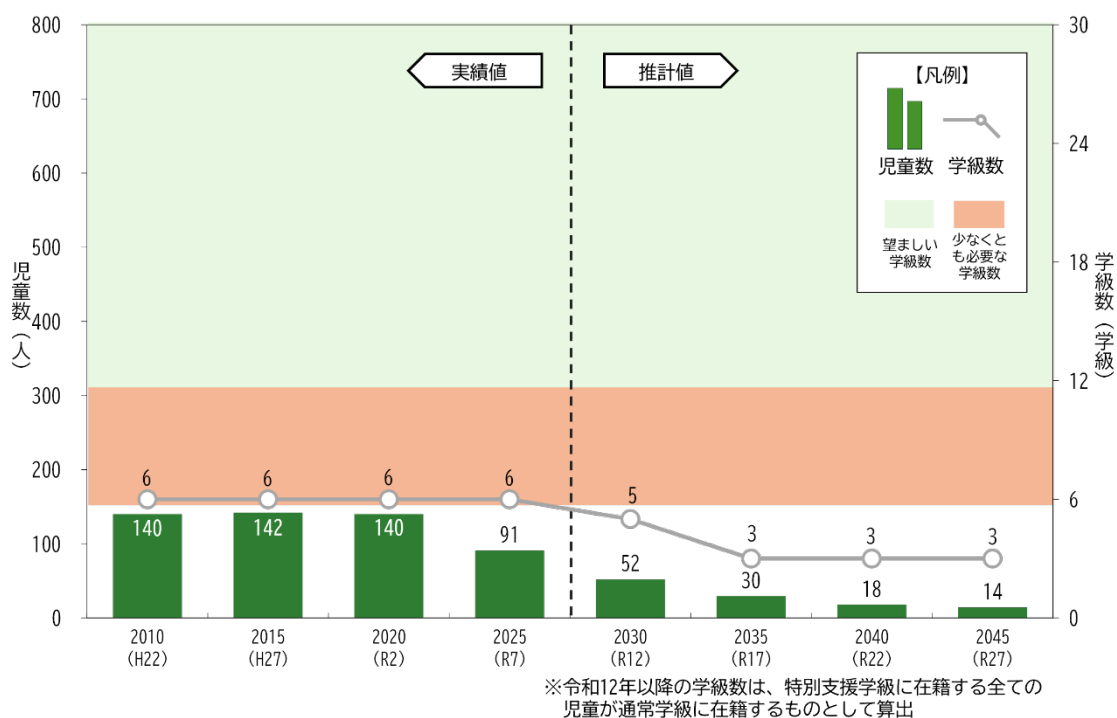
イ 1クラス当たりの児童数見込み



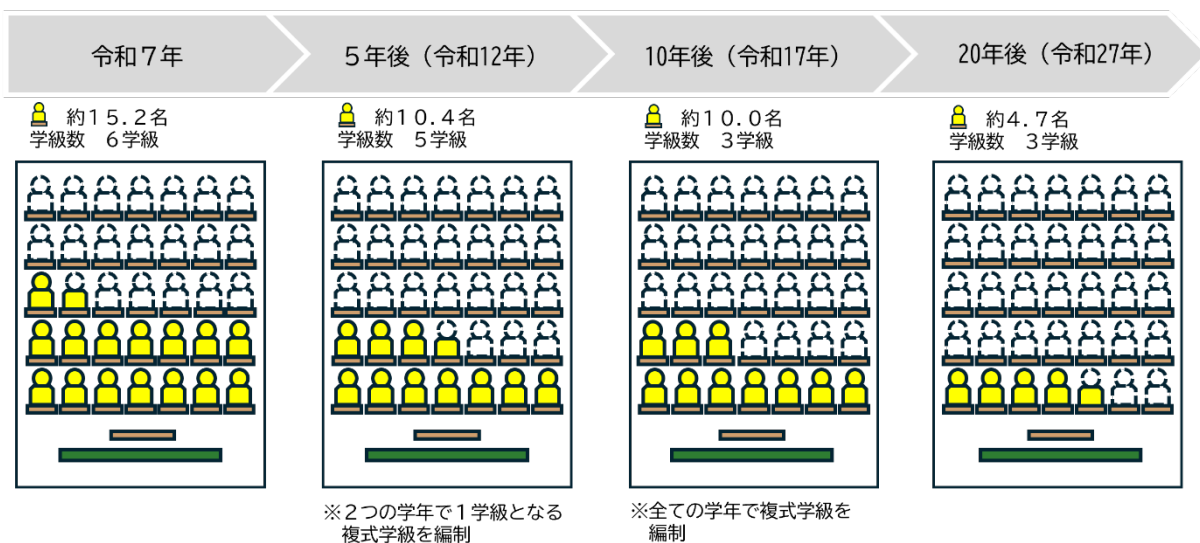
⑩原道小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約7割まで減少した。今後も減少傾向は続き、令和27年（20年後）には、全校児童数が15人を下回る可能性がある。
- 通常学級数は、平成22年と令和7年ともに6学級と変わらないが、令和12年（5年後）には、児童数の減少に伴い、2つの学年で1つの学級とする「複式学級」の編制となる見通しである。



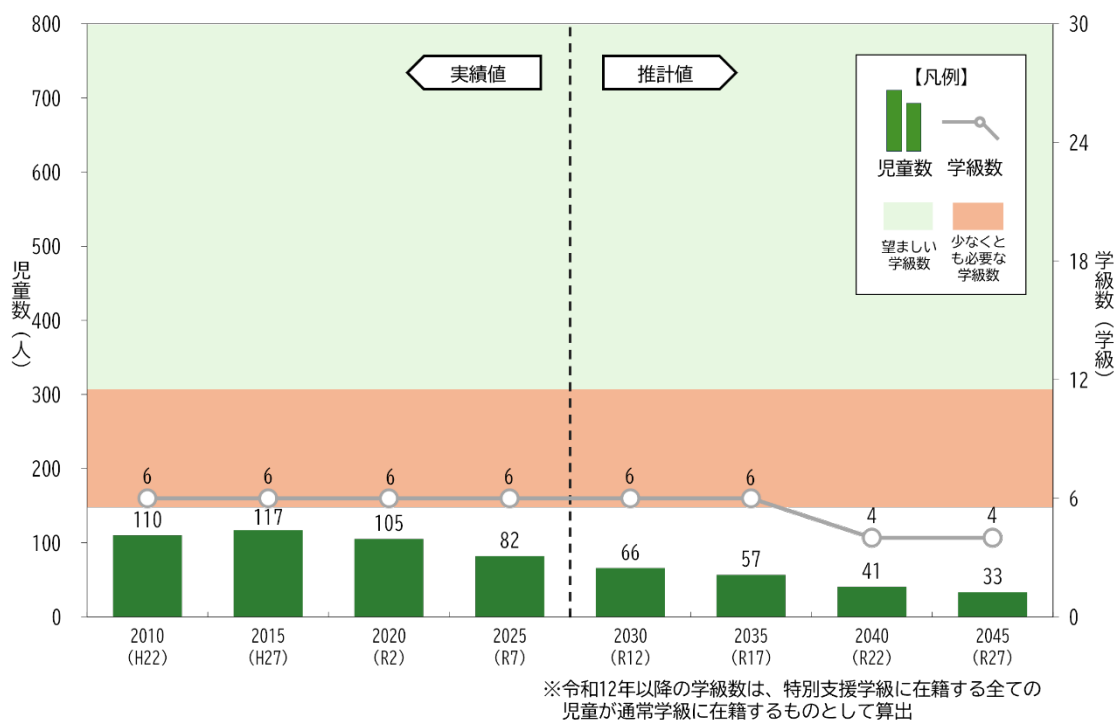
イ 1クラス当たりの児童数見込み



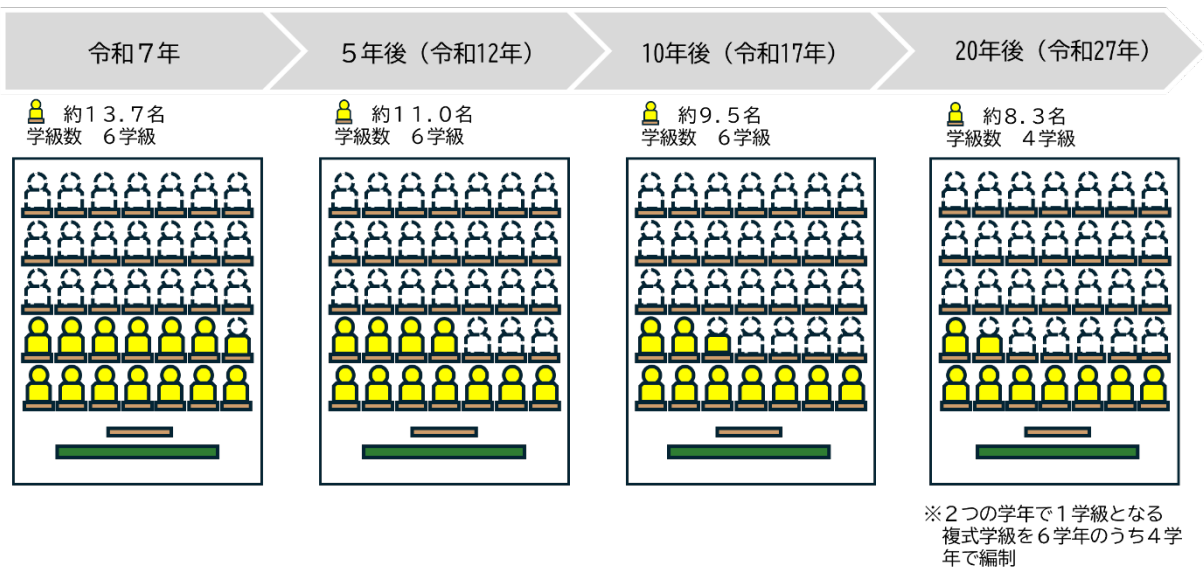
②豊野小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約7割まで減少した。今後も減少傾向は続き、令和27年（20年後）には令和7年の約4割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年と令和7年ともに6学級と変わらないが、令和22年（15年後）には、児童数の減少に伴い、2つの学年で1つの学級とする「複式学級」の編制となる見通しである。



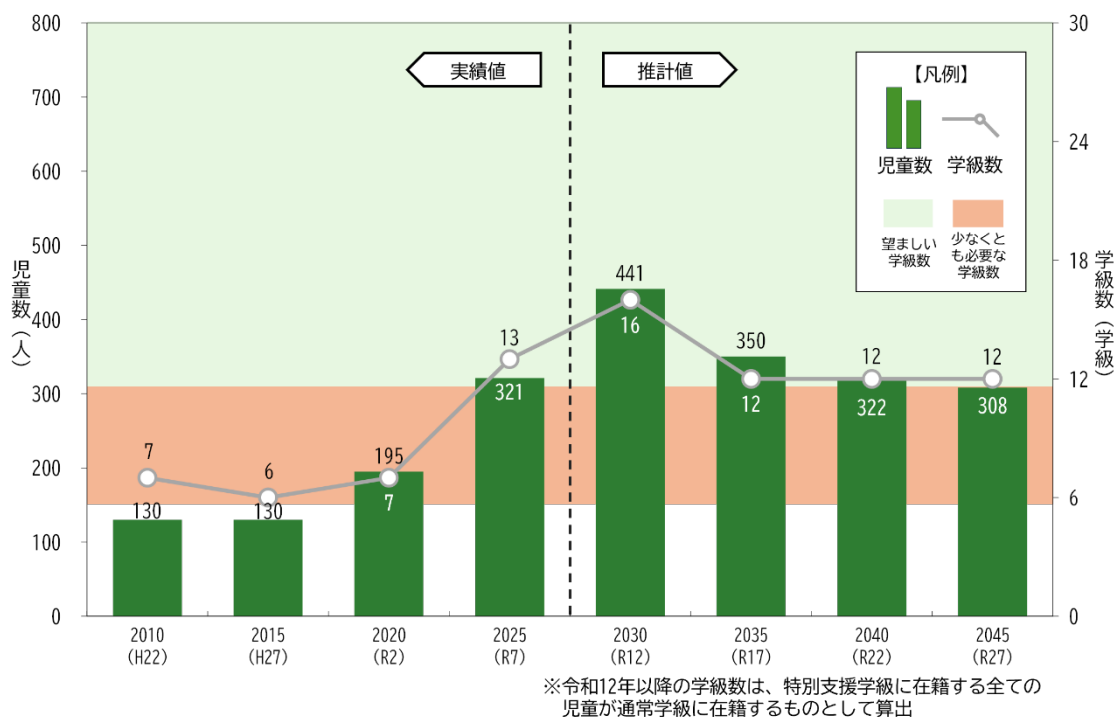
イ 1クラス当たりの児童数見込み



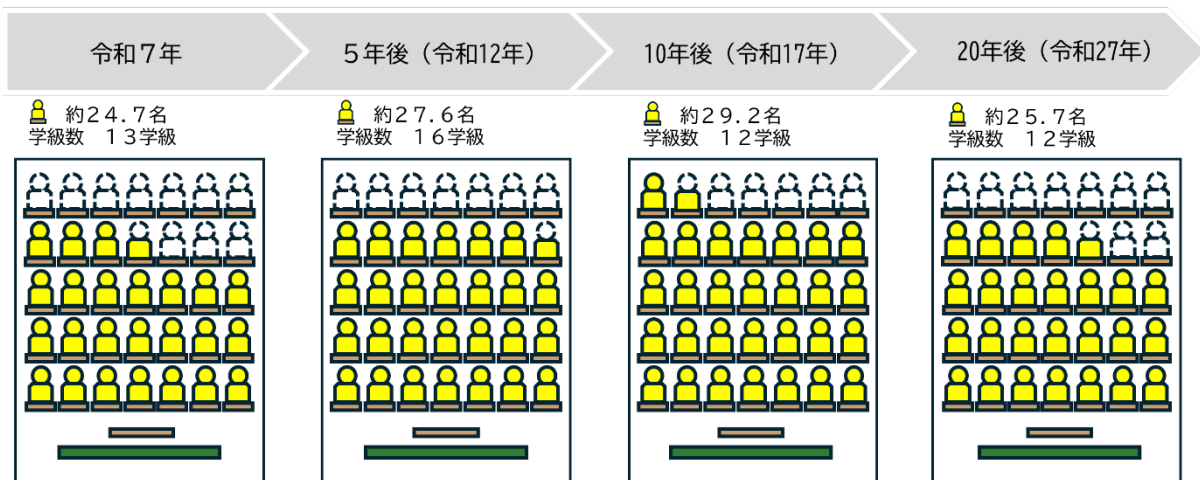
②元和小学校

ア 児童数の推移と見込み

- 児童数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて2倍以上に増加した。今後は、しばらく増加した後減少に転じ、令和27年（20年後）には令和7年をやや下回ることが見込まれる。
- 通常学級数は、平成22年の7学級から令和7年には13学級まで増加した。今後は、しばらく増加が見込まれるが、令和17年（10年後）以降は12学級を維持する見通しである。



イ 1クラス当たりの児童数見込み

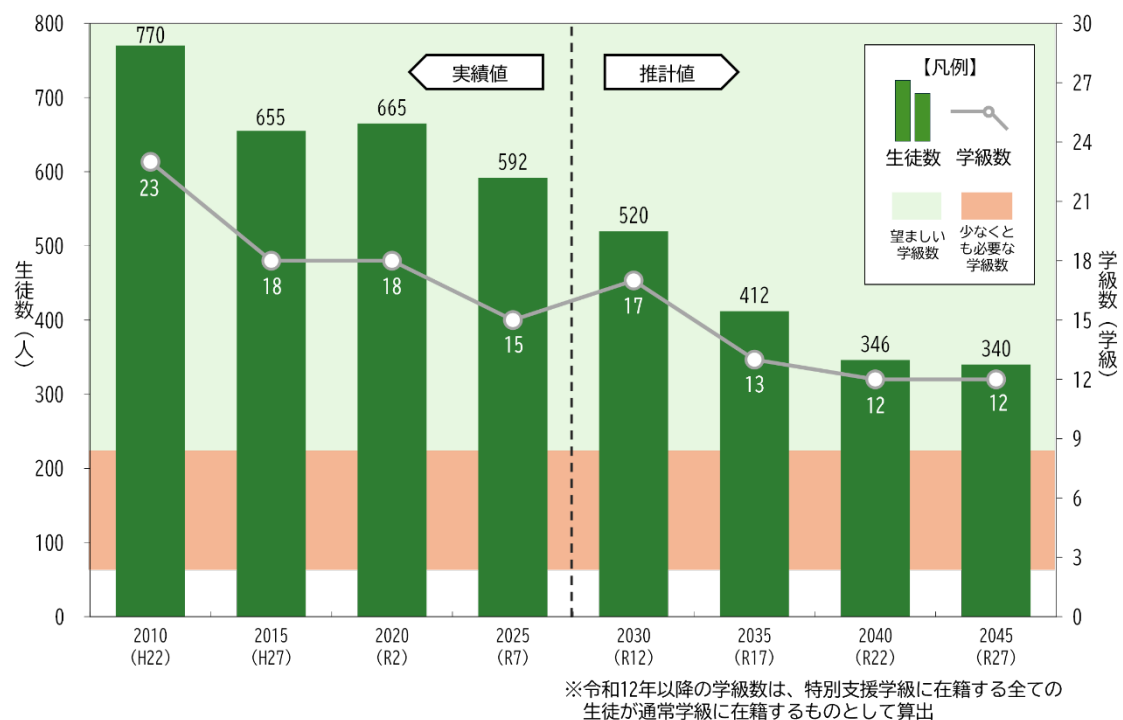


(3) 中学校

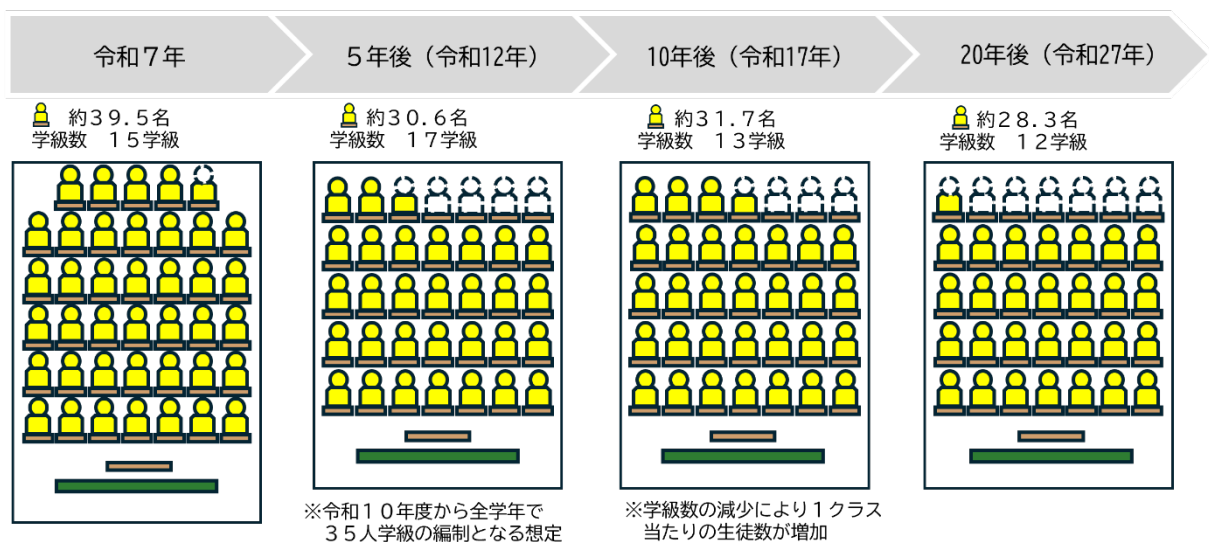
①昭和中学校

ア 生徒数の推移と見込み

- ・ 生徒数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約8割まで減少した。今後も減少傾向は続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約6割の水準となる見込みである。
- ・ 通常学級数は、平成22年の23学級から令和7年には15学級へと減少した。令和22年（15年後）には12学級まで減少する見通しである。



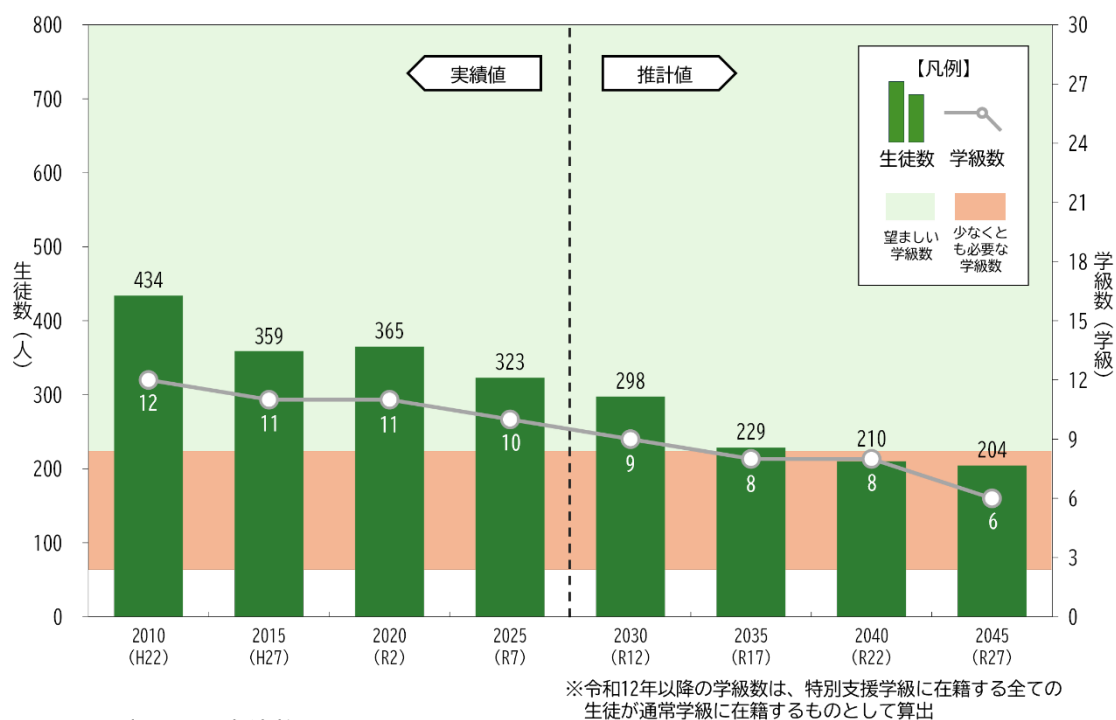
イ 1クラス当たりの生徒数見込み



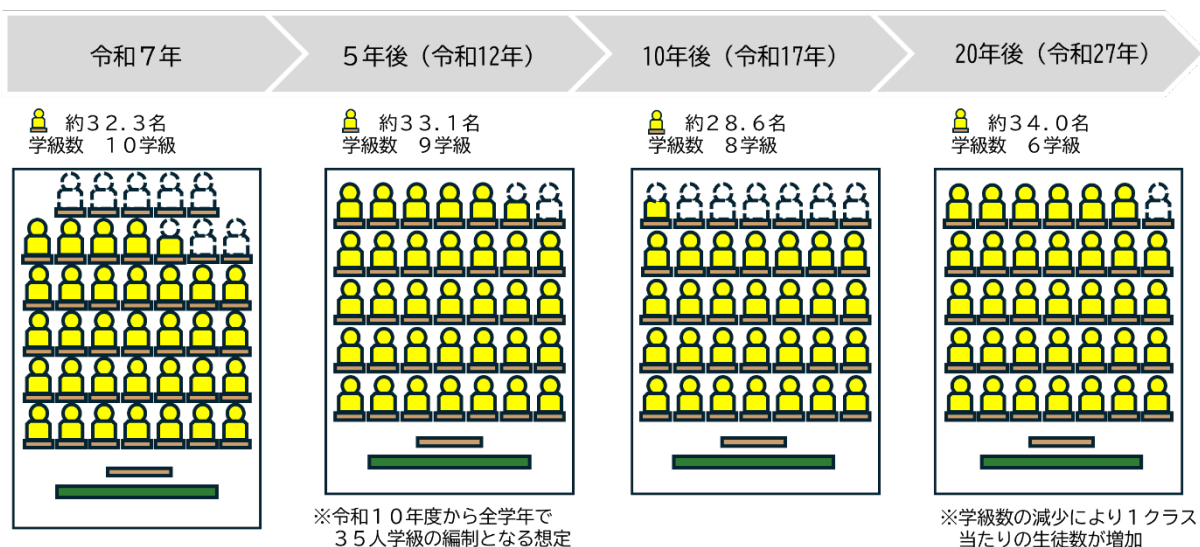
②加須西中学校

ア 生徒数の推移と見込み

- 生徒数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約7割まで減少した。今後も減少傾向は続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約6割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の12学級から令和7年の10学級へと減少した。令和27年には、さらに6学級まで減少する見通しである。



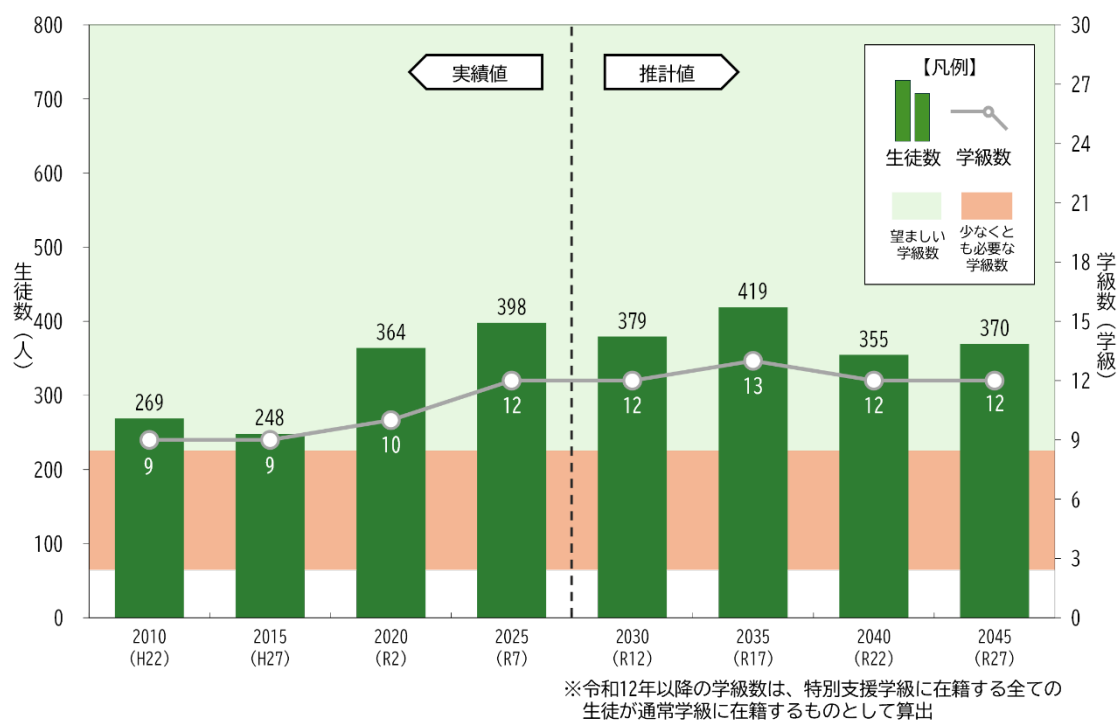
イ 1クラス当たりの生徒数見込み



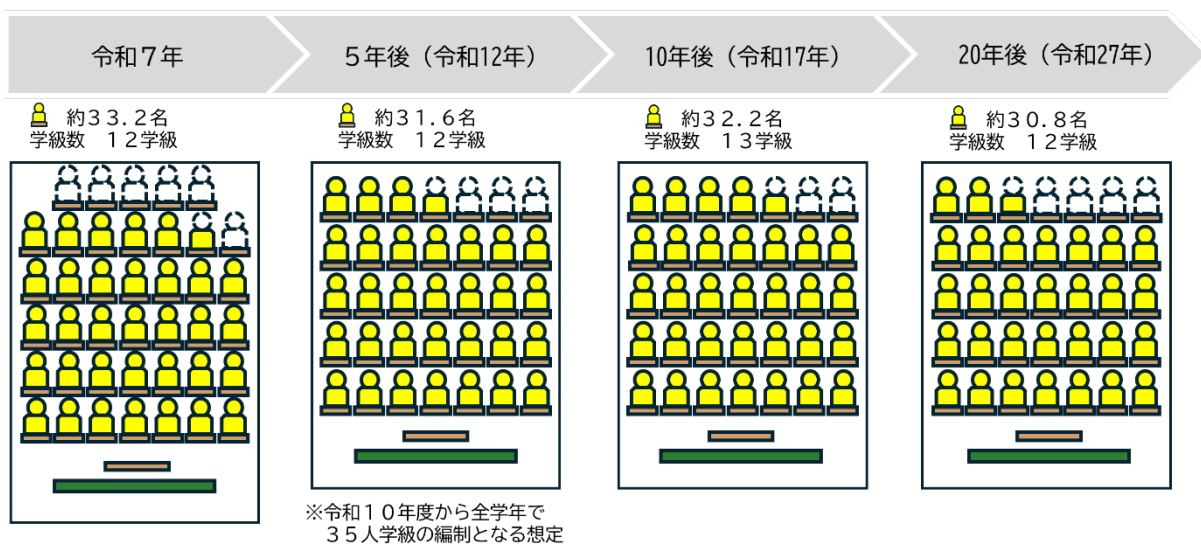
③加須東中学校

ア 生徒数の推移と見込み

- 生徒数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約1.5倍に増加した。今後は、増減を繰り返しながら緩やかに減少し、令和27年（20年後）には令和7年の約9割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の9学級から令和7年には12学級へと増加した。今後は、令和27年にかけて12学級を維持する見通しである。



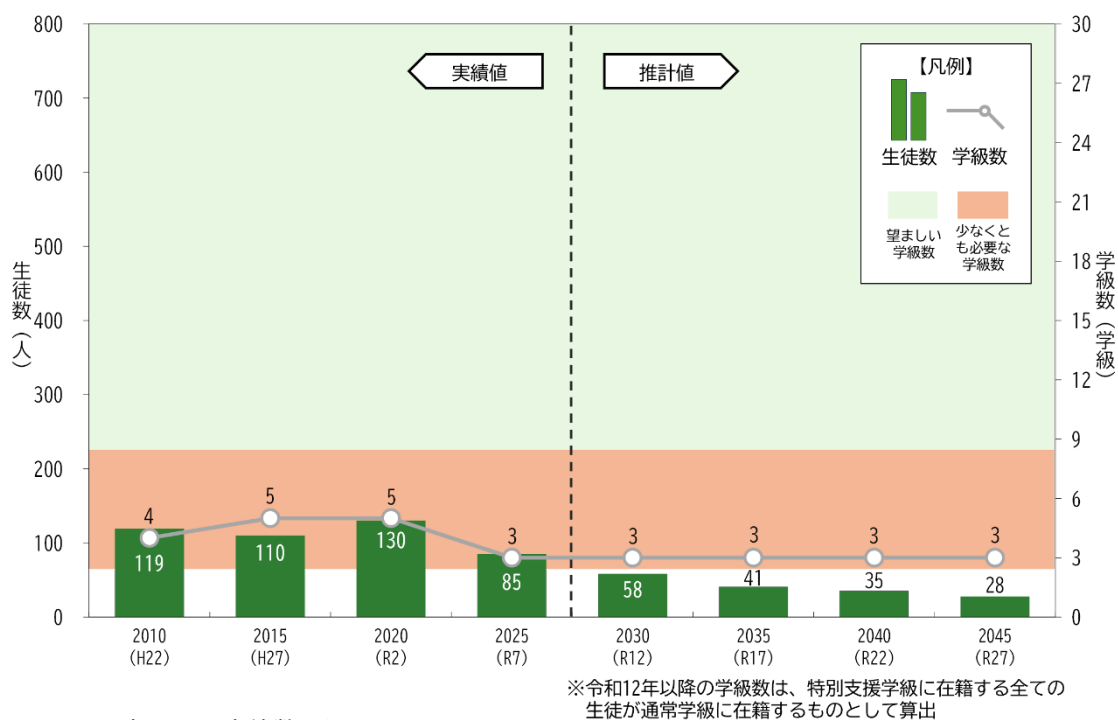
イ 1クラス当たりの生徒数見込み



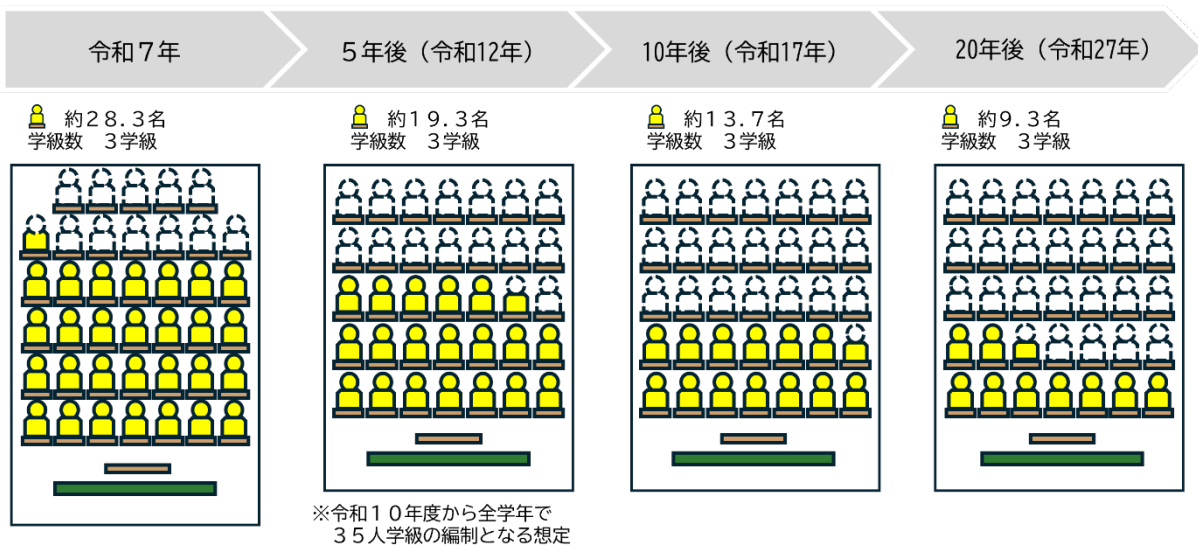
④加須北中学校

ア 生徒数の推移と見込み

- ・ 生徒数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約7割まで減少した。今後も減少傾向は続き、令和27年（20年後）には、全校生徒数が30人を下回る可能性がある。
- ・ 通常学級数は、平成22年の4学級から令和7年には3学級へと減少した。今後も生徒数は減少するものの、令和27年にかけて3学級を維持し、全学年が単学級の状態が続く見通しである。



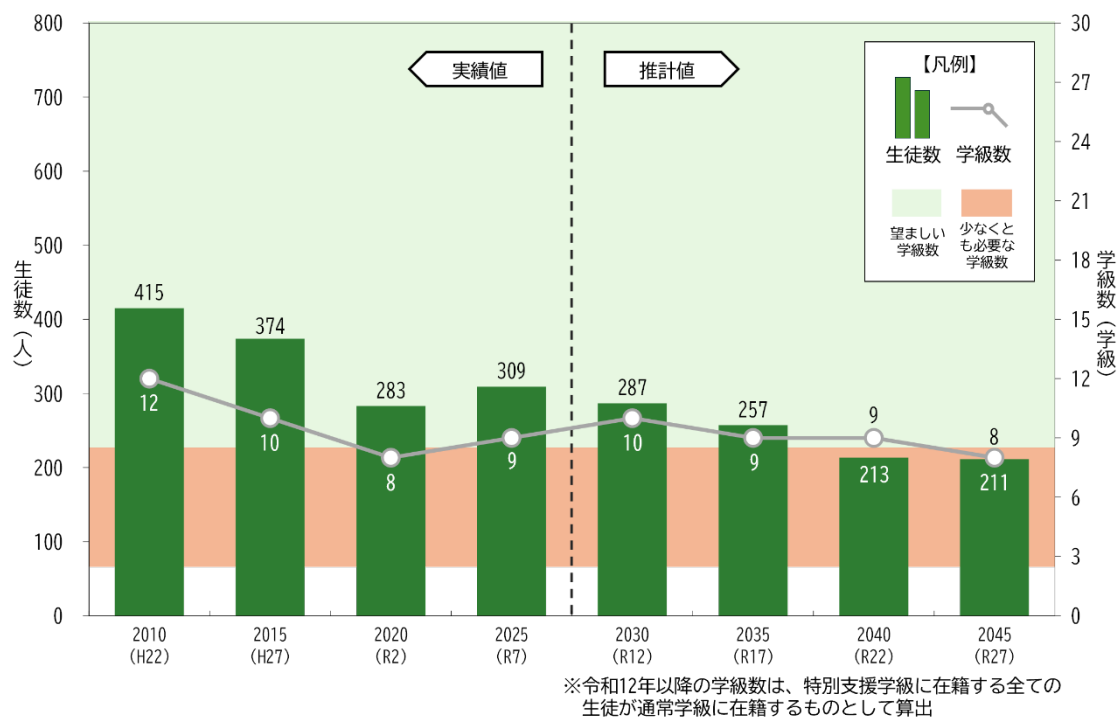
イ 1クラス当たりの生徒数見込み



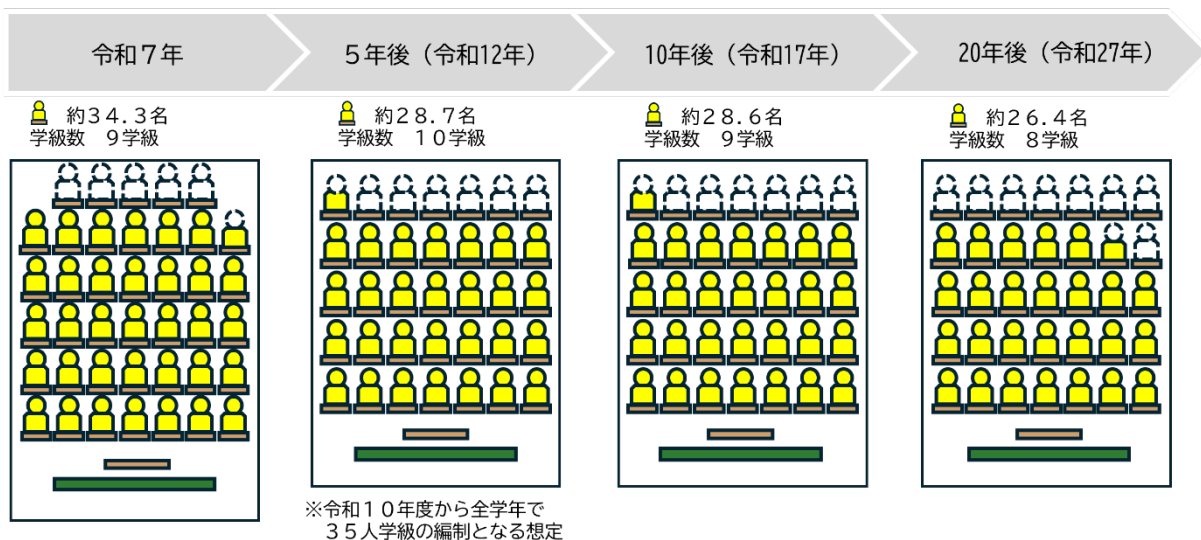
⑤加須平成中学校

ア 生徒数の推移と見込み

- ・ 生徒数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約7割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には、令和7年の約7割の水準となる見込みである。
- ・ 通常学級数は、平成22年の12学級から令和7年の9学級へと減少した。令和27年には、さらに8学級まで減少する見通しである。



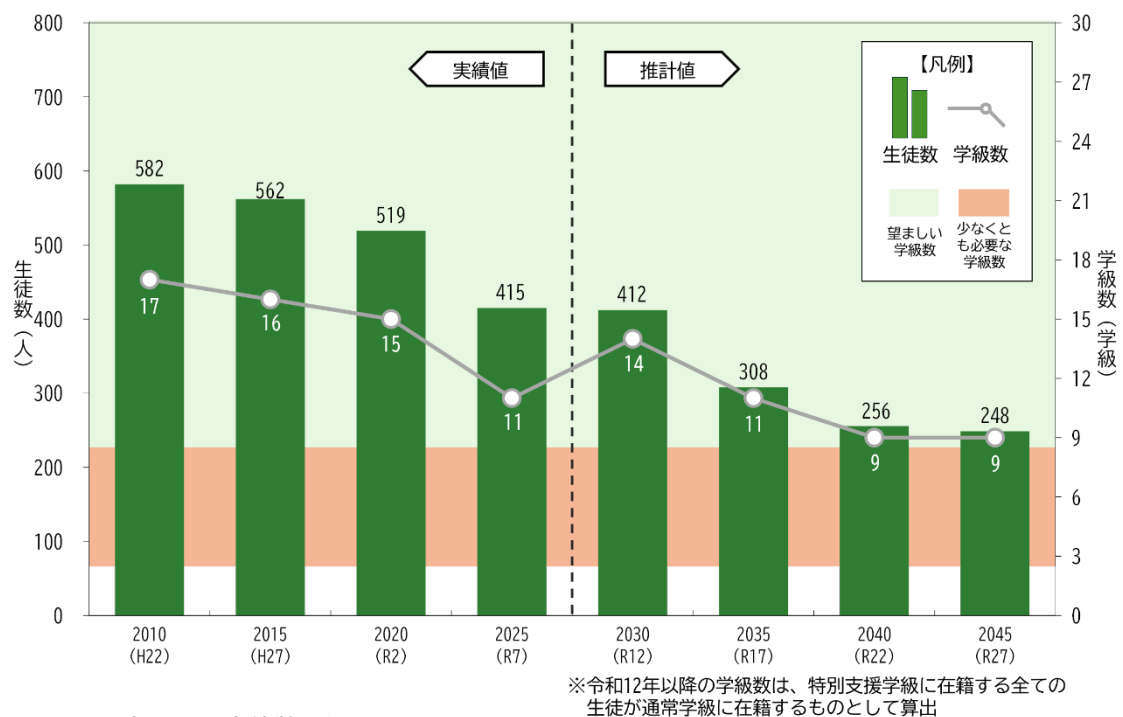
イ 1クラス当たりの生徒数見込み



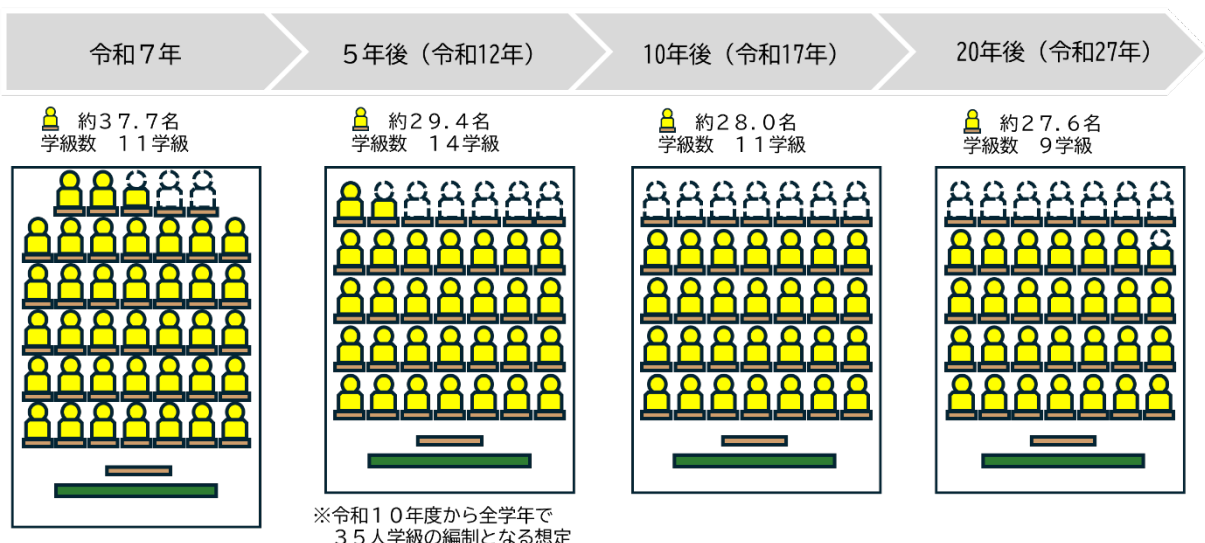
⑥騎西中学校

ア 生徒数の推移と見込み

- 生徒数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約7割まで減少した。今後も減少傾向が続く、令和27年（20年後）には、令和7年の約6割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の17学級から令和7年には11学級へと減少した。令和27年には、さらに9学級まで減少する見通しである。



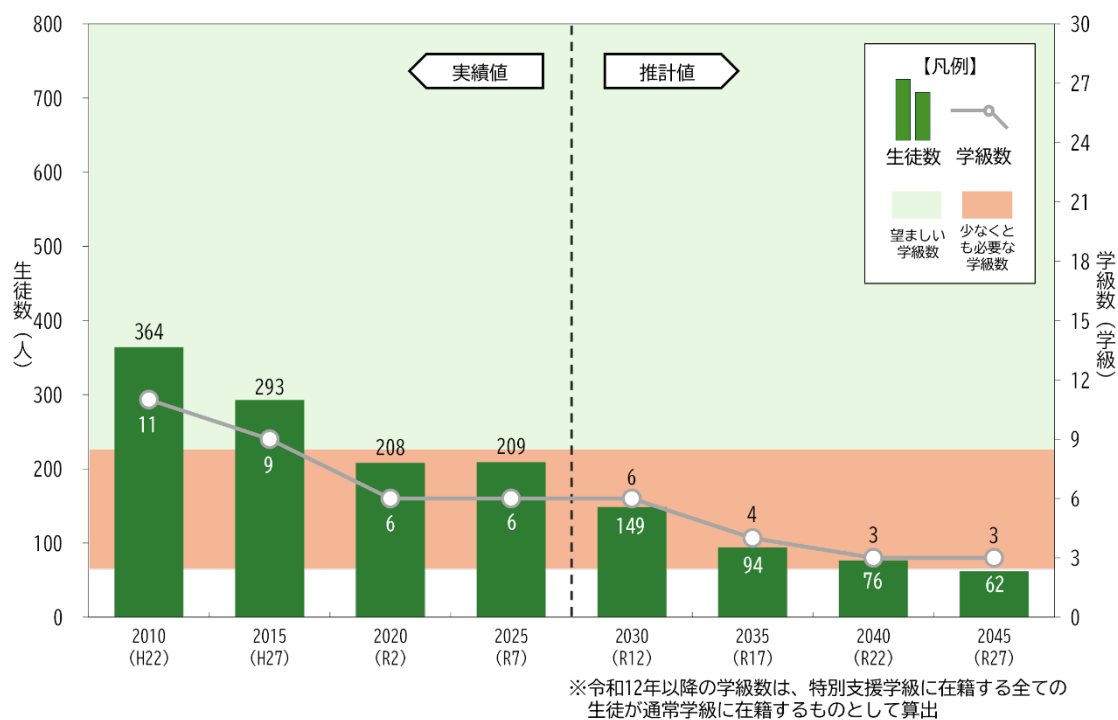
イ 1クラス当たりの生徒数見込み



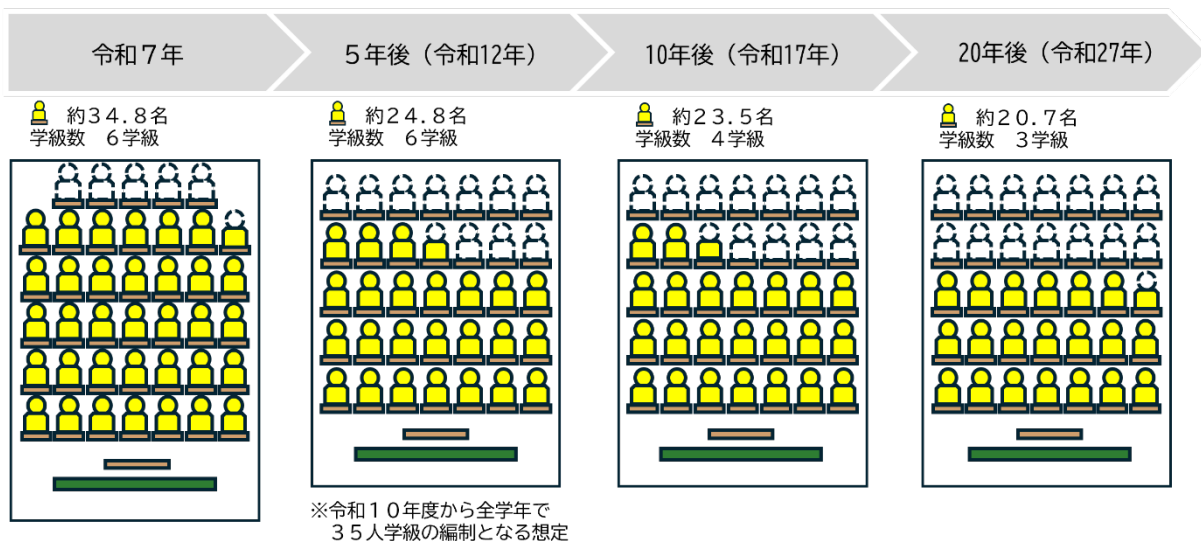
⑦北川辺中学校

ア 生徒数の推移と見込み

- ・ 生徒数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約6割まで減少した。今後も減少傾向が続き、令和27年（20年後）には令和7年の約3割の水準となる見込みである。
- ・ 通常学級数は、平成22年の11学級から令和7年には6学級へと減少した。令和22年（15年後）には、さらに3学級に減少し、全学年が単学級となる見通しである。



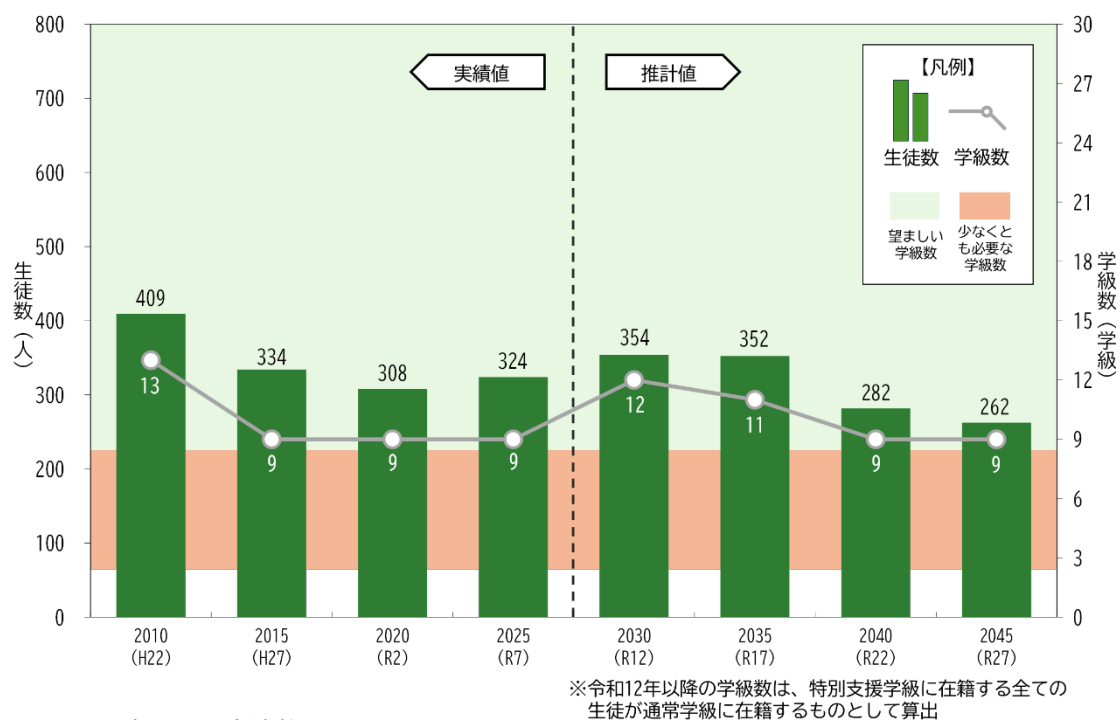
イ 1クラス当たりの生徒数見込み



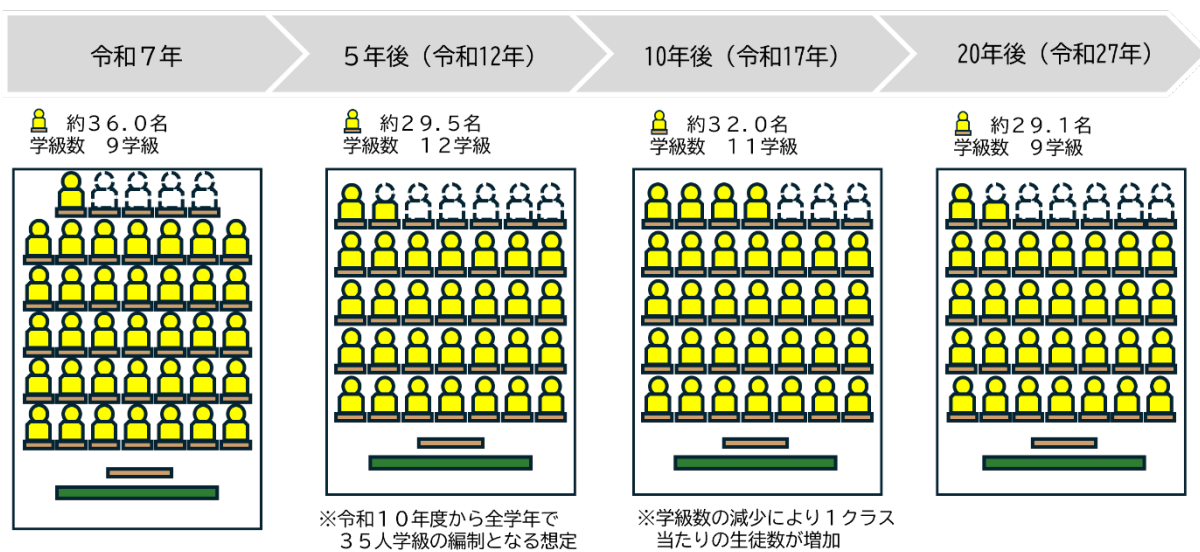
⑧大利根中学校

ア 生徒数の推移と見込み

- 生徒数は、平成22年（15年前）から令和7年にかけて約8割の減少した。今後は、しばらく増加した後減少に転じ、令和27年（20年後）には、令和7年の約8割の水準となる見込みである。
- 通常学級数は、平成22年の13学級から令和7年の9学級へと減少した。今後は、しばらく増加が見込まれるが、令和22年（15年後）以降は9学級を維持する見通しである。



イ 1クラス当たりの生徒数見込み



学校再編の対象となる学校や実施時期、学校形態など学校再編の具体の整理に当たっては、学校の持続可能性といった観点から全市的視野をもって検討する必要があります。

このため、学校再編の優先順位を見える化した上で、学校単位（点）で捉えるのではなく、いくつかの学校区をまとめたブロック（面）で捉え、学校再編の具体を整理します。

1 優先順位を見える化するための指標

基本方針で定めた「学校規模の方針」では、「望ましい学級数の目安」を目指しつつも、「少なくとも必要な学級数の目安」を重視し、今後20年を見据えた持続可能な学校規模を検討するとしています。

この考え方のもと優先順位を見える化するに当たり、「少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数の指標」と「優先順位の指標」を設定します。

少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数の指標

「少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数の指標」の設定に際しては、1学級当たりの児童生徒数の下限人数（※1）を設けることとします。

「少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数の指標」は、以下のとおり、この下限人数に学校規模の方針で設定した学級数（※2）を乗じて求めた人数とし、少なくとも必要な児童生徒数の指標は「小学校120人以上、中学校90人以上」、望ましい児童生徒数の指標は「小学校240人以上、中学校270人以上」とします。

少なくとも必要な児童生徒数の指標	小学校 120人以上（下限人数20人×6学級以上） 中学校 90人以上（下限人数30人×3学級以上）
望ましい児童生徒数の指標	小学校 240人以上（下限人数20人×12学級以上） 中学校 270人以上（下限人数30人×9学級以上）

※1 1学級当たりの児童生徒数の下限人数は、これまで実施した「児童生徒アンケート調査」（令和7年）や「校長・教員アンケート調査」（令和8年）等の結果（詳細は9～10ページ参照）を踏まえ、「小学校20人、中学校30人」とします。

※2 学校規模の方針で設定した学級数（4ページ参照）は、少なくとも必要な学級数の目安「小学校6学級以上、中学校3学級以上」、望ましい学級数の目安「小学校12学級以上、中学校9学級以上」です。

優先順位の指標

「優先順位の指標」については、複式学級の編制状況や少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数を基に以下のとおり、検討の優先度が高い順に5段階で設定します。

第1優先	<u>既に複式学級の編制となっている学校</u> ➡早期に検討が必要な学校
第2優先	<u>今後、複式学級の編制が見込まれる学校</u> <u>現中学校区内の全ての小学校の優先順位が第2優先以上となる中学校</u> ➡今後、検討が必要な学校
第3優先	<u>少なくとも必要な学級数（小学校6学級以上、中学校3学級以上）は維持するも、少なくとも必要な児童生徒数を下回る学校</u> ➡児童生徒数の動向や保護者・地域の声を注視し、検討の必要性を見極める学校
第4優先	<u>20年後も少なくとも必要な児童生徒数以上を維持する学校</u> ➡今後、小学校の全学年が単学級となり、児童生徒数の動向や保護者・地域の声を注視していく学校
第5優先	<u>20年後も望ましい児童生徒数をほぼ維持する学校</u> ➡今後も望ましい児童生徒数の維持が見込まれる学校

2 再編案を検討するためのブロック化

「少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数の指標」及び「優先順位の指標」に基づき学校再編の具体を整理するため、学校再編ブロックを設定します。

学校再編ブロックの設定に当たっては、加須市教育委員会の諮問機関である「加須市魅力ある学校づくり審議会」において、市域全体をいくつかのブロックに分ける際の考え方などについて意見を交わし、様々な視点から候補案の協議を重ねてきました。

こうした協議を踏まえ、現時点における学校再編ブロックの候補案を整理しました。

候補案は、次項の「3 ブロック内優先順位」で示す候補案①から④のブロック図のとおりです。

骨子案に対する意見募集によりこの4つの候補案に関する意見等を伺い、それらを踏まえつつ、「こどもたちへの影響」「地域性、地域コミュニティとの結びつき」「学校の持続可能性」など、総合的な観点から学校再編ブロックを設定します。

なお、ブロックの設定は、ブロックごとに学校再編の具体を整理するため行うものであり、同一のブロック内の学校を一つに再編することを前提としたものではありません。

3 ブロック内優先順位

学校再編ブロックの候補案それぞれのブロック図及びブロック内優先順位については以下のとおりです。

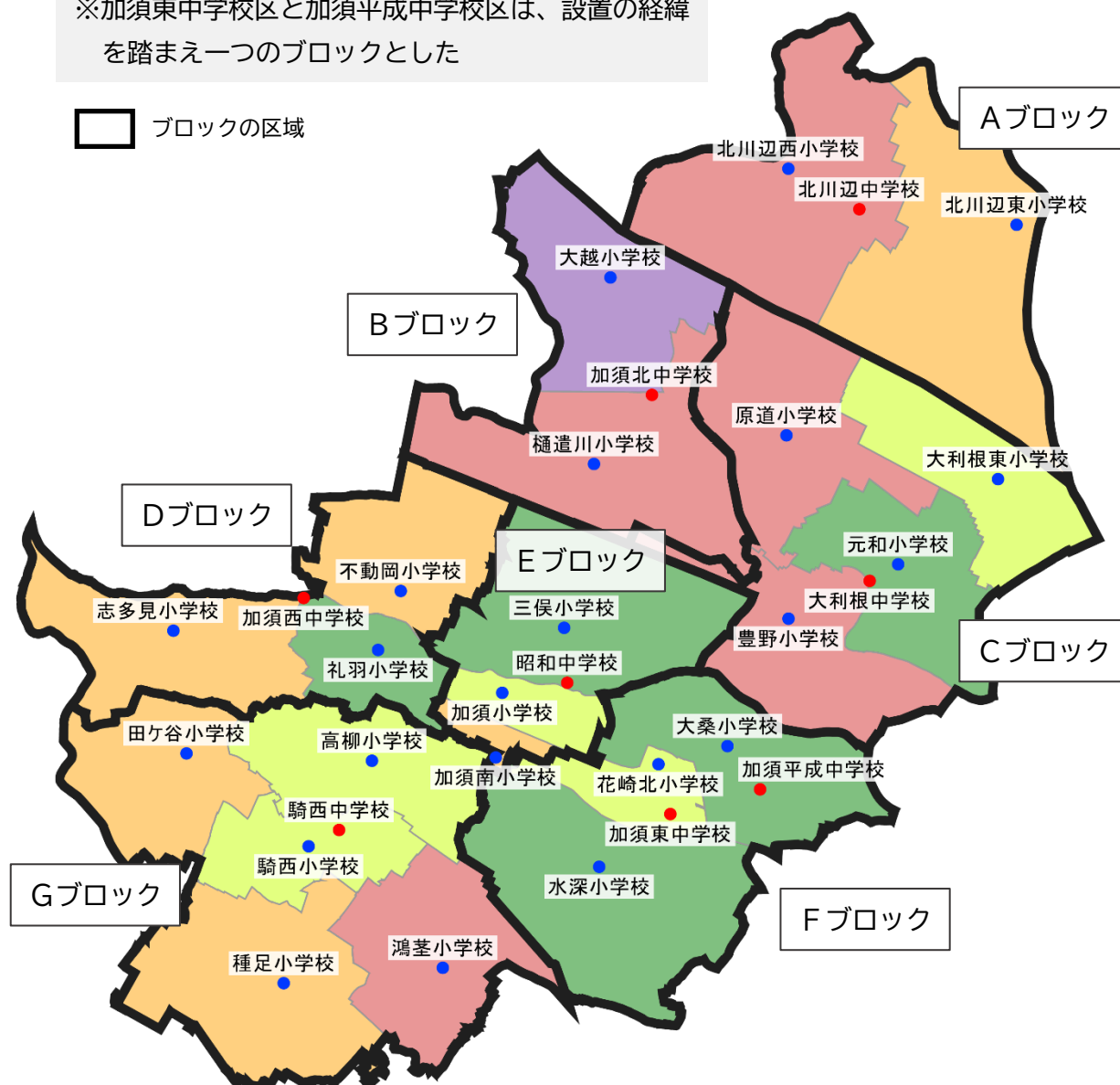
なお、再編の方法や実施時期、学校形態など学校再編の具体については、骨子案に対する意見募集後に次項の「4 ブロック別再編案」で整理します。

【ブロック図（学校再編ブロック候補案① A～Gの7ブロック）】

候補案①の特徴

- ・現在の中学校区をベースとしてブロックを設定
- ※加須東中学校区と加須平成中学校区は、設置の経緯を踏まえ一つのブロックとした

□ ブロックの区域



ブロックの設定は、ブロックごとに学校再編の具体を整理するため行うものであり、同一のブロック内の学校を一つに再編することを前提としたものではありません。

【ブロック内優先順位（学校再編ブロック候補案①）】

ブロック	学校	児童生徒数				学級数				優先順位
		R7	R12	R17	R27	R7	R12	R17	R27	
A	北川辺西小学校	148	96	63	41	6	6	6	4	第2優先
	北川辺東小学校	145	116	93	66	6	6	6	6	第3優先
	小学校計	293	212	156	107	12	12	12	10	—
	北川辺中学校	209	149	94	62	6	6	4	3	第3優先
	ブロック計	502	361	250	169	18	18	16	13	—
B	樋遣川小学校	85	68	50	44	6	6	5	4	第2優先
	大越小学校	38	18	15	8	4	3	3	3	第1優先
	小学校計	123	86	65	52	10	9	8	7	—
	加須北中学校	85	58	41	28	3	3	3	3	第2優先
	ブロック計	208	144	106	80	13	12	11	10	—
C	大利根東小学校	213	188	158	152	7	8	6	6	第4優先
	原道小学校	91	52	30	14	6	5	3	3	第2優先
	豊野小学校	82	66	57	33	6	6	6	4	第2優先
	元和小学校	321	441	350	308	13	16	12	12	第5優先
	小学校計	707	747	595	507	32	35	27	25	—
	大利根中学校	324	354	352	262	9	12	11	9	第5優先
	ブロック計	1,031	1,101	947	769	41	47	38	34	—
D	不動岡小学校	187	134	120	76	7	6	6	6	第3優先
	礼羽小学校	290	258	243	231	12	11	12	12	第5優先
	志多見小学校	95	91	75	60	6	6	6	6	第3優先
	小学校計	572	483	438	367	25	23	24	24	—
	加須西中学校	323	298	229	204	10	9	8	6	第4優先
	ブロック計	895	781	667	571	35	32	32	30	—
E	加須小学校	367	296	235	172	12	12	12	6	第4優先
	三俣小学校	510	467	403	374	16	17	13	12	第5優先
	加須南小学校	152	88	63	57	6	6	6	6	第3優先
	小学校計	1,029	851	701	603	34	35	31	24	—
	昭和中学校	592	520	412	340	15	17	13	12	第5優先
	ブロック計	1,621	1,371	1,113	943	49	52	44	36	—
F	水深小学校	639	698	606	533	20	23	18	18	第5優先
	花崎北小学校	227	221	203	194	8	10	8	6	第4優先
	大桑小学校	472	405	378	378	15	14	12	12	第5優先
	小学校計	1,338	1,324	1,187	1,105	43	47	38	36	—
	加須東中学校	398	379	419	370	12	12	13	12	第5優先
	加須平成中学校	309	287	257	211	9	10	9	8	第4優先
	中学校計	707	666	676	581	21	22	22	20	—
	ブロック計	2,045	1,990	1,863	1,686	64	69	60	56	—
G	騎西小学校	199	193	178	174	8	9	6	6	第4優先
	田ヶ谷小学校	129	70	61	56	6	6	6	6	第3優先
	種足小学校	118	76	63	49	6	6	6	6	第3優先
	鴻荃小学校	84	57	56	47	6	5	6	5	第2優先
	高柳小学校	228	211	152	146	11	10	6	6	第4優先
	小学校計	758	607	510	472	37	36	30	29	—
	騎西中学校	415	412	308	248	11	14	11	9	第4優先
	ブロック計	1,173	1,019	818	720	48	50	41	38	—

少なくとも必要な児童生徒数を下回る

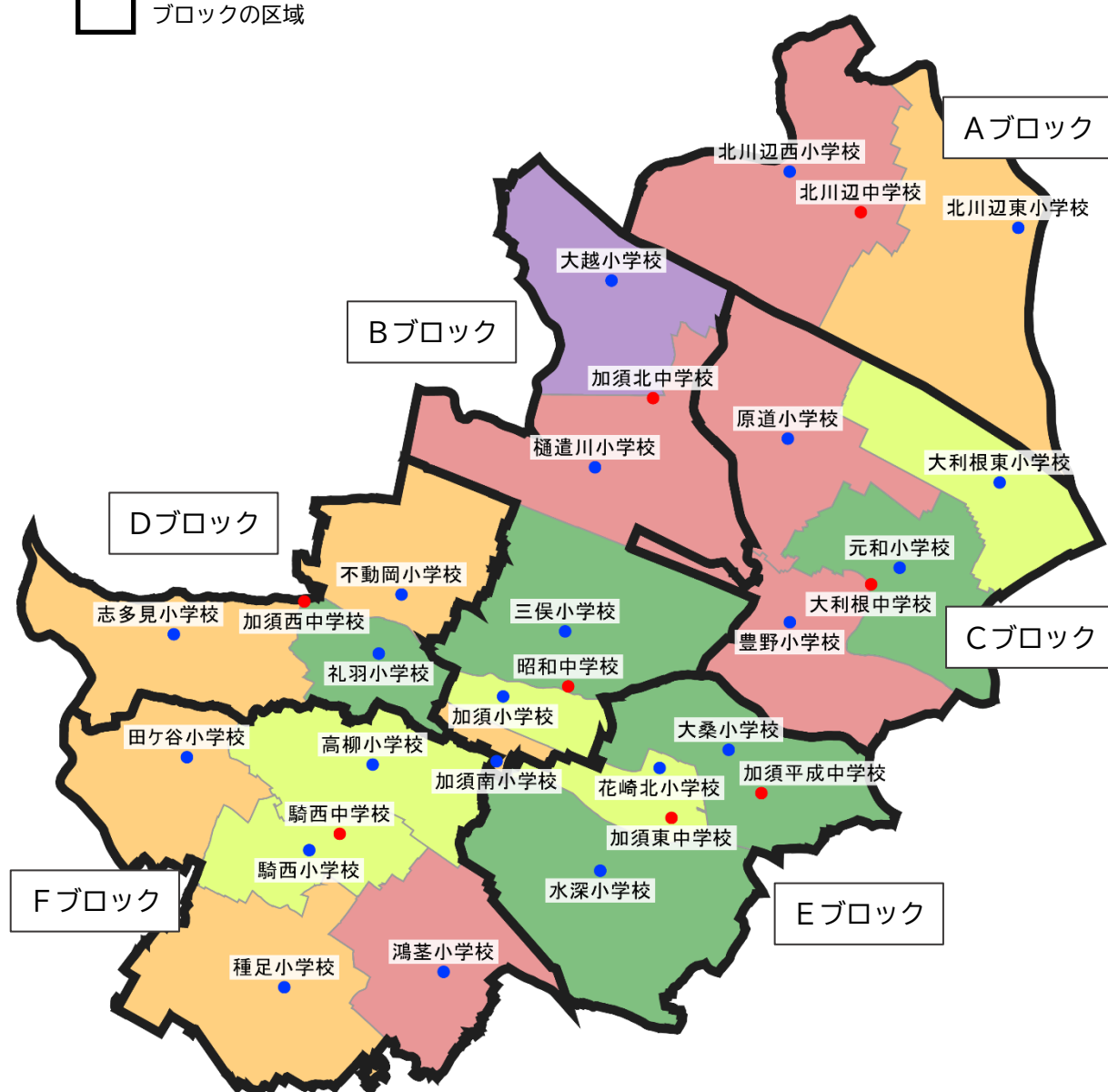
複式学級の編制となる

【ブロック図（学校再編ブロック候補案② A～Fの6ブロック）】

候補案②の特徴

- ・ 騎西・北川辺・大利根地域をそれぞれ一つのブロックとして設定
- ・ 加須地域を3つのブロックに分けて設定

 ブロックの区域



ブロックの設定は、ブロックごとに学校再編の具体を整理するため行うものであり、同一のブロック内の学校を一つに再編することを前提としたものではありません。

【ブロック内優先順位（学校再編ブロック候補案②）】

ブロック	学校	児童生徒数				学級数				優先順位
		R7	R12	R17	R27	R7	R12	R17	R27	
A	北川辺西小学校	148	96	63	41	6	6	6	4	第2優先
	北川辺東小学校	145	116	93	66	6	6	6	6	第3優先
	小学校計	293	212	156	107	12	12	12	10	—
	北川辺中学校	209	149	94	62	6	6	4	3	第3優先
	ブロック計	502	361	250	169	18	18	16	13	—
B	加須小学校	367	296	235	172	12	12	12	6	第4優先
	三俣小学校	510	467	403	374	16	17	13	12	第5優先
	加須南小学校	152	88	63	57	6	6	6	6	第3優先
	樋遣川小学校	85	68	50	44	6	6	5	4	第2優先
	大越小学校	38	18	15	8	4	3	3	3	第1優先
	小学校計	1,152	937	766	655	44	44	39	31	—
	昭和中学校	592	520	412	340	15	17	13	12	第5優先
	加須北中学校	85	58	41	28	3	3	3	3	第2優先
	中学校計	677	578	453	368	18	20	16	15	—
	ブロック計	1,829	1,515	1,219	1,023	62	64	55	46	—
C	大利根東小学校	213	188	158	152	7	8	6	6	第4優先
	原道小学校	91	52	30	14	6	5	3	3	第2優先
	豊野小学校	82	66	57	33	6	6	6	4	第2優先
	元和小学校	321	441	350	308	13	16	12	12	第5優先
	小学校計	707	747	595	507	32	35	27	25	—
	大利根中学校	324	354	352	262	9	12	11	9	第5優先
	ブロック計	1,031	1,101	947	769	41	47	38	34	—
D	不動岡小学校	187	134	120	76	7	6	6	6	第3優先
	礼羽小学校	290	258	243	231	12	11	12	12	第5優先
	志多見小学校	95	91	75	60	6	6	6	6	第3優先
	小学校計	572	483	438	367	25	23	24	24	—
	加須西中学校	323	298	229	204	10	9	8	6	第4優先
	ブロック計	895	781	667	571	35	32	32	30	—
E	水深小学校	639	698	606	533	20	23	18	18	第5優先
	花崎北小学校	227	221	203	194	8	10	8	6	第4優先
	大桑小学校	472	405	378	378	15	14	12	12	第5優先
	小学校計	1,338	1,324	1,187	1,105	43	47	38	36	—
	加須東中学校	398	379	419	370	12	12	13	12	第5優先
	加須平成中学校	309	287	257	211	9	10	9	8	第4優先
	中学校計	707	666	676	581	21	22	22	20	—
	ブロック計	2,045	1,990	1,863	1,686	64	69	60	56	—
F	騎西小学校	199	193	178	174	8	9	6	6	第4優先
	田ヶ谷小学校	129	70	61	56	6	6	6	6	第3優先
	種足小学校	118	76	63	49	6	6	6	6	第3優先
	鴻荃小学校	84	57	56	47	6	5	6	5	第2優先
	高柳小学校	228	211	152	146	11	10	6	6	第4優先
	小学校計	758	607	510	472	37	36	30	29	—
	騎西中学校	415	412	308	248	11	14	11	9	第4優先
	ブロック計	1,173	1,019	818	720	48	50	41	38	—

少なくとも必要な児童生徒数を下回る

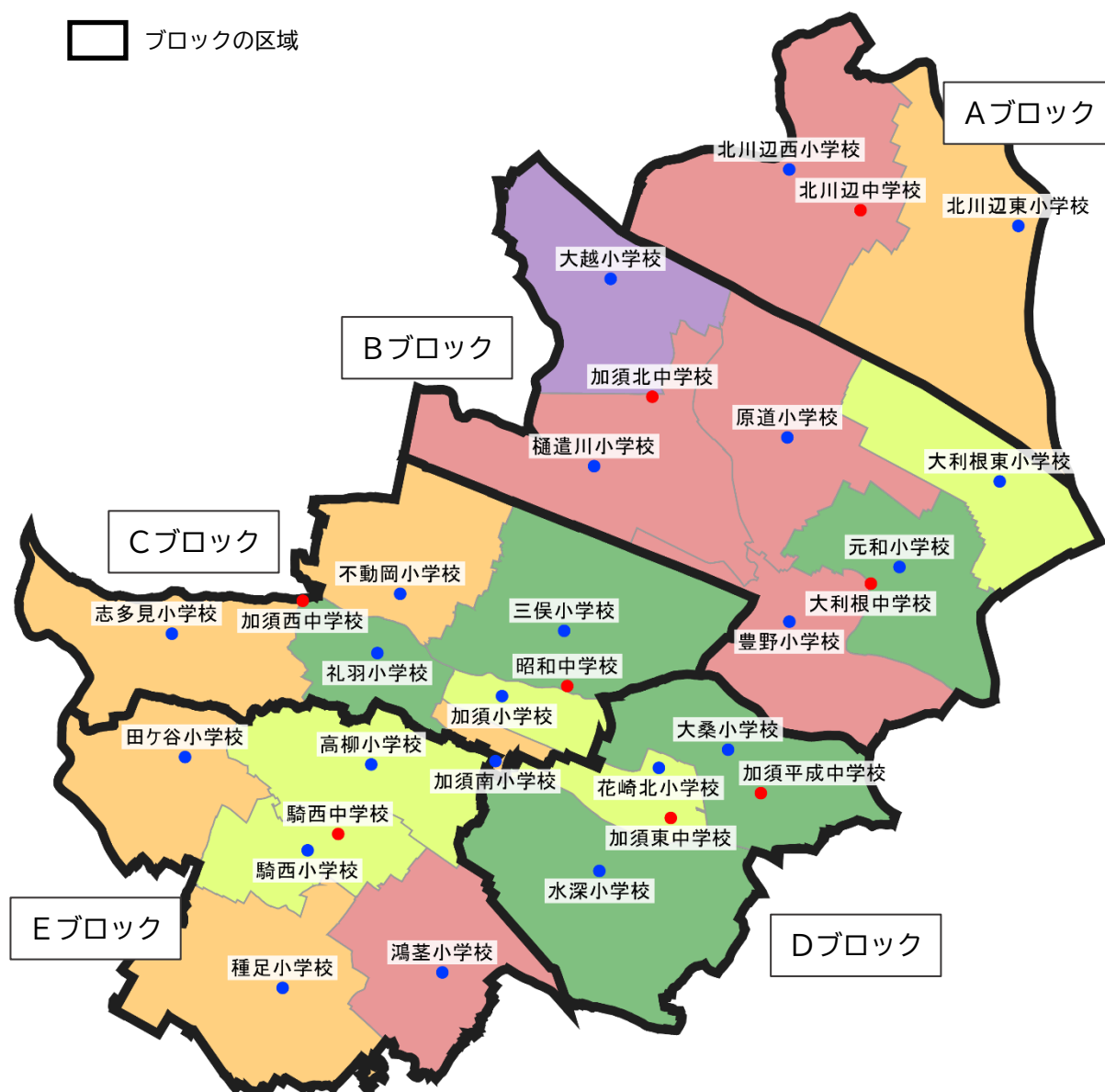
複式学級の編制となる

【ブロック図（学校再編ブロック候補案③ A～Eの5ブロック）】

候補案③の特徴

- ・ 騎西・北川辺地域をそれぞれ1つのブロックとして設定
- ・ 加須地域の一部（加須北中学校区）と大利根地域を1つのブロックとして設定

 ブロックの区域



ブロックの設定は、ブロックごとに学校再編の具体を整理するため行うものであり、同一のブロック内の学校を一つに再編することを前提としたものではありません。

【ブロック内優先順位（学校再編ブロック候補案③）】

ブロック	学校	児童生徒数				学級数				優先順位
		R7	R12	R17	R27	R7	R12	R17	R27	
A	北川辺西小学校	148	96	63	41	6	6	6	4	第2優先
	北川辺東小学校	145	116	93	66	6	6	6	6	第3優先
	小学校計	293	212	156	107	12	12	12	10	—
	北川辺中学校	209	149	94	62	6	6	4	3	第3優先
	ブロック計	502	361	250	169	18	18	16	13	—
B	樋遣川小学校	85	68	50	44	6	6	5	4	第2優先
	大越小学校	38	18	15	8	4	3	3	3	第1優先
	大利根東小学校	213	188	158	152	7	8	6	6	第4優先
	原道小学校	91	52	30	14	6	5	3	3	第2優先
	豊野小学校	82	66	57	33	6	6	6	4	第2優先
	元和小学校	321	441	350	308	13	16	12	12	第5優先
	小学校計	830	833	660	559	42	44	35	32	—
	加須北中学校	85	58	41	28	3	3	3	3	第2優先
	大利根中学校	324	354	352	262	9	12	11	9	第5優先
	中学校計	409	412	393	290	12	15	14	12	—
	ブロック計	1,239	1,245	1,053	849	54	59	49	44	—
C	加須小学校	367	296	235	172	12	12	12	6	第4優先
	三俣小学校	510	467	403	374	16	17	13	12	第5優先
	加須南小学校	152	88	63	57	6	6	6	6	第3優先
	不動岡小学校	187	134	120	76	7	6	6	6	第3優先
	礼羽小学校	290	258	243	231	12	11	12	12	第5優先
	志多見小学校	95	91	75	60	6	6	6	6	第3優先
	小学校計	1,601	1,334	1,139	970	59	58	55	48	—
	昭和中学校	592	520	412	340	15	17	13	12	第5優先
	加須西中学校	323	298	229	204	10	9	8	6	第4優先
	中学校計	915	818	641	544	25	26	21	18	—
	ブロック計	2,516	2,152	1,780	1,514	84	84	76	66	—
D	水深小学校	639	698	606	533	20	23	18	18	第5優先
	花崎北小学校	227	221	203	194	8	10	8	6	第4優先
	大桑小学校	472	405	378	378	15	14	12	12	第5優先
	小学校計	1,338	1,324	1,187	1,105	43	47	38	36	—
	加須東中学校	398	379	419	370	12	12	13	12	第5優先
	加須平成中学校	309	287	257	211	9	10	9	8	第4優先
	中学校計	707	666	676	581	21	22	22	20	—
	ブロック計	2,045	1,990	1,863	1,686	64	69	60	56	—
E	騎西小学校	199	193	178	174	8	9	6	6	第4優先
	田ヶ谷小学校	129	70	61	56	6	6	6	6	第3優先
	種足小学校	118	76	63	49	6	6	6	6	第3優先
	鴻荃小学校	84	57	56	47	6	5	6	5	第2優先
	高柳小学校	228	211	152	146	11	10	6	6	第4優先
	小学校計	758	607	510	472	37	36	30	29	—
	騎西中学校	415	412	308	248	11	14	11	9	第4優先
	ブロック計	1,173	1,019	818	720	48	50	41	38	—

少なくとも必要な児童生徒数を下回る

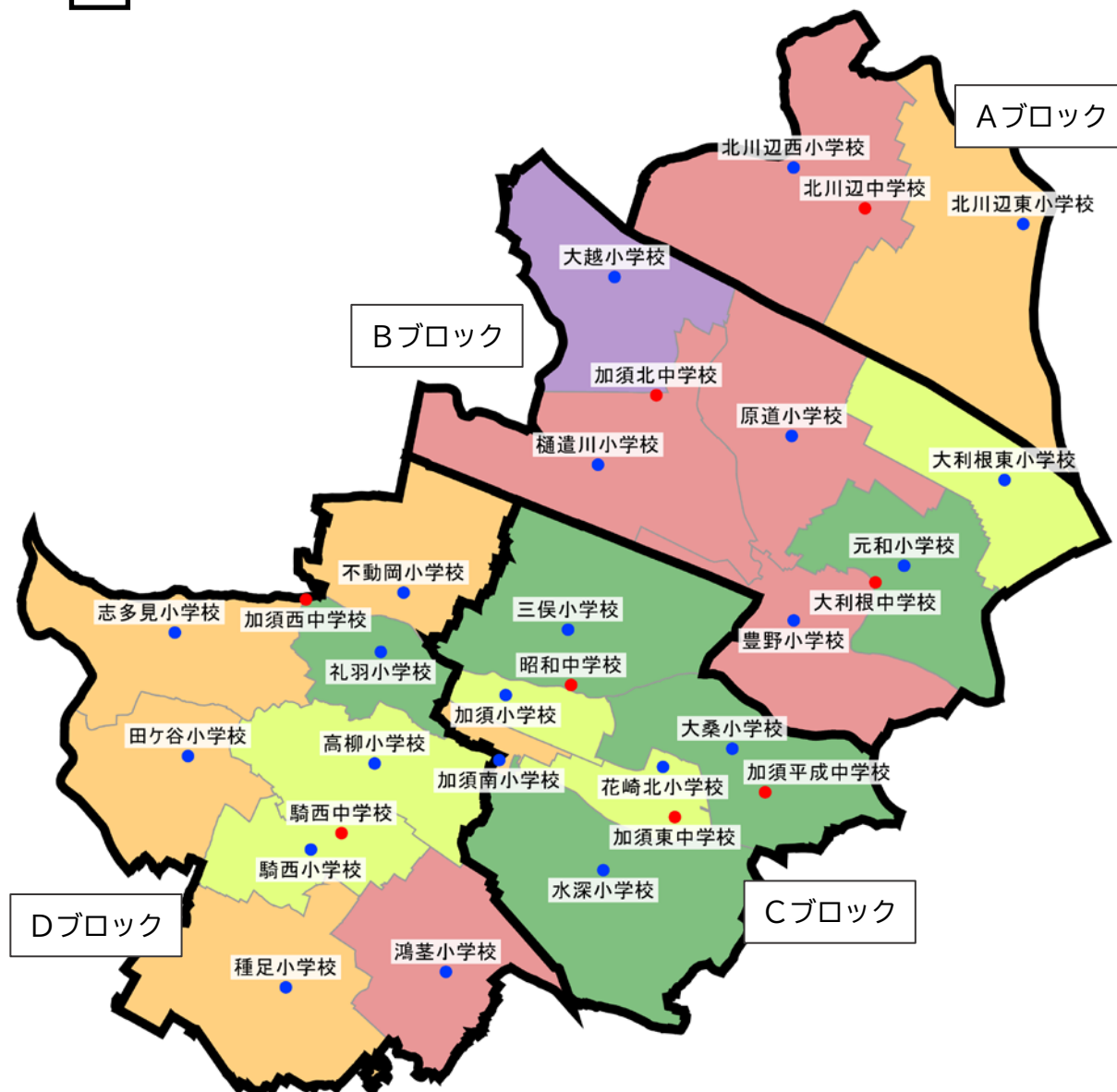
複式学級の編制となる

【ブロック図（学校再編ブロック候補案④ A～Dの4ブロック）】

候補案④の特徴

- ・加須地域の一部（加須北中学校区）と大利根地域、
加須地域の一部（加須西中学校区）と騎西地域、
それぞれを1つのブロックとして設定

 ブロックの区域



ブロックの設定は、ブロックごとに学校再編の具体を整理するため行うものであり、同一のブロック内の学校を一つに再編することを前提としたものではありません。

【ブロック内優先順位（学校再編ブロック候補案④）】

ブロック	学校	児童生徒数				学級数				優先順位
		R7	R12	R17	R27	R7	R12	R17	R27	
A	北川辺西小学校	148	96	63	41	6	6	6	4	第2優先
	北川辺東小学校	145	116	93	66	6	6	6	6	第3優先
	小学校計	293	212	156	107	12	12	12	10	—
	北川辺中学校	209	149	94	62	6	6	4	3	第3優先
	ブロック計	502	361	250	169	18	18	16	13	—
B	樋遭川小学校	85	68	50	44	6	6	5	4	第2優先
	大越小学校	38	18	15	8	4	3	3	3	第1優先
	大利根東小学校	213	188	158	152	7	8	6	6	第4優先
	原道小学校	91	52	30	14	6	5	3	3	第2優先
	豊野小学校	82	66	57	33	6	6	6	4	第2優先
	元和小学校	321	441	350	308	13	16	12	12	第5優先
	小学校計	830	833	660	559	42	44	35	32	—
	加須北中学校	85	58	41	28	3	3	3	3	第2優先
	大利根中学校	324	354	352	262	9	12	11	9	第5優先
	中学校計	409	412	393	290	12	15	14	12	—
	ブロック計	1,239	1,245	1,053	849	54	59	49	44	—
C	加須小学校	367	296	235	172	12	12	12	6	第4優先
	三俣小学校	510	467	403	374	16	17	13	12	第5優先
	加須南小学校	152	88	63	57	6	6	6	6	第3優先
	水深小学校	639	698	606	533	20	23	18	18	第5優先
	花崎北小学校	227	221	203	194	8	10	8	6	第4優先
	大桑小学校	472	405	378	378	15	14	12	12	第5優先
	小学校計	2,367	2,175	1,888	1,708	77	82	69	60	—
	昭和中学校	592	520	412	340	15	17	13	12	第5優先
	加須東中学校	398	379	419	370	12	12	13	12	第5優先
	加須平成中学校	309	287	257	211	9	10	9	8	第4優先
	中学校計	1,299	1,186	1,088	921	36	39	35	32	—
	ブロック計	3,666	3,361	2,976	2,629	113	121	104	92	—
D	不動岡小学校	187	134	120	76	7	6	6	6	第3優先
	礼羽小学校	290	258	243	231	12	11	12	12	第5優先
	志多見小学校	95	91	75	60	6	6	6	6	第3優先
	騎西小学校	199	193	178	174	8	9	6	6	第4優先
	田ヶ谷小学校	129	70	61	56	6	6	6	6	第3優先
	種足小学校	118	76	63	49	6	6	6	6	第3優先
	鴻荃小学校	84	57	56	47	6	5	6	5	第2優先
	高柳小学校	228	211	152	146	11	10	6	6	第4優先
	小学校計	1,330	1,090	948	839	62	59	54	53	—
	加須西中学校	323	298	229	204	10	9	8	6	第4優先
	騎西中学校	415	412	308	248	11	14	11	9	第4優先
	中学校計	738	710	537	452	21	23	19	15	—
	ブロック計	2,068	1,800	1,485	1,291	83	82	73	68	—

少なくとも必要な児童生徒数を下回る

複式学級の編制となる

4 ブロック別再編案

骨子案に対する意見募集後に整理

1 児童生徒等への配慮

2 安全・安心な通学環境の確保

骨子案に対する意見募集後に整理

3 教育における地域と学校の連携

4 地域における拠点機能の継承

5 保護者・地域住民との合意形成

骨子案に対する意見募集後に整理

1 基本計画策定後の流れ

骨子案に対する意見募集後に整理

2 学校再編の進め方

骨子案に対する意見募集後に整理